資　料　編

目　次【資料編】

■1 環境行政全般　130

(1)環境行政のあゆみ ……130

(2)環境保全に係る行政組織 ……130

(3)環境関係各種審議会 ……131

(4)環境年表 ……134

■2 大気関係　141

(1)大気汚染常時監視局・測定結果一覧 ……141

(2)ばい煙・粉じん発生施設設置状況(法律) ……146

(3)ばい煙・粉じん発生施設設置状況(条例) ……147

■3 水質関係　148

(1)健康項目測定地点数(河川) ……148

(2)健康項目測定結果(河川) ……148

(3)河川水質の環境基準達成状況 ……149

(4)各河川の概況及び水質 ……150

(5)健康項目測定地点数(海域) ……161

(6)健康項目測定結果(海域) ……161

(7)海域水質の環境基準達成状況 ……162

(8)与那覇湾・伊佐海域の水質の経年変化……163

(9)各海域の概況及び水質 ……163

(10)主要水浴場水質調査結果 ……170

(11)魚類のへい死事故……172

(12)県内の公共用水域で発生した魚類へい死事故の原因(過去5年分) ……173

(13)水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定状況……174

(14)水質汚濁防止法の特定事業場数(各保健所別) ……177

(15)水質汚濁防止法に基づく改善命令等の発動状況 ……178

■4 化学物質関係（ダイオキシン類）　179

(1)大気環境 ……179

(2)公共用水域(水質、底質) ……179

(3)地下水 ……179

(4)土壌(一般環境・発生源周辺) ……179

■5 騒音・振動・悪臭関係　180

(1)騒音規制法に基づく特定施設の届出状況 ……180

(2)騒音規制法に基づく特定建設作業の届出状況 180

(3)自動車交通騒音測定結果(市町村実施) ……181

(4)自動車交通騒音測定結果(面的評価) ……182

(5)振動規制法に基づく特定施設の届出状況 ……183

(6)振動規制法に基づく特定建設作業の届出状況 183

■6 土壌・地下水・地盤関係　184

(1)地下水質測定結果(概況調査) ……184

(2)地下水質測定結果(継続監視調査) ……185

■7 赤土関係　186

(1)懸濁物質含量(SPSS)測定結果(定点観測調査結果) ……186

(2)サンゴ調査結果概要(定点観測調査結果) ……187

(3)懸濁物質含量(SPSS)測定結果(重点監視海域調査結果) ……188

(4)環境保全目標の達成状況 ……190

(5)赤土等に係る環境保全目標類型 ……191

■8 基地公害関係　192

(1)在日日軍施設・区域環境調査(基地排水調査結果) ……192

(2)在日日軍施設・区域環境調査
（地下水調査結果）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・198
(3)在日日軍施設・区域環境調査
（公共用水域調査結果）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199
(4)基地周辺公共用水域監視調査
（公共用水域調査結果）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・203
(5)基地周辺公共用水域測定(地下水調査結果)・・207
(6)米軍基地周辺公共用水域監視調査
（底質分析結果）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
(7)米軍基地周辺公共用水域監視調査
（魚類分析結果）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
(8)基地周辺公共用水域監視調査
（ダイオキシン類底質分析結果）・・・・・・・・・・・・・・209
(9)嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺航空機
騒音調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・210
(10)環境放射能調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・213

■9 廃棄物関係 217
(1)粗大ごみ処理施設整備状況・・・・・・・・・・・・・・・・217
(2)一般廃棄物最終処分場整備状況・・・・・・・・・・・・217
(3)廃棄物再生利用施設整備状況・・・・・・・・・・・・・・218
(4)し尿処理施設整備状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・218

■10 自然環境関係 219
(1)自然環境保全基礎調査一覧・・・・・・・・・・・・・・・219
(2)沖縄県自然環境保全地域の概要・・・・・・・・・・・・220
(3)温泉利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・221
(4)特殊鳥類等生息環境調査・・・・・・・・・・・・・・・・・222
(5)国指定鳥獣保護区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・222
(6)県指定鳥獣保護区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・223
(7)鳥獣保護区位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・224
(8)傷病鳥獣救護事業実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
(9)鳥獣保護員の配置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・225
(10)野生鳥獣飼養登録状況・・・・・・・・・・・・・・・・・225
(11)国内希少野生動植物種・・・・・・・・・・・・・・・・・226
(12)狩猟免状取得状況及び狩猟者登録状況・・・・227
(13)狩猟免状交付件数の内訳・・・・・・・・・・・・・・・227
(14)有害鳥獣捕獲実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・227
(15)オニヒトデの駆除実績・・・・・・・・・・・・・・・・・228
(16)本県の自然公園の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・229
(17)市町村別自然公園面積・・・・・・・・・・・・・・・・・231
(18)自然公園施設等状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・232
(19)自然公園区域における許認可等の状況・・・・・・233
(20)自然公園利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・233

■11 共通的・基盤的施策関係 234
(1)環境影響評価の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・234
(2)公害苦情の受付状況等・・・・・・・・・・・・・・・・・・236
(3)沖縄県公害審査会に係属した事件一覧・・・・・・238

■12 用語の解説 240

■13 環境についての問い合わせ先 251
(1)県の機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・251
(2)市町村環境担当部署一覧・・・・・・・・・・・・・・・・252

1　環境行政全般

（１）環境行政のあゆみ

昭和47年５月15日　本土復帰により、沖縄県庁が発足。

昭和48年４月　企画部に環境保全室を新設。同室において公害行政の総合企画及び調整並びに自然保護行政を所管。公害の監視指導については厚生部環境衛生課（公害係）が所管。

昭和49年４月　環境保健部を設置。企画部環境保全室と厚生部環境衛生課（公害係）を廃止し、新設された環境保健部に環境保全課、公害規制課、自然保護課を設置。

昭和50年４月　環境整備課の新設。環境保全課と公害規制課を統合して公害対策課に改称。

昭和58年４月　環境整備課が廃止。環境整備課環境整備係は公害対策課に移管。

昭和60年４月　環境整備係を環境衛生課へ移管。

平成５年４月　公害対策課を環境保全課へ、環境衛生課を生活衛生課へ改称。

平成８年４月　環境保全課を環境保全室へ改称。

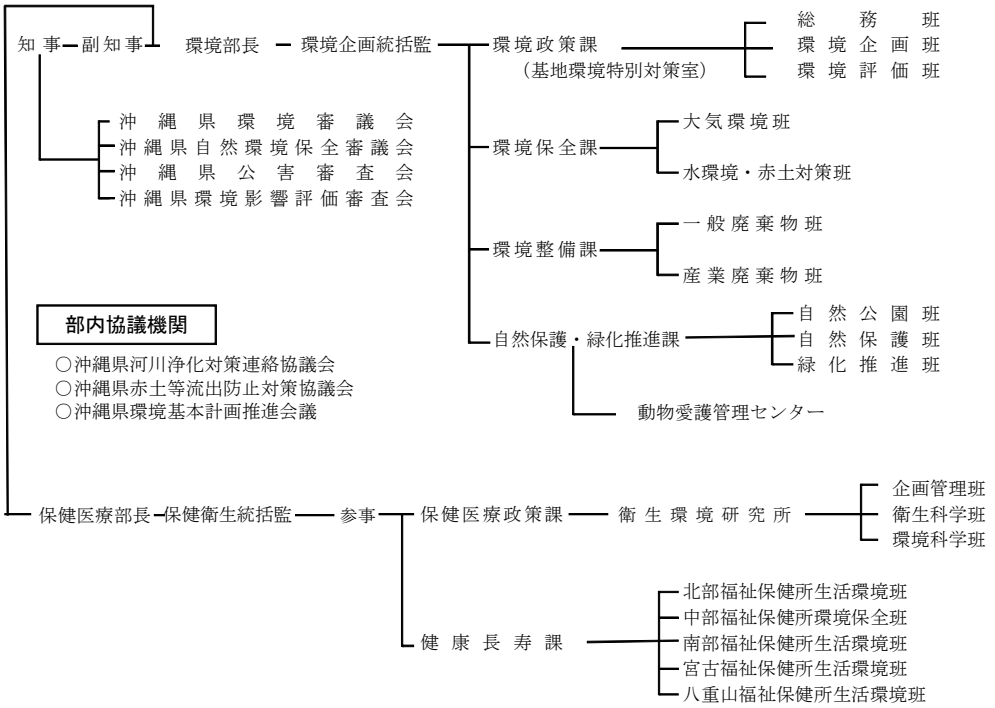
平成10年４月　環境保健部を福祉保健部と文化環境部へ再編。福祉保健部には薬務衛生課、文化環境部には環境保全室、自然保護課及び廃棄物対策課を設置。

平成13年４月　環境保全室を環境政策課と環境保全課へ改組。廃棄物対策課を環境整備課へ改称。

平成23年４月　文化環境部を環境生活部に再編。

平成26年４月　環境生活部を環境部と保健医療部及び子ども生活福祉部へ再編。基地環境特別対策室を設置。自然保護課を自然保護・緑化推進課へ再編。

（２）環境保全に係る行政組織（平成26年４月１日現在）



（３）環境関係各種審議会

ア　沖縄県環境審議会

沖縄県環境審議会は、県における公害対策に関する基本的事項を調査審議するため、環境基本法（平成５年法律第91号）第43条第２項及び沖縄県環境審議会条例（昭和47年条例第103号）に基づき設置されています。

委員は、学識経験者５名、公益代表者３名、住民代表者２名、産業界代表者４名及び行政関係者２名の計16名が選任されています。

イ　沖縄県自然環境保全審議会

沖縄県自然環境保全審議会は、自然環境保全法（昭和47年法律第85号）第51条及び沖縄県自然環境保全審議会条例（昭和48年沖縄県条例第55号）に基づき設置されています。審議事項は、自然公園法、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、温泉法、沖縄県自然環境保全条例、沖縄県自然公園条例の規定によりその権限に属せられた事項及び自然環境の保全に関する重要事項です。審議会組織は、学識経験者及び住民代表からなる15名の委員で構成し、自然環境・鳥獣部会、自然公園・温泉部会の２各部会があります。

ウ　沖縄県公害審査会

沖縄県公害審査会は、公害に係る紛争の迅速かつ適切な解決を図るため、公害紛争処理法（昭和45年法律第108条）及び沖縄県附属機関設置条例（昭和47年条例第50条）に基づき、昭和47年５月15日に設置されています。

現在、委員は弁護士３人、大学教授等６人、医師１人、薬剤師１人、保健師１人の計12人が任命されており、任期は３年となっています。

エ　沖縄県環境影響評価審査会

沖縄県環境影響評価審査会は、環境影響評価及び事後調査に関する技術的な事項を調査審議するため、沖縄県環境影響評価条例（平成12年沖縄県条例第77号）第51条に基づき設置されております。その組織及び運営に関し必要な事項は同条例及び沖縄県環境影響評価条例施行規則（平成13年沖縄県規則第87号）で定めております。

委員は、学識経験者のうちから13名以内で構成し任期は３年となっています。

沖縄県環境審議会委員名簿

任期（平成26年12月25日～平成28年12月24日）

No.	役職	氏　名	現　職　名　（専門分野等）	区分
1	会長	おおもり たもつ 大森　保	琉球大学名誉教授 （地球化学）	学識経験者
2		おがわ まもる 小川　護	沖縄国際大学教授（人文地理学）	
3		おの ひろこ 小野　尋子	琉球大学准教授 （都市計画）	
4		なかむら まさる 中村　將	琉球大学名誉教授 （サンゴ礁生物機能学）	
5	副会長	ふじた ようこ 藤田　陽子	琉球大学教授 （環境経済学）	
6		きんじょう ただお 金城　忠雄	沖縄県医師会常任理事	公益代表者
7		たいら きく 平良　菊	沖縄県婦人連合会　会長	
8		なかむら てるみ 中村　照美	沖縄県弁護士会　会員	
9		きんじょう まゆみ 金城まゆみ	NPO法人職員（環境カウンセラー）	住民代表者
10		しかたに まゆ 鹿谷　麻夕	しかたに自然案内　主宰	
11		あさと せいいち 安里　成一	沖縄県産業廃棄物協会　会長	産業界代表者
12		おおしろ つとむ 大城　勉	沖縄県農業協同組合　代表理事専務	
13		おく きぬこ 奥　キヌ子	沖縄経済同友会　会員	
14		なかだ ひでみつ 仲田　秀光	沖縄県商工会議所連合会　常任幹事	
15		つぼうえ こうじ 坪上　浩治	第十一管区海上保安本部 次長	行政関係
16		なかほど のりよし 仲程　倫由	沖縄総合事務局 総務部長	

沖縄県公害審査会会委員名簿

任期（平成25年８月５日～平成28年８月４日）

	役　職	氏　　名	職　　名
1		上江洲（うえず）　純子（じゅんこ）	沖縄国際大学准教授（法学）
2		大森（おおもり）　保（たもつ）	琉球大学名誉教授（分析化学）
3		奥平（おくひら）　登美子（とみこ）	沖縄県看護協会会長（看護師）
4		我喜屋（がきや）　美香（みか）	沖縄県薬剤師会理事（薬剤師）
5	会　長	加藤（かとう）　裕（ゆたか）	弁護士
6		金城（きんじょう）　忠雄（ただお）	沖縄県医師会常任理事（医師）
7		堤（つつみ）　純一郎（じゅんいちろう）	琉球大学教授（大気環境学）
8		原田（はらだ）　育美（いくみ）	弁護士
9		前堂（まえどう）　志乃（しの）	沖縄国際大学准教授（心理学）
10		山崎（やまさき）　秀雄（ひでお）	琉球大学准教授（環境生物学）
11		横江（よこえ）　崇（たかし）	弁護士
12	会長代理	吉永（よしなが）　安俊（あんしゅん）	琉球大学教授（水利環境学）

沖縄県環境影響評価審査会委員名簿

任期（平成25年９月12日～平成28年９月11日）

	役　職	氏　　名	職　　名	区　　分
1	副会長	堤（つつみ）　純一郎（じゅんいちろう）	琉球大学工学部教授	大気環境
2		吉永（よしなが）　安俊（あんしゅん）	琉球大学名誉教授	水環境
3		大出（おおで）　茂（しげる）	琉球大学理学部教授	
4		仲座（なかざ）　栄三（えいぞう）	琉球大学工学部教授	
5		前門（まえかど）　晃（あきら）	琉球大学法文学部教授	地形・地質
6	会　長	宮城（みやぎ）　邦治（くにはる）	沖縄国際大学総合文化学部教授	陸域動物
7		辻（つじ）　瑞樹（みずき）	琉球大学農学部教授	
8		立原（たちはら）　一憲（かつのり）	琉球大学理学部准教授	陸・海域動物
9		新城（しんじょう）　和治（かずはる）	元琉球大学教授	陸域植物
10		横田（よこた）　昌嗣（まさつぐ）	琉球大学理学部教授	
11		須田（すだ）　彰一郎（しょういちろう）	琉球大学理学部教授	海域植物
12		日高（ひだか）　道雄（みちお）	琉球大学理学部教授	海域動物
13		小野（おの）　尋子（ひろこ）	琉球大学工学部准教授	景観

沖縄県自然環境保全審議会委員名簿

任期（平成24年11月20日～平成26年11月19日）

	氏　　名	代表区分	現　職　名	備考（専門分野）
1	平良（たいら）　健康（けんこう）	学識経験者	沖縄県社会福祉事業団沖縄療育園　医療技監	医学
2	大島（おおしま）　順子（じゅんこ）	〃	琉球大学観光産業科学部准教授	環境教育学
3	前門（まえかど）　晃（あきら）	〃	琉球大学法文学部教授	地形学
4	横田（よこた）　昌嗣（まさつぐ）	〃	琉球大学理学部教授	植物分類学
5	伊澤（いざわ）　雅子（まさこ）	〃	琉球大学理学部教授	保全生物学
6	久保田（くぼた）　康裕（やすひろ）	〃	琉球大学理学部准教授	群集生態学
7	藤村（ふじむら）　弘行（ひろゆき）	〃	琉球大学理学部准教授	分析化学
8	神谷（かみや）　大介（だいすけ）	〃	琉球大学工学部助教	土木計画学
9	植田（うえだ）　明浩（あきひろ）	〃	環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所長	自然保護行政
10	岡本（おかもと）　一孝（かずたか）	〃	林野庁九州森林管理局　沖縄森林管理署長	森林行政
11	平良（たいら）　和三（かずみ）	〃	内閣府沖縄総合事務局経済産業部　環境資源課長	鉱業行政
12	仲嶺（なかみね）　マチ子（まちこ）	住民代表者	獣医師	獣医学
13	赤嶺（あかみね）　朝子（あさこ）	〃	弁護士	法律
14	宮城（みやぎ）　敦子（あつこ）	〃	沖縄県薬剤師会理事	薬学
15	糸数（いとかず）　多寿子（たずこ）	〃	会社員	一般公募

（４）環境年表

年　月　日	事　　項
昭和47年５月15日	○本土復帰により琉球政府が廃止され、沖縄県庁が発足 ○沖縄県公害防止条例（沖縄県条例第58号）制定 ○沖縄県附属機関設置条例(沖縄県条例第50号)の制定により、沖縄県公害審査会を設置
同年　９月４日	○沖縄県公害防止条例施行規則（沖縄県規則第139号）制定 ○沖縄県公害の規制基準等に関する規則（沖縄県規則第140号）制定
同年　９月９日	○沖縄県公害対策審議会条例（沖縄県条例第103号）制定 ○沖縄県水質審議会条例（沖縄県条例第104号）制定
昭和48年４月１日	○環境保全行政について、企画部の環境保全室が環境保全対策の総合企画及び調整を主な所掌事務とし、厚生部の環境衛生課が公害防止の所掌事務を行うこととなった。 　また、公害の技術部である公害衛生研究所を沖縄県公害衛生研究所と改称して、公害防止のための調査、研究業務を行うこととなった。
同年　４月２日	○沖縄県放射能対策本部設置規程（沖縄県訓令第10号）制定
同年　７月23日	○沖縄県公害審査会の紛争処理の手続きに要する費用に関する条例（沖縄県条例第56号）制定
同年　９月７日	○赤土等流出防止対策協議会設置規程（沖縄県訓令第22号）制定
同年　11月15日	○沖縄県公害審査会規則（沖縄県規則第87号）制定 ○沖縄県公害審査会の手数料の納付の方法及び減免等に関する規則（沖縄県規則第88号）制定
昭和49年３月１日	○騒音規制法（昭和43年法律第98号）第３条第１項の規定により、特定工場等において発生する騒音、特定建設作業からの騒音を規制する地域の指定（沖縄県告示第73号）、同年４月１日施行（指定地域）名護市、具志川市、沖縄市、宜野湾市、浦添市、那覇市、糸満市、平良市、石垣市及び豊見城村 ○騒音規定法第４条第１項の規定により、昭和49年沖縄県告示第73号により指定された地域について特定工場等において発生する騒音の規制基準の設定（沖縄県告示第74号）、同年４月１日施行 ○特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準(昭和43年厚生省・建設省告示第１号)の別表第１号の規定に基づく区域の指定(沖縄県告示第75号)、同年４月１日施行
同年　３月４日	○公害対策基準法（昭和42年法律第132号）第９条の規定に基づき国場川及び比謝川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域の類型の指定（沖縄県告示第78号）
同年　４月１日	○多様化する環境行政に対応するために環境保全室と環境衛生課の公害係を廃止し、新設された環境保健部に環境保全課、公害規制課、自然保護課を新設して環境問題の解決にあたることになった。
同年　９月24日	○沖縄県行政組織規則（昭和49年沖縄県規則第18号）第107条第１項の規定に基づき設置された、沖縄県公害対策連絡協議会の運営規程（沖縄県訓令第33号）制定
同年　10月１日	○公害監視船（ひまわり）15ｔ乗組員４人を公害規制課へ配置し、金武湾一帯の監視パトロールにあたる。
昭和50年３月６日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令（昭和46年政令第159号）第１項の規定により、金武湾、中城湾、与勝海域、北部西海岸流入河川（満名川）及び福地川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第79号）
同年　４月１日	○総合的・積極的かつ敏速適切に環境行政を推進、強化するため、環境保全課と公害規制課を統合して公害対策課に改称　又、新たに環境整備課を設置し、公害対策課に特殊公害係を設置

年　月　日	事　　項
昭和50年７月９日	○水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を定める条例（沖縄県条例第37号）制定（国場川、比謝川に係る上乗せ排水基準の設定）
同年　９月18日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水質及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、天願川（川崎川を含む）の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第395号）
昭和51年３月15日	○沖縄県公害防止条例（昭和47年沖縄県条例第58号）の全部改正（沖縄県条例第２号）、同年９月14日施行
同年　３月18日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、那覇港海域、名護湾海域、漢那川、羽地大川及び我部祖河川水系の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第82号）
同年　４月１日	○沖縄県行政組織規則第107条第２項に定める沖縄県米軍基地環境科学委員会の運営規程（沖縄県訓令第８号）制定
同年　８月５日	○水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第27号）（天願川、中城湾、与勝海域、金武湾に係る上乗せ排水基準の設定）
同年　９月13日	○沖縄県公害防止条例施行規則（昭和47年沖縄県規則第139号）の全部改正（沖縄県規則第31号）、同年９月14日施行
同年　10月14日	○沖縄県公害防止条例施行規則の一部改正（沖縄県規則第38号）
昭和52年４月25日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、北部東海岸流入河川（新川川、安波川、普久川）、汀良川、宮古海域（平良港海域）及び八重山海域（石垣港海域、川平湾海域）の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第193号）
同年　６月20日	○水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第24号）（羽地大川、我部祖河川、名護湾に係る上乗せ排水基準の設定）
昭和53年３月１日	○悪臭防止法（昭和46年法律第91号）第３条の規定による工場その他の事業場における事業活動に伴って発生する悪臭物質の排出を規制する地域の指定及び同法第３条の規定による当該規制地域について規制基準の設定（沖縄県告示第87号）、同年４月１日施行（規制地域）名護市、石川市、具志川市、沖縄市、宜野湾市、浦添市、那覇市、糸満市、平良市、石垣市、与那城村、北中城村、中城村及び西原村
同年　５月15日	○沖縄県公害の規制基準等に関する規則（昭和47年沖縄県規則第140号）の廃止
同年　５月15日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、久茂地川、安里川及び安謝川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第233号）
同年　６月24日	○水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第24号）（那覇港海域に係る上乗せ排水基準の設定）
昭和54年３月１日	○昭和53年沖縄県告示第87号（悪臭規制地域の指定及び規制基準の設定）の一部を改正する告示（沖縄県告示第78号）制定、同年４月１日施行
同年　３月８日	○沖縄県公害防止条例施行規則の一部改正（沖縄県規則第６号）、同年４月１日施行 ○騒音規制法に基づく規制地域及び特定工場において発生する騒音の規制基準、特定建設作業に伴って発生する騒音の規制基準に基づく指定地域内における自動車騒音の限度を定める命令に基づく区域及び時間の指定並びに昭和49年沖縄県告示第73号、第74号、第75号の廃止（沖縄県告示第95号）、同年４月１日施行

年　月　日	事　　項
昭和54年３月８日	○振動規制法（昭和51年法律第64号）第３条第１項の規定に基づく規制地域及び同法第４条第１項の規定に基づく規制基準、同法施行規則別表第１の付表に基づく指定区域並びに府令別表第２の規定に基づく区域及び時間の指定（沖縄県告示第96号）制定、同年４月１日施行
同年　４月９日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、報得川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第166号）
同年　９月29日	○水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第32号）（報得川に係る上乗せ排水基準の設定）
昭和55年５月19日	○赤土等流出防止対策協議会設置規程（昭和48年沖縄県訓令第22号）の一部を改正する訓令（沖縄県訓令第24号）
同年　６月12日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、牧港川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第377号）
昭和56年４月18日	○新公害監視船（こんぺき）38.82ｔ完成
昭和57年３月25日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和54年沖縄県告示第９号）の一部改正（沖縄県告示第184号）、同年５月１日施行
同年　３月25日	○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の指定（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第185号）、同年５月１日施行 ○悪臭規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第186号）、同年５月１日施行
同年　６月３日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、羽地内海の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第318号）
同年　７月12日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、辺野喜川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準に水域類型の指定（沖縄県告示第373号）
同年　10月28日	○沖縄県行政組織規則の一部を改正する規則（沖縄県規則第51号）の公布（第107号第２項の表中沖縄米軍基地環境科学委員会の項を削る）、同年11月１日施行
同年　11月15日	○沖縄県米軍基地環境科学委員会規程を廃止する訓令（沖縄県訓令第20号）、同年11月15日施行
昭和58年３月28日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第２項の規定に基づき、那覇空港周辺地域について、航空機騒音に係る地域類型あてはめの設定（沖縄県告示第209号）
同年　４月１日	○国の行政改革との関連から県は昭和58年度組織定数の見直し及び組織の統廃合を実施、その結果環境整備課が廃止され、当該課の環境整備係が公害対策課に移管
昭和60年４月１日	○組織改正により、公害対策課の環境整備係が環境衛生課に移管
同年　４月５日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第327号）、同年５月１日から施行 ○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第328号）、同年５月１日から施行 ○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第329号）、同年５月１日から施行
昭和61年１月12日	○沖縄県水質審議会を廃止する条例により沖縄県水質審議会を廃止、同年１月12日より施行

年　月　日	事　　項
昭和61年２月28日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第129号）、同年４月１日から施行 ○振動規制に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第130号）、同年４月１日から施行
同年　３月13日	○赤土等流出防止対策協議会設置規程に基づき、沖縄県赤土等流出防止対策協議会を設置、同年４月１日発足 ○沖縄県放射能対策本部設置規程（沖縄県訓令第10号）を廃止、沖縄県部内協議機関設置規程に基づき、沖縄県放射能対策本部を設置、同年４月１日発足
同年　７月８日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第467号）、同年８月８日施行 ○悪臭防止に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第468号）、同年８月８日施行 ○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第469号）、同年８月８日施行
昭和62年３月31日	○沖縄県河川浄化対策連絡協議会の設置（同年４月１日発足）
同年　４月１日	○特殊公害係を環境管理係に名称変更
同年　10月２日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第95号）の一部改正（沖縄県告示第735号）、同年11月２日施行 ○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和54年沖縄県告示第96号）の一部改正（沖縄県告示第936号）、同年11月２日施行 ○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示（昭和53年沖縄県告示第87号）の一部改正（沖縄県告示第937号）、同年11月２日施行
同年　11月５日	○第53回全国公害行政協議会の開催
昭和63年２月16日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第２項の規定に基づき、嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺地域について、航空機騒音に係る環境基準に係る地域の類型あてはめの設定（沖縄県告示第107号）
同年　３月25日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、源河川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定（沖縄県告示第269号）
同年　６月９日	○沖縄県公害対策審議会委員（15名）発令
同年　７月15日	○水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第24号）（源河川水域に係る上乗せ排水の基準の設定）
同年　８月16日	○「新石垣空港建設に係る埋立事業環境影響評価準備書」に対する知事意見公表
同年　10月４日	○環境管理計画策定に係る意見を求める為、沖縄県環境管理計画基本構想懇談会を設置
平成元年２月10日	○沖縄県環境管理計画基本構想懇談会委員（15名）委嘱
同年　３月28日	○公害対策基本法第９条第２項及び環境基準に係る水質及び地域の指定権限の委任に関する政令第２項の規定により、騒音に係る環境基準の地域類型の指定（沖縄県告示第274号）（那覇市及び浦添市）
同年　４月８日	○沖縄県公害審査委員会（９名）発令
同年　４月25日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、平南川、大保川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定（沖縄県告示第368号）
同年　10月18日	○水質汚濁防止法第３条第３項の規定に基づく排水基準を定める条例の一部改正（沖縄県条例第31号）（平南川、大保川水域に係る上乗せ排水基準の設定）

年　月　日	事　　項
平成元年12月15日	○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第883号）、平成２年１月15日施行 ○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第884号）、平成２年１月15日施行 ○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第885号）、平成２年１月15日施行
平成２年１月16日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第１項の規定により、宮良川、名蔵川の公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定（沖縄県告示第51号）
同年　２月２日	○沖縄県部内協議機関設置規程の一部を改正、沖縄県環境管理計画策定連絡協議会を設置（同日発足）
同年　３月15日	○沖縄県環境保全基金条例（沖縄県条例第２号）の制定、同日施行、同年3月30日当該基金（４億円）造成
同年　３月23日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第２項の規定により、騒音に係る環境基準の地域類型指定（沖縄県告示第329号）（沖縄市、宜野湾市、具志川市、石川市及び糸満市）
平成３年３月20日	○沖縄県公害対策審議会委員（15名）委嘱
同年　３月27日	○地域環境センター開所 ○環境アドバイザー（１名）及び地域環境保全活動推進員（10名）委嘱
平成４年１月14日	○「中城湾港公有水面埋立事業に係る環境影響評価準備書」に対する知事意見公表
同年　２月４日	○環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令第２項の規定により、騒音に係る環境基準の地域類型指定（沖縄県告示第120号）（名護市、平良市、石垣市、南風原町、佐敷町、東風平町、与那原町、西原町、豊見城村及び読谷村）
同年　８月４日	○沖縄県公害審査会委員（10名）発令
同年　８月18日	○沖縄県環境影響評価規程告示、平成５年２月１日施行
同年　９月22日	○水質汚濁防止法第14条の６第１項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第768号） 国場川流域生活排水対策重点地域　那覇市、南風原町、東風平町、豊見城村及び大里村の全域（下水道処理区域を除く） 天願川流域生活排水対策重点地域　具志川市の全域（下水道処理区域を除く）
同年　10月12日	○沖縄県環境影響評価規程実施要領策定
平成５年１月29日	○沖縄県環境影響評価技術指針策定
平成５年３月31日	○沖縄県環境管理計画基本構想策定
同年　４月１日	○公害対策課が環境保全課に、環境衛生課が生活衛生課に改組
平成６年３月31日	○沖縄県環境管理計画策定
同年　４月１日	○公害衛生研究所が衛生環境研究所に改組
同年　７月22日	○沖縄県公害対策審議会条例及び沖縄県公害防止条例の一部を改正する条例制定により、公害対策審議会が環境審議会へ改称、同年８月１日施行
同年　10月20日	○沖縄県赤土等流出防止条例（沖縄県条例第36号）制定 ○沖縄県行政組織規則の一部を改正する規則（沖縄県規制第56号）の公布（第50条第16号、第241号第１号表中の公害対策審議会を環境審議会へ改称）
平成７年８月４日	○沖縄県公害審査会委員（15名）発令
同年　10月９日	○沖縄県赤土等流出防止条例施行規則（沖縄県規則第64号）制定
同年　10月15日	○沖縄県赤土等流出防止条例施行

年　月　日	事　　項
平成８年２月23日	○水質汚濁防止法第14条の６第１項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第169号） 糸満市　糸満市の全域（下水道処理区域を除く）
同年　２月29日	○沖縄県環境審議会委員（16名）発令
同年　４月１日	○環境保全課が環境保全室へ改組
平成９年３月25日	○水質汚濁防止法第14条の６第１項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第272号） 牧港川・宇地泊川流域生活排水対策重点地域　浦添市、宜野湾市、西原町及び中城村の全域（下水道処理区域を除く）
平成10年２月27日	○水質汚濁防止法第14条の７第１項の規定により生活排水対策重点地域の指定（沖縄県告示第160号） 比謝川流域生活排水対策重点地域　沖縄市、嘉手納町及び読谷村の全域（下水道処理区域を除く） 雄樋川流域生活排水対策重点地域　東風平町、大里村、具志頭村及び玉城村の全域（下水道処理区域を除く）
同年４月１日	○環境保健部が福祉保健部と文化環境部へ組織再編され、福祉保健部には薬務衛生課、文化環境部には環境保全室、自然保護課及び廃棄物対策課を設置
平成11年５月27日	○沖縄県環境率先実行計画策定
平成12年３月31日	○沖縄県環境基本条例制定
同年12月27日	○沖縄県環境影響評価条例制定
平成13年４月１日	○環境保全室が環境政策課と環境保全課に、廃棄物対策課が環境整備課に改組
同年７月10日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
同年11月１日	○沖縄県環境影響評価条例全面施行
平成14年３月30日	○ちゅら島環境美化条例（沖縄県条例第13号）公布
同年７月１日	○ちゅら島環境美化条例施行(但し、第８条、第15条及び第16条(罰則に係る規定)を除く。)
同年８月24日	○復帰30周年記念事業「ちゅら島うちなー環境フェアー」の開催、入場者数37,000人 県内のイベントで初めてゴミの分別を実施
同年８月24日	○おきなわアジェンダ２１県民会議設立
同年10月24日	○沖縄県環境保全実施計画策定（沖縄振興推進計画の分野別計画）
平成15年１月１日	○ちゅら島環境美化条例全面施行
同年４月１日	○沖縄県環境基本計画策定
同年８月１日	○沖縄県地球温暖化対策地域推進計画策定
同年11月17日	○沖縄県地球温暖化防止活動推進センター指定
平成16年７月21日	○沖縄県環境影響評価審査会委員(13名）委嘱
平成17年２月16日	○沖縄県地球温暖化防止活動推進員（35名）委嘱
同年２月25日	○本庁行政棟においてＩＳＯ１４００１を認証取得
同年７月26日	○沖縄県産業廃棄物税条例（沖縄県条例第37号）公布
同年10月26日	○沖縄県産業廃棄物税基金条例（沖縄県条例第54号）公布
平成18年３月３日	○沖縄県産業廃棄物税条例施行規則（沖縄県規則第5号）公布
同年３月29日	○沖縄県環境教育推進方針策定
同年４月１日	○産業廃棄物税導入
平成19年８月４日	○沖縄県公害審査会委員（12名）委嘱
同年９月５日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
同年９月14日	○沖縄県環境審議会委員（15名）委嘱

年　月　日	事　　項
平成20年３月26日	○第３次沖縄県環境保全実施計画策定
同年12月26日	○公害防止条例の全部を改正し、沖縄県生活環境保全条例（沖縄県条例第43号）公布
平成21年９月30日	○沖縄県公害防止条例施行規則の全部を改正し、沖縄県生活環境保全条例施行規則（沖縄県規則第31号）公布
同年10月１日	○沖縄県生活環境保全条例及び施行規則施行
平成22年２月１日	○沖縄県環境審議会委員（16名）委嘱
同年８月４日	○沖縄県公害審査会委員（12名）委嘱
同年９月10日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
平成23年３月25日	○騒音規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第181号）、平成23年７月１日施行
	○振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第182号）、平成23年７月１日施行
	○騒音に係る環境基準の地域類型の指定の一部改正（沖縄県告示第183号）、平成23年７月１日施行
	○悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定に係る告示の一部改正（沖縄県告示第184号）、平成23年７月１日施行
同年４月１日	○文化環境部から環境生活部へ組織再編
平成24年10月１日	○沖縄県環境審議会委員（16名）委嘱
平成25年３月28日	○第２次沖縄県環境基本計画策定
同年３月29日	○生物多様性おきなわ戦略策定
同年３月30日	○沖縄県環境影響評価条例の一部を改正する条例（沖縄県条例第15号）、平成26年２月１日施行。主な改正点は、配慮書手続、風力発電所の追加等。
同年４月１日	○那覇市が中核市に移行したことに伴い、沖縄県中央保健所が廃止され、那覇市保健所が設置。
同年８月５日	○沖縄県公害審査会委員（12名）委嘱
同年９月２日	○沖縄県赤土等流出防止対策基本計画策定
同年９月12日	○沖縄県環境影響評価審査会委員（13名）委嘱
同年12月27日	○沖縄県環境影響評価条例施行規則の一部を改正する規則（沖縄県規則第96号）、平成26年２月１日施行
同年12月27日	○沖縄県環境影響評価技術指針の一部を改正する告示（沖縄県告示第665号）、平成26年２月１日施行
平成26年４月１日	○環境生活部が環境部へ組織再編。
	○基地環境特別対策室を環境政策課内に設置。
	○自然保護課が自然保護・緑化推進課へ組織再編。
同年６月27日	○沖縄県環境教育等推進行動計画策定
同年８月28日	○九州ブロック環境担当部局長会議の沖縄開催。
同年12月25日	○沖縄県環境審議会委員（16名）委嘱
同年12月26日	○沖縄県再生可能エネルギー等導入推進基金条例制定。
平成27年３月	○沖縄県自然環境再生指針策定
同年３月26日	○沖縄県赤土等流出防止対策行動計画策定

2　大気関係

（１）大気汚染常時監視局・測定結果一覧

ア　二酸化硫黄

二酸化硫黄の測定結果

（平成26年度）

測定局名		測定時間	年平均値	１時間値の最高値	１時間値が0.1ppmを越えた時間数		日平均値が0.04ppmを越えた日数、その割合及び２日以上連続したことの有無			日平均値の２％除外値	長期的評価による環境基準の適否
		（時間）	（ppm）	（ppm）	（時間）	（％）	（日）	（％）	（有・無）	（ppm）	（○・×）
一般環境大気測定局	那　覇	8,318	0.001	0.011	0	0	0	0	無	0.002	○
	西　原	977	0.001	0.005	0	0	0	0	無	0.002	－
	与那城	8,493	0.000	0.006	0	0	0	0	無	0.002	○
	名　護	8,065	0.001	0.009	0	0	0	0	無	0.003	○
	沖　縄	8,246	0.000	0.005	0	0	0	0	無	0.001	○
	石　垣	8,480	0.002	0.060	0	0	0	0	無	0.006	○

（注）1.長期的評価は測定時間6,000時間以上の測定局が対象となるため、6,000時間未満の測定局の評価は「－」と表示している。

二酸化硫黄の経年変化

（単位：ppm）

測定局名		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値
一般環境大気測定局	那　覇	0.001	0.004	0.002	0.014	0.002	0.012	0.002	0.007	0.001	0.002
	浦　添										
	西　原	0.002	0.004	0.002	0.004	0.002	0.006	(0.004)	(0.007)	(0.001)	(0.002)
	与那城	0.002	0.004	0.002	0.003	0.002	0.005	0.002	0.016	0.000	0.002
	金　武										
	名　護	0.000	0.001	0.000	0.002	0.000	0.001	0.000	0.001	0.001	0.003
	沖　縄	0.000	0.002	0.000	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.001
	糸　満	0.003	0.007	－	－	－	－	－	－	－	－
	平　良	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	石　垣	0.002	0.004	0.002	0.007	0.003	0.009	0.001	0.003	0.002	0.006

（注）1.（ ）は測定時間が6,000時間未満を、－は欠測を示す。
2. 浦添測定局は、平成19年3月に廃止。
3. 西原測定局は、平成20年４月に西原町役場から西原町社会福祉センターに移設。
4. 金武測定局は、平成19年９月に廃止。
5. 石垣測定局は、平成20年９月に石垣市役所から八重山福祉保健所に移設。

イ　二酸化窒素

二酸化窒素の測定結果

（平成26年度）

測定局名		有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	日平均値が0.06ppmを越えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上、0.06ppm以下の日数とその割合		日平均値の年間98%値	長期的評価による環境基準の適否
		（日）	（時間）	（ppm）	（ppm）	（日）	（%）	（日）	（%）	（ppm）	（○・×）
一般環境大測定局	那　覇	355	8,535	0.008	0.045	0	0	0	0	0.015	○
	西　原	351	8,434	0.005	0.047	0	0	0	0	0.011	○
	与那城	346	8,392	0.001	0.019	0	0	0	0	0.003	○
	名　護	308	7,542	0.003	0.033	0	0	0	0	0.008	○
	沖　縄	353	8,506	0.005	0.046	0	0	0	0	0.012	○
	平　良	356	8,573	0.003	0.047	0	0	0	0	0.011	○
	石　垣	15	363	0.003	0.046	0	0	0	0	0.014	－
自排局	牧　港	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	松　尾	354	8,519	0.020	0.069	0	0	0	0	0.041	○

（注）1.長期的評価は測定時間6,000時間以上の測定局が対象となるため、6,000時間未満の測定局の評価は「－」と表示している。

二酸化窒素の経年変化

（単位:ppm）

測定局名		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値	年平均値	年間98%値
一般環境大気測定局	那　覇	0.004	0.010	0.006	0.014	0.003	0.008	0.008	0.019	0.008	0.015
	浦　添										
	西　原	0.008	0.020	0.008	0.016	0.006	0.016	0.005	0.013	0.005	0.011
	与那城	0.001	0.003	0.001	0.002	0.001	0.003	0.001	0.003	0.001	0.003
	金　武										
	名　護	0.004	0.010	0.004	0.009	(0.003)	(0.007)	0.003	0.007	0.003	0.008
	沖　縄	0.007	0.018	0.006	0.012	0.007	0.014	0.005	0.016	0.005	0.012
	糸　満	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	平　良	(0.003)	(0.011)	0.002	0.013	0.002	0.010	0.002	0.014	0.003	0.011
	石　垣									(0.003)	(0.014)
自動車排出ガス測定局	知　花										
	与　儀										
	牧　港	0.015	0.037	0.011	0.030	(0.009)	(0.023)	(0.009)	(0.022)	－	－
	松　尾	0.020	0.044	0.019	0.041	0.018	0.038	(0.018)	(0.038)	0.020	0.041

（注）1.（ ）は測定時間が6,000時間未満を、－は欠測を示す。
2. 浦添測定局は、平成19年3月に廃止。
3. 西原測定局は、平成20年４月に西原町役場から西原町社会福祉センターに移設。
4. 金武測定局は、平成19年９月に廃止。
5. 石垣測定局は、平成20年９月に石垣市役所から八重山福祉保健所に移設。
6. 知花測定局、与儀測定局は、平成20年４月に廃止

ウ　浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の測定結果

（平成26年度）

測定局名		測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1時間値が0.20mg/m³を越えた時間数		日平均値が0.10mg/m³を越えた日数、その割合及び2日以上連続したことの有無			日平均値の2％除外値	長期的評価による環境基準の適否
		（時間）	(mg/m³)	(mg/m³)	（時間）	（%）	（日）	（%）	（有・無）	(mg/m³)	（○・×）
一般環境大気測定局	那　覇	8,400	0.022	0.107	0	0	0	0	無	0.051	○
	西　原	3,255	0.017	0.082	0	0	0	0	無	0.040	－
	与那城	8,506	0.020	0.151	0	0	0	0	無	0.048	○
	名　護	7,821	0.019	0.104	0	0	0	0	無	0.043	○
	沖　縄	8,576	0.019	0.114	0	0	0	0	無	0.046	○
	平　良	8,548	0.018	0.117	0	0	0	0	無	0.047	○
	石　垣	8,234	0.021	0.137	0	0	0	0	無	0.042	○
自排局	牧　港	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

（注）1.長期的評価は測定時間6,000時間以上の測定局が対象となるため、6,000時間未満の測定局の評価は「－」と表示している。

浮遊粒子状物質の経年変化

（単位:mg/m³）

測定局名		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値	年平均値	2%除外値
一般環境大気測定局	那　覇	－	－	－	－	－	－	0.020	0.050	0.022	0.051
	浦　添										
	西　原	0.016	0.044	0.014	0.033	0.014	0..038	0.013	0.028	(0.017)	(0.040)
	与那城	0.016	0.039	0.021	0.041	－	－	0.019	0.04	0.020	0.048
	金　武										
	名　護	－	－	－	－	0.020	0.049	0.018	0.039	0.019	0.043
	沖　縄	0.015	0.041	0.014	0.041	0.018	0.043	0.018	0.037	0.019	0.046
	糸　満	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	平　良	0.026	0.051	0.024	0.052	0.027	0.051	(0.023)	(0.043)	0.018	0.047
	石　垣	0.017	0.040	0.020	0.040	－	－	0.022	0.044	0.021	0.042
排出ガス自動車測定局	知　花										
	与　儀										
	牧　港	0.021	0.044	0.022	0.040	0.018	0.046	(0.017)	(0.034)	－	－

（注）1. ( )は測定時間が6,000時間未満を、－は欠測を示す。
2. 浦添測定局は、平成19年3月に廃止。
3. 西原測定局は、平成20年４月に西原町役場から西原町社会福祉センターに移設。
4. 金武測定局は、平成19年９月に廃止。
5. 石垣測定局は、平成20年９月に石垣市役所から八重山福祉保健所に移設。
6. 知花測定局、与儀測定局は、平成20年４月に廃止

エ　一酸化炭素

一酸化炭素の測定結果

（平成26年度）

測定局名	測定時間	年平均値	１時間値の最高値	１時間値の８時間平均値が20ppmを越えた回数とその割合		日平均値が10ppmmを越えた日数、その割合及び２日以上連続したことの有無			日平均値の２％除外値	長期的評価による環境基準の適否
	（時間）	（ppm）	（ppm）	（時間）	（％）	（日）	（％）	（有・無）	（ppm）	（○・×）
那　覇	8,575	0.4	2.4	0	0	0	0	無	0.7	○
松　尾	8,149	0.5	3.7	0	0	0	0	無	0.9	○

（注）1. 那覇測定局は一般環境大気測定局。松尾測定局は自動車排出ガス測定局。

一酸化炭素の経年変化

（単位:ppm）

測定局名	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	年平均値	2％除外値	年平均値	2％除外値	年平均値	2％除外値	年平均値	2％除外値	年平均値	2％除外値
那　覇	0.3	0.6	0.2	0.5	0.4	0.7	0.3	0.6	0.4	0.7
知　花										
与　儀										
牧　港	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
松　尾	0.6	1.2	0.6	1.2	0.6	1.1	0.5	1.0	0.5	0.9

（注）1. （ ）は測定時間が6,000時間未満を、－は欠測を示す。
4. 知花測定局、与儀測定局は、平成20年４月に廃止。

オ　光化学オキシダント

光化学オキシダントの測定結果

（平成26年度）

測定局名	昼間の測定日数と時間		昼間の１時間値の年平均値	昼間の１時間値の最高値	昼間の１時間値が0.06ppmを越えた日数と時間		昼間の１時間値が0.12ppmを越えた日数と時間		環境基準の適否
	（日数）	（時間）	（ppm）	（ppm）	（日数）	（時間）	（日数）	（時間）	（○・×）
那　覇	361	5,346	0.030	0.089	21	88	0	0	×
与那城	360	5,363	0.035	0.085	17	98	0	0	×
名　護	358	5,301	0.035	0.094	33	195	0	0	×
沖　縄	358	5,293	0.031	0.094	18	114	0	0	×
糸　満	361	5,365	0.036	0.101	34	204	0	0	×
平　良	362	5,361	0.028	0.080	9	74	0	0	×
石　垣	265	3,896	0.027	0.071	4	31	0	0	×

光化学オキシダントの経年変化

（単位:ppm）

測定局名	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	年平均値	昼間の1時間値の最高値	年平均値	昼間の1時間値の最高値	年平均値	昼間の1時間値の最高値	年平均値	昼間の1時間値の最高値	年平均値	昼間の1時間値の最高値
那　覇	0.024	0.091	0.024	0.067	0.029	0.076	0.026	0.074	0.030	0.089
与那城	0.036	0.117	0.031	0.077	0.036	0.076	0.028	0.087	0.035	0.085
名　護	0.029	0.081	0.026	0.074	0.035	0.087	0.031	0.073	0.035	0.094
沖　縄	0.026	0.084	0.025	0.078	0.037	0.085	0.029	0.087	0.031	0.094
糸　満			0.031	0.092	0.027	0.075	0.030	0.071	0.036	0.101
平　良	0.028	0.088	0.021	0.078	0.031	0.077	0.026	0.066	0.028	0.080
石　垣	0.029	0.096	0.025	0.060	0.033	0.084	0.025	0.072	0.027	0.071

（注）　1.名護測定局、平良測定局、石垣測定局は、平成21年度から測定開始。
　　2.「昼間」とは5時から20時までの時間帯をいう。

（２）ばい煙・粉じん発生施設設置状況（法律）

平成27年３月末現在

				名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	国頭村	大宜味村	東村	今帰仁村	本部町	恩納村	宜野座村	金武町	伊江村	伊平屋村	伊是名村	読谷村	嘉手納町	北谷町	北中城村	中城村	西原町	八重瀬町	与那原町	南風原町	久米島町	渡嘉敷村	座間味村	粟国村	渡名喜村	南大東村	北大東村	多良間村	竹富町	与那国町	計
ばい煙発生施設	大気汚染防止法	ボイラー	事業所	29	27	18	13	27	86	9	14	27	25	13	4	1	2	1	7	12	1	6	1	1		14	3	4	4	7	17	3	1	6	3			1					4	2	393
			施設	53	44	35	25	47	142	15	23	45	40	23	5	1	9		14	41	3	4	1	2		32	3	9	9	19	33	8	1	7	3			1					4	2	703
		溶解炉	事業所																												1														1
			施設																												1														1
		金属加熱炉	事業所			1		1																						1															3
			施設			1		2																						1															4
		石油加熱炉	事業所		1									1																	1														3
			施設		9									1																	4														14
		燃焼炉	事業所																																										0
			施設																																										0
		焼成炉	事業所	1																1											1														3
			施設	2																1											1														4
		直火炉	事業所									1																			1														2
			施設									5																			1														6
		乾燥炉	事業所	1	2	4	1					1	8	4	1	1			1				2				1			2	5	1			1					2	1	1		1	41
			施設	2	2	7	1					1	9	6	1	1			2				2				1			2	4	1			1					2	1	1		1	48
		電気炉	事業所		1	1																																							2
			施設		1	2																																							3
		廃棄物焼却炉	事業所	1	8	5	2	2	4	1	3	2	2	1	1				1		1	1		2	1	1	2		1	1	3		1	3	1	2		2		1	1	1		1	59
			施設	2	12	8	2	5	4	1	3	3	5	2	2				4		2	1		2	2	3	3		1	3	4		2	8	1	2		2		1	1	1		1	93
		塩素反応炉	事業所			1																																							1
			施設			1																																							1
		ディーゼル機関	事業所		4		1	1	2			1		2					1										1								1	1			1			16
			施設		4		1	1	2			1		2					1										8								1	1			1			23
		小計	事業所	32	43	30	17	31	92	10	17	32	35	21	6	2	2	1	10	13	2	7	3	3	1	15	6	4	5	12	29	4	2	9	5	2	0	4	1	3	2	3	4	4	524
			施設	59	72	54	29	55	148	16	26	55	54	34	8	2	9	0	21	42	5	5	3	4	2	35	7	9	10	33	48	9	3	15	5	2	0	4	1	3	2	3	4	4	900
	電気ガス事業法	電気工作物	事業所	37	25	17	11	25	91	11	7	17	35	23	1		3		4	10	2	1	4		1	4	5	5	4	2	8	2	1	10	6	3		1	1	2	3	2	6	3	393
			施設	49	42	24	15	32	112	11	8	21	49	37	1		4		6	18	4	4	4		2	7	6	8	7	2	10	2	1	15	18	11		4	3	12	7	11	9	4	580
		ガス工作物	事業所	2	1	1		3	9	1		1		2						1								2		1	1														25
			施設	2	1	1		4	11	1		1		3						1								2		1	1														29
		小計	事業所	39	26	18	11	28	100	12	7	18	35	25	1	0	3	0	4	11	2	1	4	0	1	4	5	7	4	3	9	2	1	10	6	3	0	1	1	2	3	2	6	3	418
			施設	51	43	25	15	36	123	12	8	22	49	40	1	0	4	0	6	19	4	4	4	0	2	7	6	10	7	3	11	2	1	15	18	11	0	4	3	12	7	11	9	4	609
	合計		事業所	71	69	48	28	59	192	22	24	50	70	46	7	2	5	1	14	24	4	8	7	3	2	19	11	11	9	15	38	6	3	19	11	5	0	5	2	5	5	5	10	7	942
			施設	110	115	79	44	91	271	28	34	77	103	74	9	2	13	0	27	61	9	9	7	4	4	42	13	19	17	36	59	11	4	30	23	13	0	8	4	15	9	14	13	8	1,509
一般粉じん発生施設	大気汚染防止法	堆積場	事業所	11	12	7		6	2	2	2	8	13	2	1				3	2		3	1	1		3		1			4	1		2		1		1							89
			施設	14	21	7		6	2	2	2	11	22	3	1				3	3		3	1	1		3		1			4	2		2		1		1							116
		ベルトコンベア バケットコンベア	事業所	6	5	3		1	3	1	2	7	6	2					3					1		1					1	2													1	45
			施設	98	13	6		1	7	1	3	17	11	2					8					1		2					1	4													1	176
		摩砕機	事業所	7	1	3					1	4	8	1					2	2						3					1	1		1											1	36
			施設	15	1	6					2	4	10	1					6	2						3					1	2		1											1	55
		ふるい	事業所	4	1	1					1	2	1	1					1	1																										13
			施設	5	1	1					1	2	1	1					3	2																										17
	合計		事業所	28	19	14	0	7	5	3	6	21	28	6	1	0	0	0	9	5	0	3	1	2	0	7	0	1	0	0	6	4	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	183
			施設	132	36	20	0	7	9	3	8	34	44	7	1	0	0	0	20	7	0	3	1	2	0	8	0	1	0	0	6	8	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	364

（３）ばい煙・粉じん発生施設設置状況（県条例）

平成27年３月末現在

			名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	国頭村	大宜味村	東村	今帰仁村	本部町	恩納村	宜野座村	金武町	伊江村	伊平屋村	伊是名村	読谷村	嘉手納町	北谷町	北中城村	中城村	西原町	八重瀬町	与那原町	南風原町	久米島町	渡嘉敷村	座間味村	粟国村	渡名喜村	南大東村	北大東村	多良間村	竹富町	与那国町	計
ばい煙発生施設	ボイラー	事業所	16	4	20	6	21	68	8	6	16	12	4		3	1	1	6	4		1				2	3	5	5	3	13	7		6	4	1							1		247
		施設	23	6	21	6	28	87	9	7	23	21	5		3	1	3	7	5		1				3	4	6	6	3	19	11		6	5	1							1		321
	溶解炉	事業所						2			1																																	3
		施設						5			1																																	6
	焼成炉 溶融炉	事業所									1		1												1					1	1											1		6
		施設									2		1												1					1	1											1		7
	反応炉 直火炉	事業所							3		1																																	4
		施設							4		3																																	7
	廃棄物焼却炉	事業所	1	4	2	1	1	1	1	3	1	5	1											1						3	1						1					1		28
		施設	1	4	2	1	1	1	1	3	2	4	1											1						3	2						1					1		29
	合計	事業所	17	8	22	7	22	71	12	9	20	17	6	0	3	1	1	6	4	0	1	0	0	1	3	3	5	5	3	17	9	0	6	4	1	0	1	0	0	0	0	3	0	288
		施設	24	10	23	7	29	93	14	10	31	25	7	0	3	1	3	7	5	0	1	0	0	1	4	4	6	6	3	23	14	0	6	5	1	0	1	0	0	0	0	3	0	370
粉じん発生施設	堆積場	事業所	4	6	5		1	10	1	3	14	7	6	1											1				1	4	2		4						1					71
		施設	4	8	5		1	11	1	3	16	10	6	2											1				1	9	2		4						1					85
	ベルトコンベア バケットコンベア （鉱物、土石、セメント）	事業所	5	9	5				1	5	9	12	5	1					1			1			3					4	2		1											64
		施設	5	23	9				1	3	32	35	7	1					2			1			13					8	6		3											149
	ベルトコンベア バケットコンベア （おがくず、木材ﾁｯﾌﾟ）	事業所		2	1					1		2																			2												1	9
		施設		5	5					1		3																			4												1	19
	破砕機・摩砕機 （鉱物、岩石、セメントの用に供するもの）	事業所	2	8	5					4	8	10							1	1					3					2			2											46
		施設	2	15	8					4	9	15							2	1					4					3			2											65
	破砕機・摩砕機 （木材、コンクリートの用に供するもの）	事業所		1						1	3	6	1																	2	4													18
		施設		2						2	6	8	1																	4	6													29
	ふるい （鉱物、岩石、セメントの用に供するもの）	事業所		4							5	4	5												1					1			1											21
		施設		5							5	6	8												1					3			1											29
	ふるい （木材、ｺﾝｸﾘｰﾄの用に供するもの）	事業所									1	1																			1													3
		施設									2	3																			1													6
	粉砕施設・ふるい （飼料、有機質肥料の製造の用に供するもの）	事業所		1	1																																							2
		施設		3	9																																							12
	合計	事業所	11	31	17	0	1	10	2	14	40	42	17	2	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	8	0	0	0	1	13	11	0	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	234
		施設	11	61	36	0	1	11	2	13	70	80	22	3	0	0	0	0	4	1	0	1	0	0	19	0	0	0	1	27	19	0	10	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	394

※　平成２１年１０月１日に沖縄県公害防止条例は沖縄県生活環境保全条例に改正された。

3　水質関係

(1) 健康項目測定地点数（河川）

番号	河川名	調査地点数
1	比謝川	3
2	国場川	3
3	満名川	2
4	福地川	1
5	天願川	3
6	漢那川	1
7	羽地大川	2
8	我部祖河川	4
9	新川川	2
10	安波川	2
11	普久川	2
12	汀間川	2
13	久茂地川	2
14	安里川	2
15	安謝川	2
16	報得川	1
17	牧港川	2
18	辺野喜川	2
19	饒波川	2
20	源河川	1
21	平南川	1
22	大保川	2
23	宮良川	1
24	名蔵川	1
25	雄樋川	2
26	億首川	1
合計		49

(2) 健康項目測定結果（河川）

測定項目	調査地点数	環境基準超過地点数
カドミウム	42	0
全シアン	42	0
鉛	42	0
六価クロム	42	0
砒素	42	0
総水銀	42	0
アルキル水銀	42	0
PCB	42	0
ジクロロメタン	42	0
四塩化炭素	42	0
1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	42	0
1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	42	0
ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	42	0
1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	42	0
1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	42	0
ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	42	0
ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	42	0
1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	42	0
チウラム	42	0
シマジン	42	0
チオベンカルブ	42	0
ベンゼン	42	0
セレン	42	0
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	42	0
ふっ素	39	0
ほう素	39	1
1,4-ジオキサン	41	0
合計	1,127	1

(3) 河川水質の環境基準達成状況

河川No	水域No	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	環境基準点	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
1	1	比謝川(1)	B	3	比謝川ポンプ場	2.0	1.8	1.3	1.1	1.1	0.8	1.1	1.3	0.8	0.9
	2	比謝川(2)	C	5	トニー橋	2.1	1.2	1.6	1.5	1.1	1.4	1.6	1.8		
	3	**比謝川(3)**	**C**	**5**	**与那原川合流点**	3.4	2.7	1.9	2.1	2.4	1.6	2.0	2.5	1.8	2.2
2	4	国場川(1)	C	5	那覇大橋	3.6	1.5	2.2	2.0	1.4	1.5	2.1	1.9	2.0	2.1
	5	国場川(2)	E	10	真玉橋	7.4	5.2	5.2	5.7	3.5	4.7	2.8	3.8	5.2	3.5
3	6	**満名川(1)**	**A**	**2**	**渡久地橋**	0.8	0.9	1.1	0.6	0.9	1.3	<0.5	0.8	0.9	0.5
	7	満名川(2)	A	2	伊野波川合流点	0.8	1.2	0.6	0.8	1.4	1.1	0.7	0.6	0.7	0.7
4	8	福地川	A	2	福地ダム	1.0	1.0	<0.5	0.5	<0.5	0.5	0.6	0.5	0.7	0.7
5	9	**天願川(1)**	**B**	**3**	**河口**	1.8	2.1	1.1	1.1	1.1	1.8	0.6	0.9	1.2	1.1
	10	天願川(2)	B	3	合流点下流100m	**3.7**	**3.7**	2.5	2.1	1.9	1.9	2.6	2.3	2.8	**3.6**
6	11	漢那川	A	2	漢那ダム	1.0	0.6	1.0	<0.5	0.8	1.1	0.7	0.5	1.2	0.6
7	12	羽地大川	A	2	名護市取水場	1.1	1.4	1.4	1.1	0.7	1.0	0.9	1.0	0.7	0.6
8	13	我部祖河川(1)	A	2	石橋	**3.7**	**2.4**	**3.4**	**2.8**	**3.1**	**2.2**	1.4	1.6	**2.4**	**2.9**
	14	**我部祖河川(2)**	**A**	**2**	**奈佐田川合流点～上流100m**	1.8	**2.2**	**2.3**	1.4	1.9	1.2	1.3	1.3	1.1	1.1
	15	我部祖河川(3)	A	2	奈佐田川合流点～支川100m	0.9	0.6	<0.5	0.8	1.4	0.9	0.5	<0.5	0.5	0.8
9	16	新川川(1)	A	2	下流の高江橋	1.0	0.7	<0.5	<0.5	0.7	<0.5	0.6	0.5	<0.5	0.6
	17	新川川(2)	A	2	新川ダム	1.3	1.4	0.7	1.2	1.3	0.9	1.1	0.8	1.7	1.0
10	18	**安波川(1)**	**A**	**2**	**安波大橋**	0.9	0.5	<0.5	<0.5	0.9	<0.5	<0.5	0.7	<0.5	0.6
	19	安波川(2)	A	2	安波小中校後方	1.0	1.0	<0.5	<0.5	0.7	<0.5	1.0	0.6	<0.5	0.5
11	20	**普久川(1)**	**A**	**2**	**御拝橋**	1.0	0.7	<0.5	<0.5	0.6	<0.5	0.6	<0.5	<0.5	0.5
	21	普久川(2)	A	2	御拝橋上流420mの沢	0.8	<0.5	0.5	0.9	<0.5	<0.5	0.8	<0.5	<0.5	0.5
12	22	**汀間川(1)**	**A**	**2**	**嘉手苅橋から上流200m**	1.2	1.2	1.5	0.9	0.8	0.8	0.5	0.8	0.8	0.8
	23	汀間川(2)	A	2	三原小中学校前堰堤上流50m	0.9	1.2	0.8	1.1	1.1	1.4	0.8	0.9	0.6	0.7
13	24	**久茂地川**	**C**	**5**	**泉崎橋**	2.7	2.1	2.7	1.6	1.4	1.4	1.1	1.9	1.4	1.2
14	25	**安里川**	**D**	**8**	**蔡温橋下流200mの橋**	4.4	4.1	3.1	3.0	1.6	2.6	1.4	2.3	3.1	1.4
15	26	**安謝川**	**C**	**5**	**安謝橋**	2.5	2.9	2.1	1.6	1.9	2.7	1.6	2.5	1.1	1.0
16	27	報得川	E	10	水位計設置点	**12**	**13**	5.3	8.6	4.7	4.8	3.7	6.0	4.9	4.5
17	28	牧港川	C	5	牧港川取水場跡	**11**	**7.7**	**7.0**	**5.4**	3.6	2.4	1.5	1.7	2.0	1.5
					宇地泊川取水場跡	4.7	4.6	2.8	1.7	1.2	1.7	1.1	1.6	1.5	1.3
18	29	辺野喜川	A	2	辺野喜橋	1.1	0.7	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	0.6	0.6	<0.5	0.6
19	30	饒波川	D	8	石火矢橋	4.1	5.0	4.1	2.7	2.8	3.2	3.8	3.2	2.7	3.7
20	31	源河川	A	2	取水場	<0.5	0.5	0.6	<0.5	0.8	1.0	<0.5	<0.5	<0.5	0.6
21	32	平南川	A	2	ｱｻﾞｶ橋下流30m	1.1	1.6	0.7	0.7	1.0	1.1	0.6	1.2	1.0	<0.5
22	33	**大保川**	**A**	**2**	**田港橋**	0.9	1.6	1.0	0.7	1.5	1.1	1.3	0.9	1.3	0.9
23	34	宮良川	A	2	平喜名橋	1.1	0.7	0.6	0.7	0.7	0.7	0.8	0.9	0.7	0.7
24	35	名蔵川	A	2	石糖取水場前	1.0	1.0	0.9	0.7	0.7	0.7	0.5	0.6	0.7	0.7
25	36	雄樋川	D	8	前川	4.7	2.8	2.5	2.7	1.8	2.8	5.5	2.7	1.7	1.5
					石川橋	6.3	6.4	**17**	3.7	5.5	3.6	5.5	4.6	3.5	3.6
環境基準未達成水域数						4	5	4	2	1	1	0	0	1	2
環境基準類型指定水域数						36	36	36	36	36	36	36	36	35	35
達成率%(環境基準達成水域数／指定水域数×100)						89	86	89	94	97	97	100	100	97	94

＊網掛けは、環境基準未達成。

＊太字かつ下線付きの水域は、平成16年度に上位の類型に見直しを行った水域です。

(4) 各河川の概況及び水質

ア　比謝川

比謝川は、沖縄本島の中部に位置し、その源を沖縄市の緩やかな丘陵地帯に発し、沖縄市市街地を南北に貫流し、沖縄市美里地先においてカフンジャー川を合流した後、流れを西方に変え与那原川（二級河川）等の支川を合流しながら、国道58号付近で長田川と合流し、読谷村と嘉手納町の境界で東シナ海に注ぐ幹線流路延長21.8km（比謝川15.4km、与那原川6.4km)、流域面積50.9km^{2}の沖縄本島最大の二級河川です。

昭和48年度に、比謝橋下流の堰堤からトニー橋までと長田川を水質環境基準のB類型（BOD ３mg/L)、トニー橋から与那原川合流点までをC類型（BOD ５mg/L)、与那原川合流点から上流とハンザ川の昭和橋までをD類型（BOD ８mg/L）に指定しました。その後、上流域の水質が改善傾向にあったことから、平成15年度末に与那原川合流点から上流の類型を見直し、平成16年度以降はC類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、図①のとおりです。比謝川ポンプ場地点では平成13年度以降継続して環境基準を達成しています。トニー橋地点では平成８年度から継続して環境基準を達成しています。与那原川合流点地点では昭和63年度から継続して環境基準を達成しており、平成16年度に以前のD類型よりC類型に見直しましたが、その後も環境基準を達成しています。平成25年度末に３水域の水域類型指定を２水域に改正し、それに伴って、トニー橋での測定を終了しています。

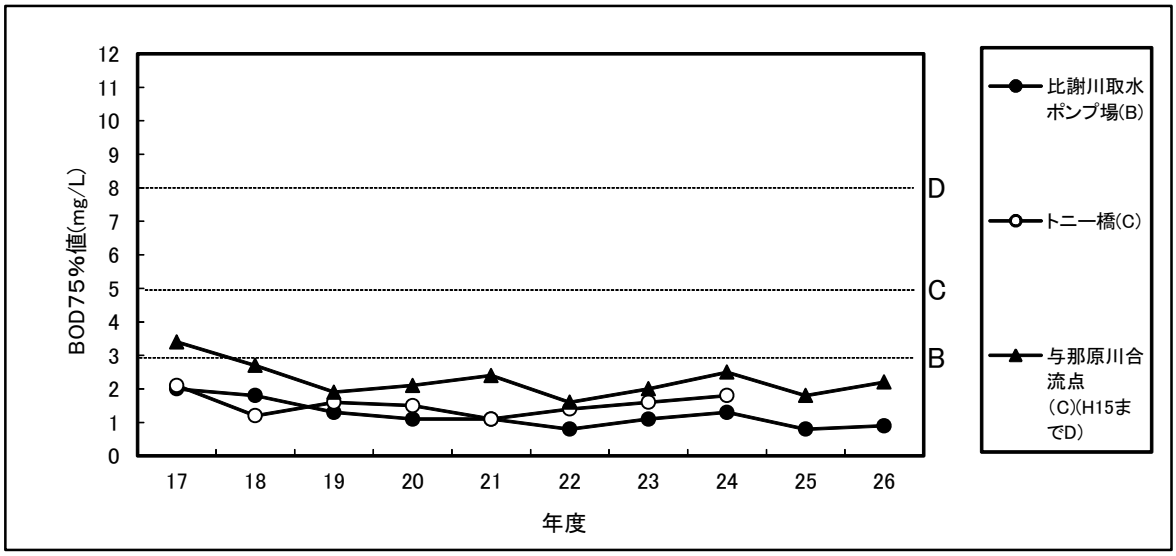


図1　比謝川の水質（BOD75%値）経年変化

イ　国場川

国場川は、与那原町と西原町の境界にある運玉森に源を発し、準用河川の宮平川、普通河川の宮城川と合流し、那覇市と南風原町の市街地を貫流したのち、２級河川の長堂川饒波川

と合流し、河口部で２級河川の久茂地川と合流後那覇港へ注ぐ、流域面積43.1km 、幹線流路延長11.3kmの二級河川です。昭和48年度に真玉橋から下流をC類型（BOD ５mg/L)、真玉橋から上流をE類型（BOD 10mg/L）に指定しています。

環境基準点における水質の経年変化は、那覇大橋及び真玉橋の両地点で改善しており、那覇大橋では平成14年度以降は環境基準を達成し、改善傾向が見られます。真玉橋地点では平成12年度以降継続して環境基準を達成し、ここ数年は横ばいとなっています。

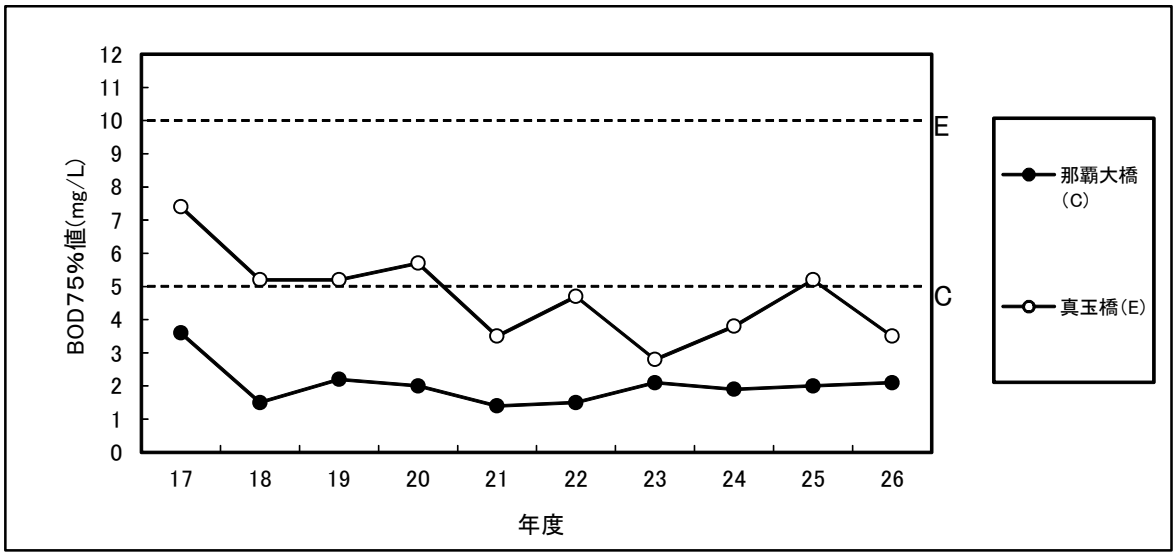


図2　国場川の水質（BOD75％値）経年変化

ウ　満名川

満名川は、沖縄本島北部の本部町に位置し、その源を八重岳と伊豆味の山中に発し、普通河川の笹川、佐伊土間川、伊野波川（準用河川)、尻無川、ウナジャラ川の支川を合わせつつ、本部町の市街地を西に向かって流下し、東シナ海に注ぐ、流域面積12.1km^2、幹線流路延長4.4km の二級河川です。

昭和49年度に伊野波川合流点から渡久地橋までをB類型（BOD ３mg/L）に、伊野波川合流点から上流をA類型（BOD ２mg/L）に指定し、翌年度から適用しました。その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は伊野波川合流点から渡久地橋までの類型を見直し、B類型からA類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、伊野波川合流点地点で昭和58年度は未達成となりましたが、それ以外はすべて基準を達成しています。

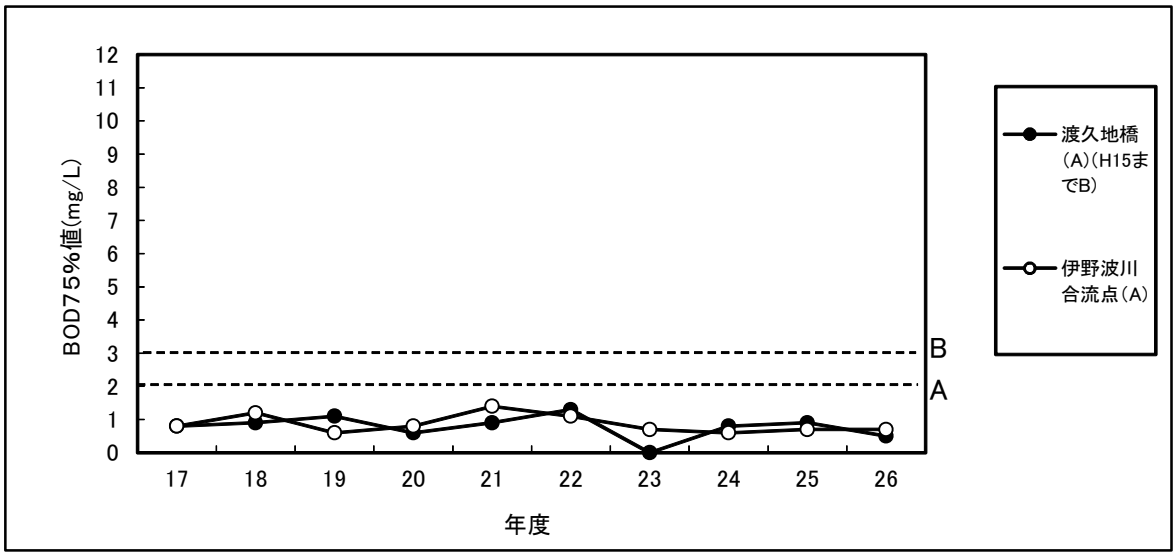


図3　満名川の水質（BOD75％値）経年変化

エ　天願川

天願川は、沖縄本島中部のうるま市に位置し、その源を読谷山岳に発し、川崎川(二級河川)やヌーリ川(準用河川)等を合わせ、金武湾(太平洋)に注ぐ、流域面積31km²、幹川流路延長10.7kmの二級河川で、水道水源として取水されるなど利水上重要な河川です。

昭和50年度に企業局取水場から上流をB類型（BOD ３mg/L)、下流をC類型（BOD ５mg/L）に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は取水場から下流河口までの類型を見直し、B類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、図④のとおりです。河口地点では昭和62年度より継続して環境基準を達成しています。支流の川崎川との合流点下流地点では、平成19年度以降環境基準を達成していましたが、平成26年度は未達成となりました。

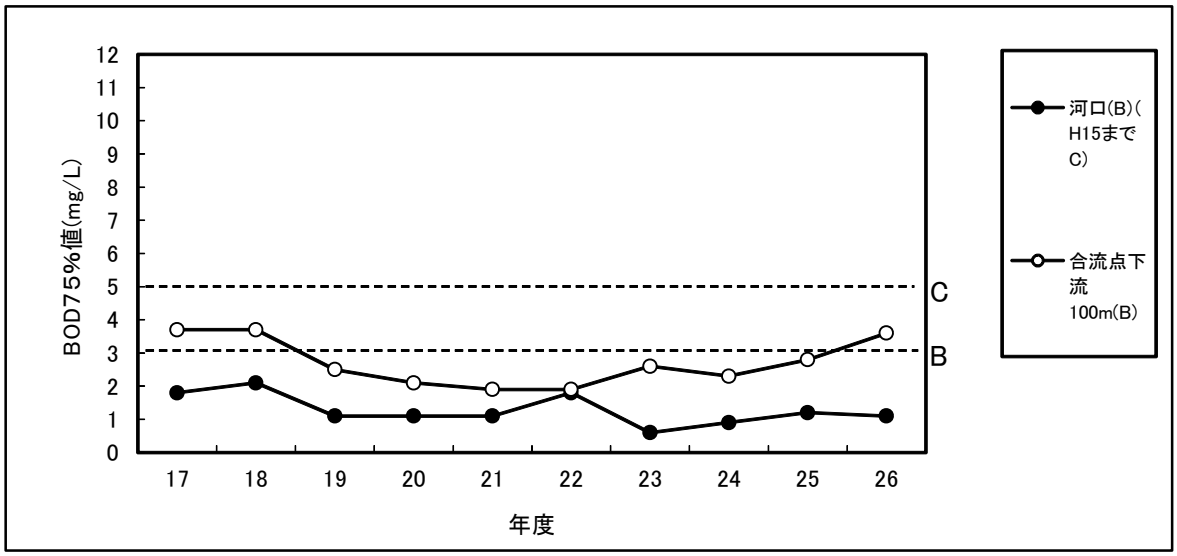


図4　天願川の水質（BOD75％値）経年変化

オ　我部祖河川

我部祖河川は、沖縄本島北部の名護市に位置し、その源を名護岳(345.2m)に発し、北西に流下した後、喜知留川(普通河川)と合流し、平地に広がる畑の中を直線的に流れ、奈佐田川(普通河川)と合流した後は、流れを北東に転じ、河口部で蛇行して羽地内海に注ぐ、幹川流路延長6.1km、流域面積14.7km2 の二級河川です。

昭和50年度に上流をA類型（BOD ２mg/L)、中流をD類型（BOD ８mg/L)、支流の奈佐田川をA類型に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は中流域の類型を見直し、A類型としています。

環境基準点における水質の経年変化は、図⑤のとおりです。支流の奈佐田川は平成４年度以降、環境基準を達成しています。我部祖河川中流(奈佐田川との合流点から上流)はD類型の環境基準は達成していましたが、平成16年度からA類型の基準を適用したところ、平成16、18及び19年度は環境基準を達成しませんでした。しかし、平成20年度以降は環境基準を達成しています。

上流地点の石橋(山田橋)地点では、昭和51年度の測定以降、平成８、23、24年度以外は環境基準を達成しておらず、平成26年度も未達成となりました。平成22年度に行われた汚濁負荷量調査によると、生活排水がその原因とされています。

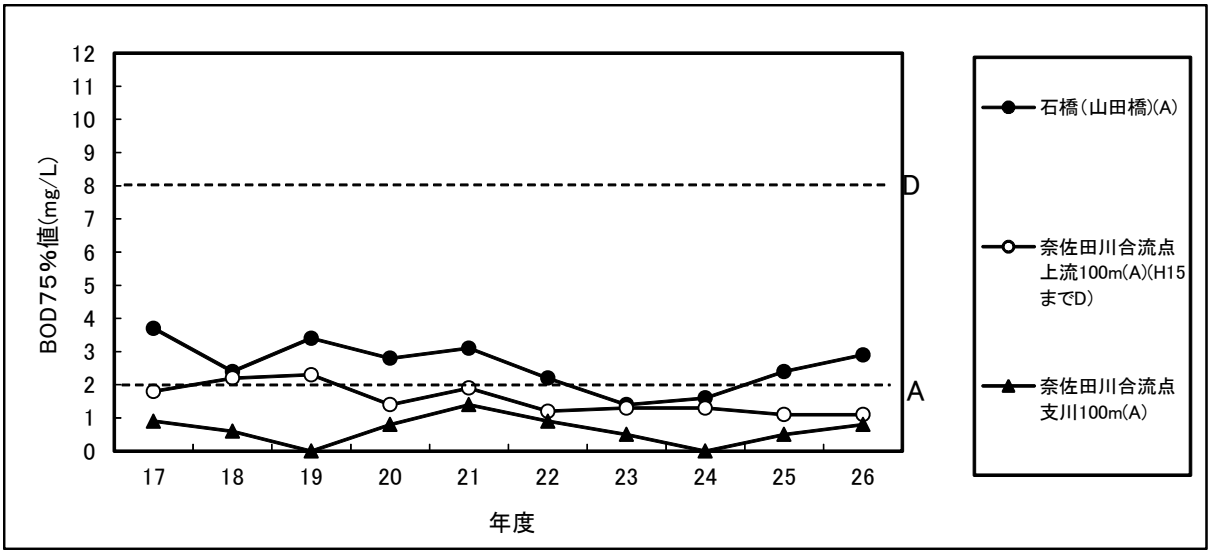


図5　我部祖河川の水質（BOD75%値）経年変化

カ　汀間（ていま）川

汀間川は、本島北部の名護市に位置し、東海岸の大浦湾に注ぐ流域面積12.7km^2、指定延長４kmの河川です。昭和52年度に三原小中学校前堰堤から上流をA類型（BOD ２mg/L)、下流をB類型（BOD ３mg/L）に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は下流域の類型を見直し、A類型としています。環境基準点における水

質の経年変化は、三原小中校前堰堤上流50mの橋では類型指定以降、昭和56年度以外は環境基準を達成しており、嘉手苅橋から上流200m地点においては平成２年度、平成４年度以外は環境基準を達成しています。

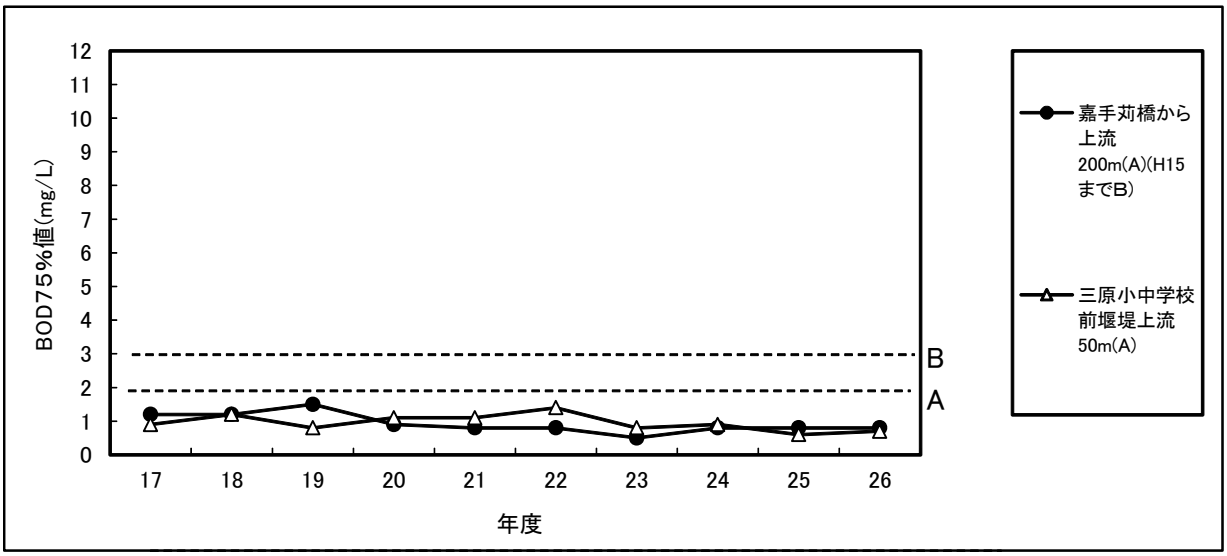


図6　汀間川の水質（BOD75％値）経年変化

キ　久茂地川・安里川・安謝川

久茂地川は、那覇市泊の崇元寺付近で安里川から分岐し、明治橋を経由して那覇港に注ぐ流域面積3.3km^2、指定延長２kmの典型的な都市河川です。昭和53年度にE類型（BOD 10mg/L）に指定していましたが、その後、水質が改善傾向にあったことから、平成16年度以降は類型を見直し、C類型（BOD ５mg/L）としています。環境基準点における水質の経年変化は、平成９年度以降継続して環境基準を達成しています。

安里川は、那覇市東部の弁ケ嶽（標高166m）に水源を発し、南風原町新川地先を南西方向に向かい、那覇市に入って流れを北西方向に変え、真嘉比川等の支川を合わせ、久茂地川を分流し東シナ海に注ぐ、流路延長13.6km（安里川7.3km、真嘉比川3.3km、久茂地川２km、潮渡川１km)、流域面積13.2km^{2}の二級河川です。久茂地川と同様、昭和53年度にE類型に指定しましたが、平成16年度以降は類型を見直し、D類型（BOD ８mg/L）としています。環境基準点における水質の経年変化は、平成９年度以降継続して環境基準を達成しています。

安謝川は、那覇市及び浦添市に位置し、その源を那覇市首里石嶺町の標高100～ 160m の丘陵地に発し、丘陵に広がる住宅地の中を南西に流下し支川石嶺川（普通河川）を合わせ、中流域の末吉公園の中を流下した後に、支川沢岻川（普通河川)、銘苅川（普通河川）を合わせ東シナ海に注ぐ、幹川流路延長5.7km、流域面積8.1km^{2}の二級河川です。昭和53年度にE類型に指定しましたが、平成16年度以降は類型を見直し、C類型としています。環境基準点における水質の経年変化は、平成９年度以降継続して環境基準を達成しています。

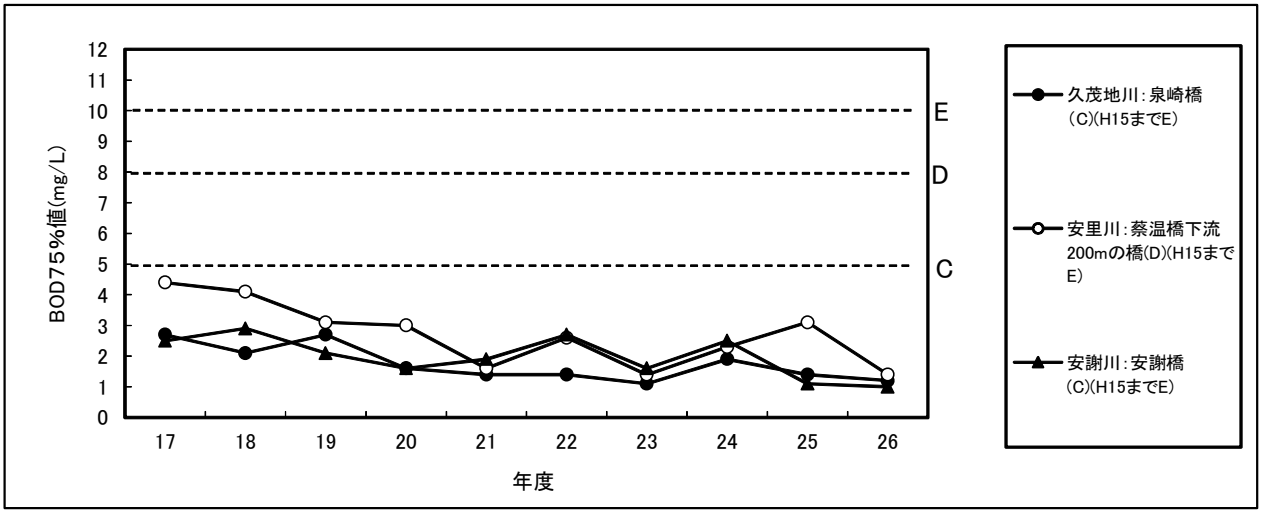


図7　久茂地川・安里川・安謝川の水質（BOD75％値）経年変化

ク　報得（むくえ）川

報得川流域は、沖縄本島南部に位置し、南城市大里稲嶺で耕作地の水を集めた小さな溝を源として、南西方向に向かい流れ、南城市、八重瀬町、糸満市をまたぎ兼城にて流路を北に向け東シナ海に注ぐ、幹線流路延長10.82km、流域面積19.24km^2 の二級河川です。

昭和54年度にE類型（BOD 10mg/L）に指定しています。環境基準点における水質の経年変化は、平成18年度まで多くの年で環境基準を達成していませんでしたが、平成19年度以降は環境基準を達成しており、改善傾向が見られます。

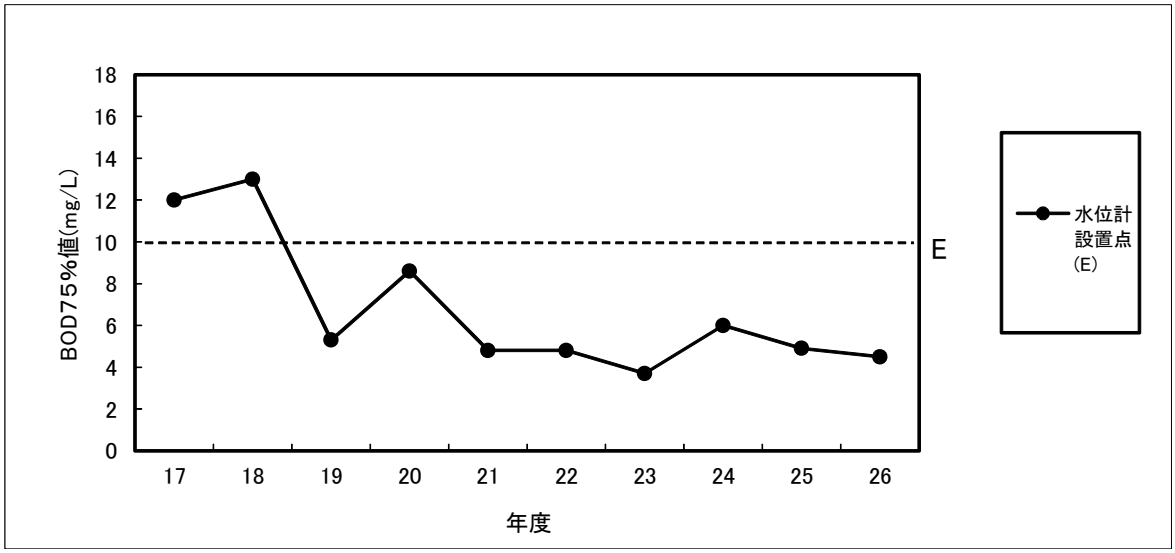


図8　報得川の水質（BOD75％値）経年変化

ケ　牧港川

牧港川は、西原町を源とする牧港川と宇地泊川がそれぞれ、浦添市、宜野湾市を経て国道

58号線の付近で合流ののち牧港湾に注ぐ、流域面積23.22km²、指定延長9.3km(牧港川3.3km、宇治泊川６km）の河川で、昭和55年度にC類型（BOD ５mg/L）に指定しています。環境基準点における水質の経年変化は、牧港川取水場跡では昭和59年度より環境基準を達成していませんでしたが、平成21年度以降、環境基準を達成しています。宇地泊川取水場跡では平成10年度以降継続して環境基準を達成しており、両地点とも改善傾向が見られます。

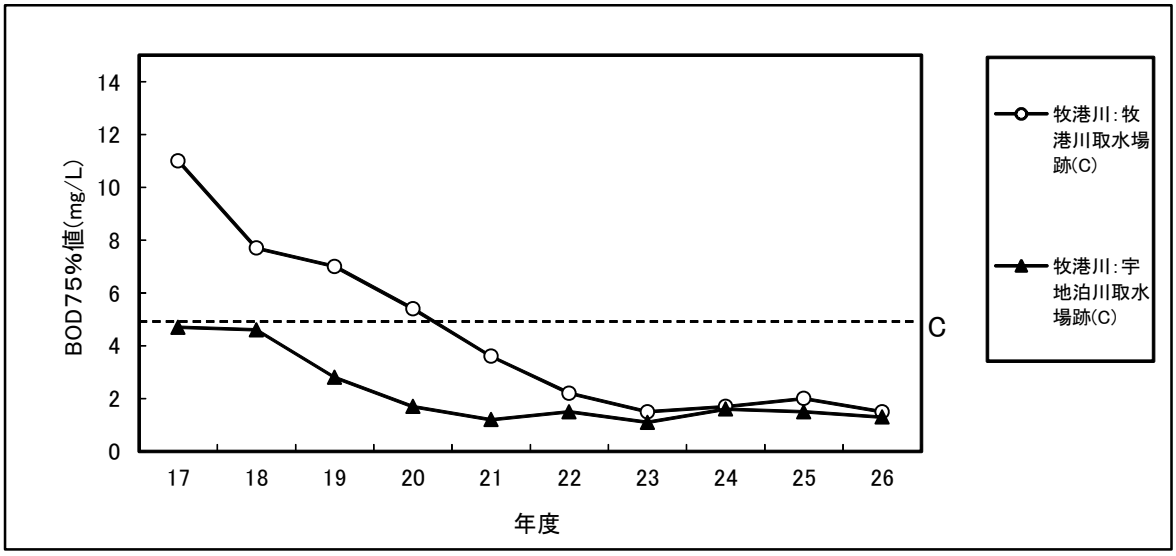


図9　牧港川の水質（BOD75%値）経年変化

コ　饒波川（のは）

国場川流域の南側に位置する饒波川は、大里城跡付近に源を発し、普通河川の轟川、根差部川と合流し、河口の漫湖で国場川に合流する流域面積14.6km²、幹川流路延長15.6kmの二級河川で、昭和58年度にD類型（BOD ８mg/L）に指定しています。

環境基準点においては、平成12年度以降継続して環境基準を達成しています。

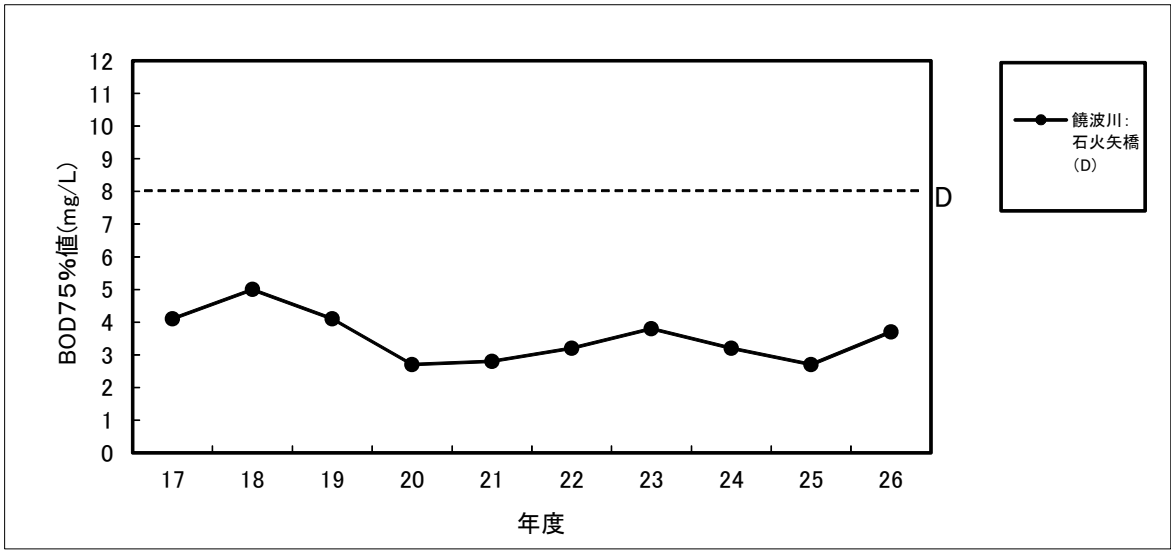


図10　饒波川の水質（BOD75%値）経年変化

サ　源河川・平南川・大保川

源河川は、名護市字源河の大湿帯と一ツ岳に源を発し、源河集落内を経て東シナ海に注ぐ、流域面積19.96km^2、指定延長13.5kmの河川で、昭和62年度にA類型に指定しています。環境基準点における水質の経年変化はきわめて良好な状態で安定的に推移しており、類型指定以降、環境基準を達成しています。

平南川は、名護市と大宜味村に連なる山岳地帯を源として東シナ海に注ぐ流域面積11.1 km^2、河川延長5.3kmの河川で、平成元年度にA類型に指定しています。平成５年度より継続して環境基準を達成しています。

大保川は、沖縄本島北部の大宜味村に位置し、その源を幸地山※(海抜295m)付近に発し、普通河川の大工又川、江洲川と合流して塩屋湾に注ぐ、流域面積23.7km^2、幹川流路延長10.3kmの二級河川で、平成元年度にB類型（BOD ３mg/L）に指定していましたが、平成16年度以降は、A類型（BOD ２mg/L）としています。平成５年度より継続して環境基準を達成しています。(※地元での呼称)

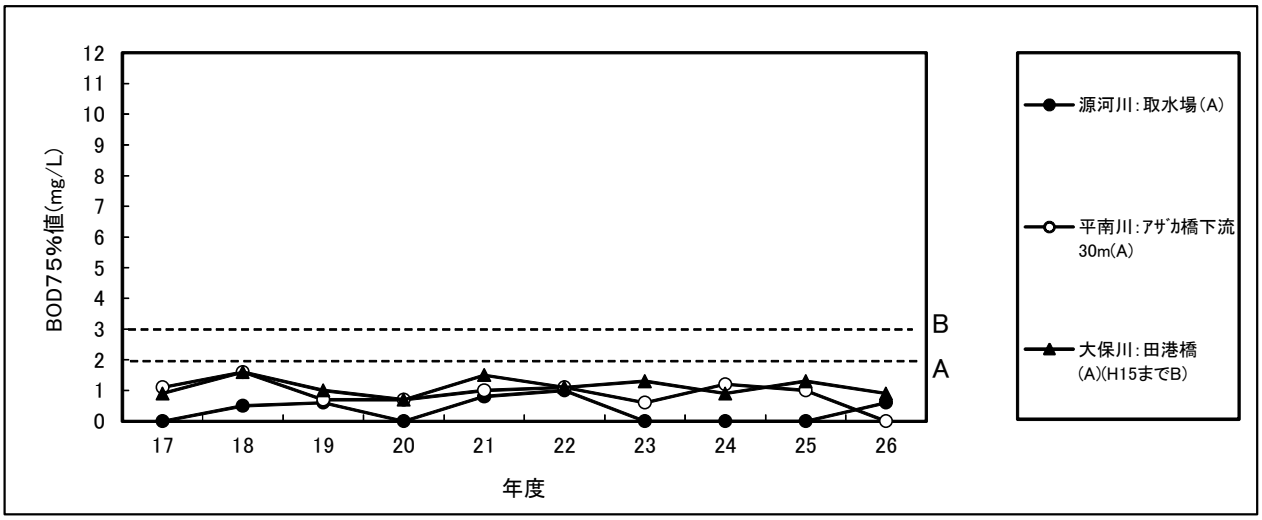


図11　源河川・平南川・大保川の水質（BOD75%値）経年変化

シ　宮良川・名蔵川

宮良川は、石垣島の於茂登岳山系に源を発し南下して宮良湾に注ぐ流域面積47.93 km^2、指定延長16.5km（宮良川12km、底原川4.5km)の河川で、河口付近にマングローブが繁茂する石垣島最大の河川です。平成元年度にA類型（BOD ２mg/L）に指定しています。環境基準点における水質の経年変化は図⑫のとおりで、平成12年度以降継続して環境基準を達成しています。

名蔵川は、沖縄本島の南西約400kmの東シナ海にある石垣島の西側に位置し、その源を於茂登山系に発し、白水川（普通河川）や於茂登岳を源とするブネラ川（二級河川）を合わせ、石垣市元名蔵において名蔵湾へ注ぐ、幹川流路延長約5.3km、流域面積16.14km^{2}の二級河川です。河口付近は「アンパル」と呼ばれる広大な泥湿地帯となっており、マングローブ林が

発達しています。平成元年度に宮良川と同様にA類型に指定しています。環境基準点における水質の経年変化は平成12年度以降、環境基準を達成しています。

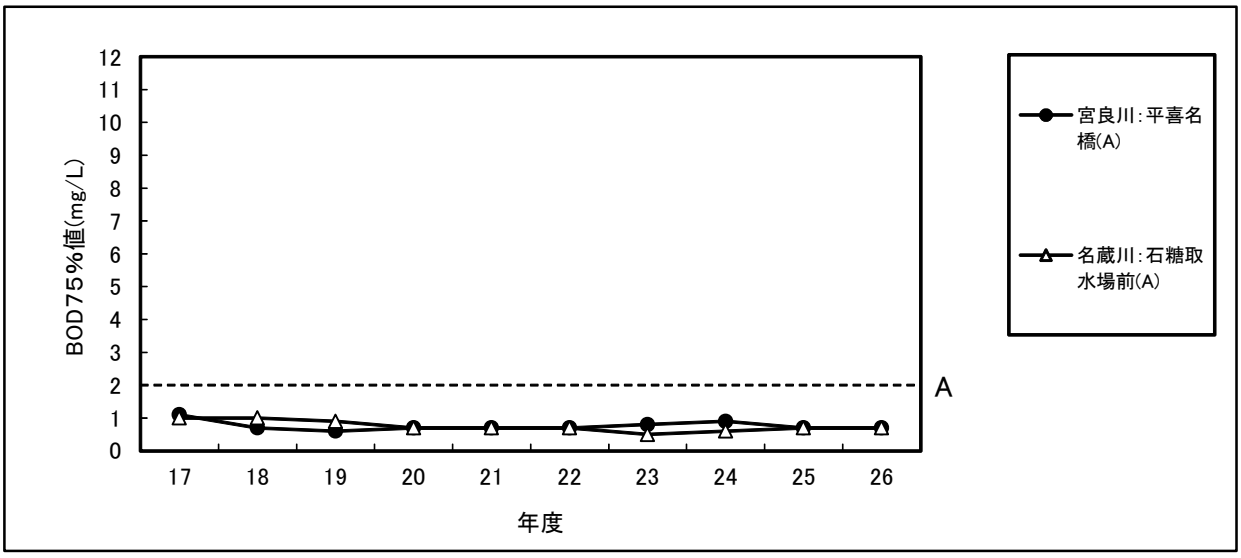


図12　宮良川・名蔵川の水質（BOD75%値）経年変化

ス　雄樋川

雄樋川は、南城市大里の大城ダムを源に、南城市玉城、八重瀬町を流れ、港川漁港に注ぐ流域面積13.74km^2、指定延長2.5kmの河川で、平成８年度にD類型（BOD ８mg/L）に指定しています。前川(前川橋)地点は平成15年度以降継続して環境基準を達成しています。また、石川橋地点では平成19年度まで多くの年で環境基準を達成していませんでしたが、平成20年度以降は環境基準を達成しています。

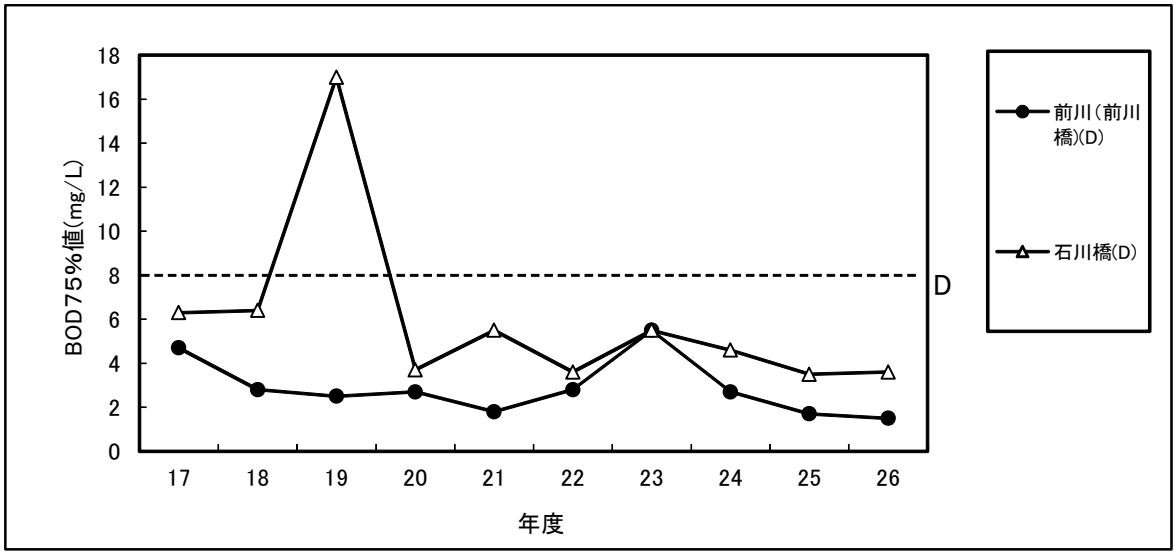


図13　雄樋川の水質（BOD75%値）経年変化

セ　福地川・漢那川・羽地大川・新川川・安波川・普久川（ふん）川・辺野喜川

福地川、漢那川、羽地大川、新川川、安波川、普久川及び辺野喜川は、沖縄本島北部に位

置し、上流は国管理ダム湖で、県民の水甕となっています。

福 地 川：太平洋に注ぐ流域面積52.1km²、指定延長25.1kmの河川で昭和49年度にA類型に指定。

漢 那 川：太平洋に注ぐ流域面積９km²、指定延長3.5kmの河川で昭和50年度に企業局取水点から上流をA類型に指定。

羽地大川：羽地内海に注ぐ流域面積32.8km²、指定延長15.3kmの河川で、昭和50年度にA類型に指定。

新 川 川：太平洋に注ぐ流域面積11.3km²、指定延長6.2kmの河川で昭和52年度にA類型に指定。

普 久 川：太平洋に注ぐ流域面積17km²、指定延長７kmの河川で昭和52年度に上流をA類型、下流をB類型に指定。平成15年度に下流をA類型に見直し。

安 波 川：太平洋に注ぐ流域面積49km²（普久川を除く）、指定延長10.8km（同左）で昭和52年度に上流をA類型、下流をB類型に指定。平成15年度に下流をA類型に見直し。

辺野喜川：東シナ海に注ぐ流域面積13.2km²、指定延長８kmの河川で、昭和57年度にA類型に指定。

環境基準点における水質の経年変化は、図14から図17のとおりで、ここ10年では全ての地点で継続して環境基準を達成しています。

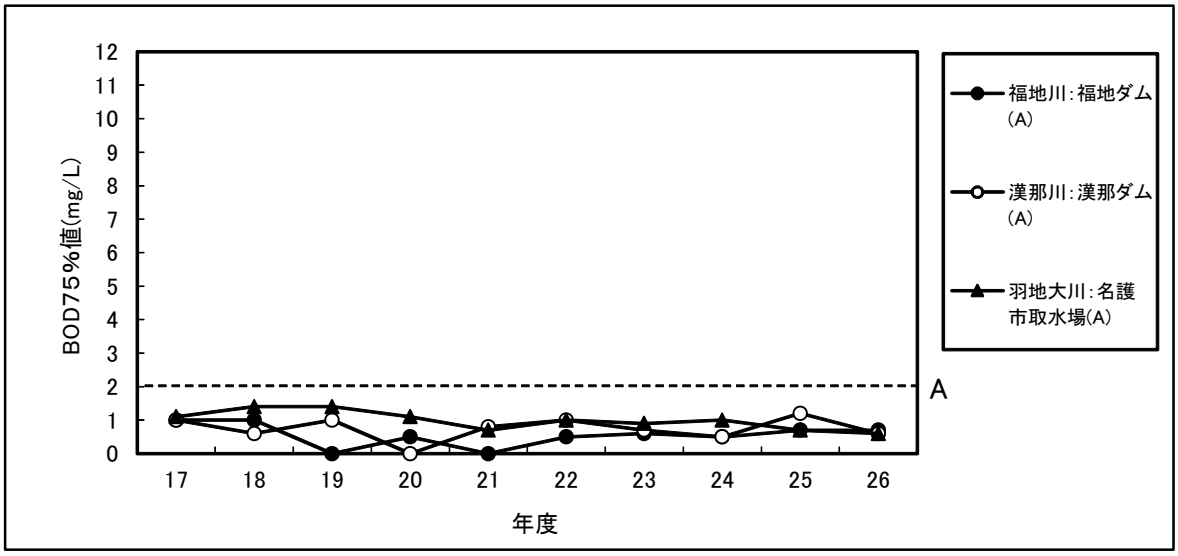


図14　福地川・漢那川・羽地大川の水質（BOD75%値）経年変化

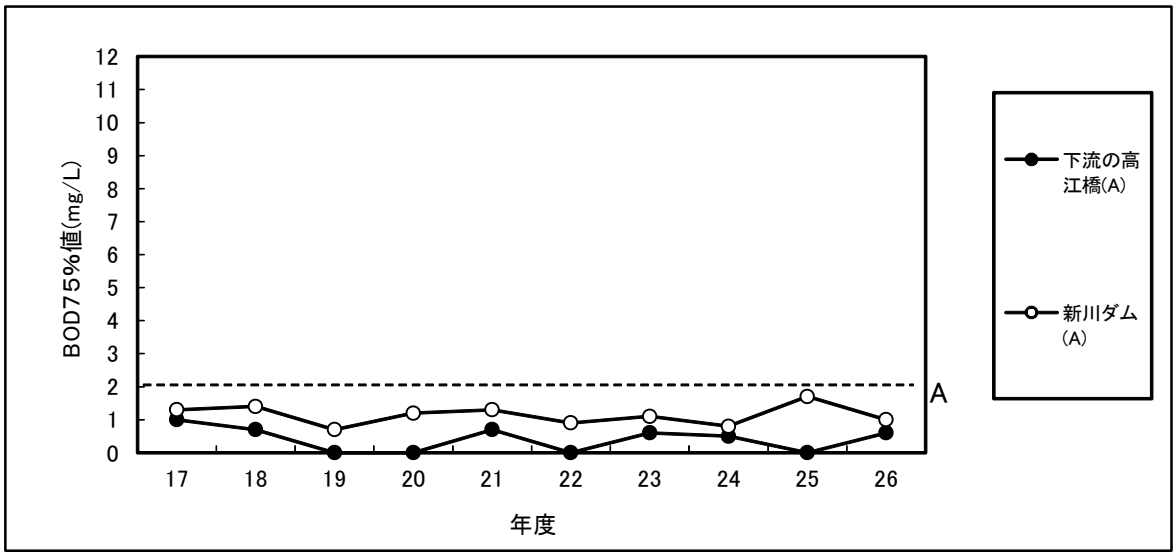


図15　新川川の水質（BOD75%値）経年変化

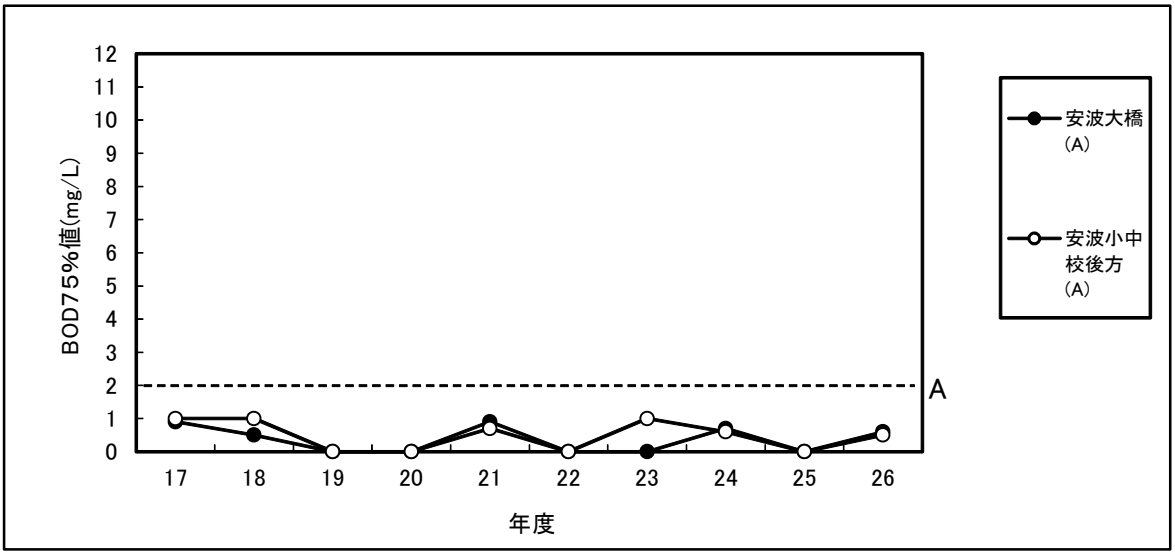


図16　安波川の水質（BOD75%値）経年変化

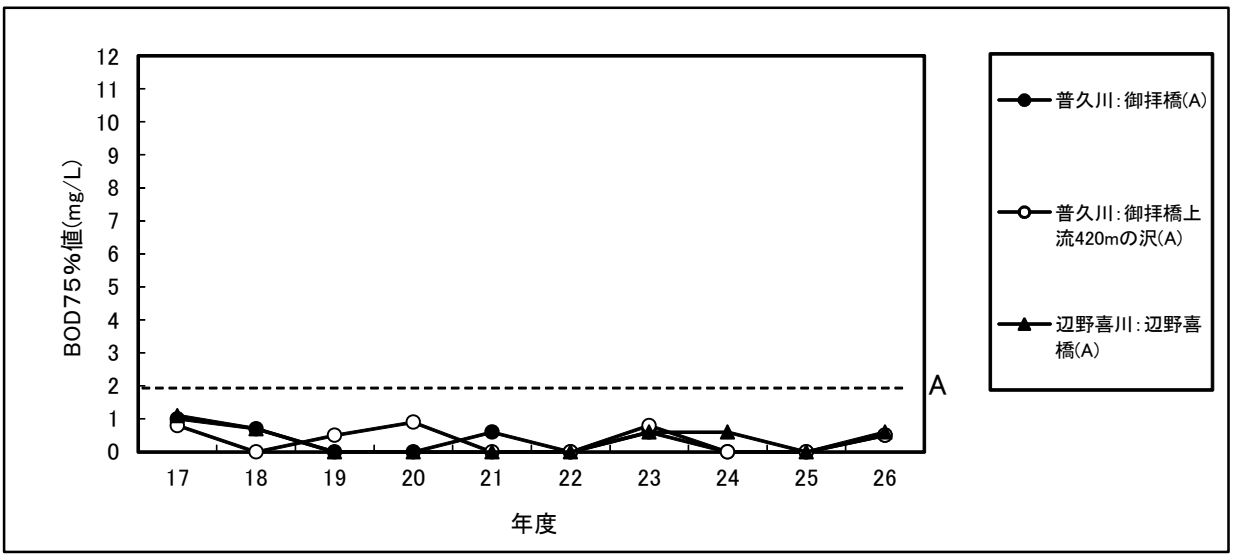


図17　普久川、辺野喜川の水質（BOD75%値）経年変化

(5) 健康項目測定地点数（海域）

番号	海　域　名	調査地点数
1	中　城　湾	1
2	与　勝　海　域	1
3	金　武　湾	1
4	那　覇　港　海　域	1
5	名　護　湾	1
6	平　良　港	1
7	与　那　覇　湾	1

番号	海　域　名	調査地点数
8	石　垣　港	1
9	川　平　湾	1
10	羽　地　内　海	2
11	糸　満　海　域	1
12	恩　納　海　域	1
13	伊　佐　海　域	1
合　計		14

(6) 健康項目測定結果（海域）

測定項目	調査地点数	環境基準超過地点数
カドミウム	14	0
全シアン	14	0
鉛	14	0
六価クロム	14	0
砒素	14	0
総水銀	14	0
アルキル水銀	14	0
PCB	14	0
ジクロロメタン	14	0
四塩化炭素	14	0
1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	14	0
1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	14	0
ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	14	0

測定項目	調査地点数	環境基準超過地点数
1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	14	0
1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	14	0
トリクロロエチレン	14	0
ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	14	0
1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	14	0
チウラム	14	0
シマジン	14	0
チオベンカルブ	14	0
ベンゼン	14	0
セレン	14	0
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	14	0
1,4-ジオキサン	14	0
合　計	350	0

(7) 海域水質の環境基準達成状況

海域No	水域No	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	環境基準点	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
1	1	中城湾	A	2	当添海岸	1.2	1.6	1.8	**2.8**	1.4	1.2	1.0	1.2	1.4	1.0
					湾内2	1.2	1.2	1.8	1.0	1.4	1.1	0.8	1.0	1.6	1.0
					湾内3	1.2	1.8	1.6	0.6	0.8	1.0	1.2	1.6	1.2	1.0
2	2	与勝海域	A	2	埋立地西海域	0.6	1.6	1.0	1.0	0.6	1.1	1.2	1.1	1.2	1.6
3	3	金武湾	A	2	天願川河口地先	0.8	1.0	2.0	0.9	1.5	1.4	1.3	1.7	1.2	1.2
					石川ビーチ沖	0.8	1.4	1.4	1.0	0.8	1.3	1.6	1.8	1.5	1.1
					湾口中央	0.6	1.4	0.9	0.6	1.1	1.1	1.3	1.4	1.2	0.6
4	4	那覇港海域	A	2	那覇港沖	1.3	1.5	1.8	0.5	0.6	1.2	0.6	1.2	1.8	1.9
					那覇港内	**2.5**	**3.7**	**3.2**	1.2	2.0	**3.2**	1.2	1.4	**3.3**	**2.3**
					那覇新港入口	1.2	1.5	1.6	0.8	0.8	1.2	0.6	0.8	1.8	1.9
					泊港内	**2.6**	**2.6**	1.8	2.0	1.6	2.0	0.7	1.2	**2.5**	**2.3**
					自謝加瀬東	0.7	2.0	**2.4**	0.6	0.8	0.6	<0.5	0.8	1.9	1.9
5	5	名護湾	A	2	名護海岸	1.4	1.5	1.6	1.6	1.6	1.8	1.3	1.5	1.8	1.8
					湾内	1.5	1.2	1.4	1.7	1.5	1.4	1.0	1.3	1.9	1.8
					部間海岸	1.3	1.5	1.0	1.7	1.2	1.1	1.2	1.5	1.8	1.8
6	6	平良港	A	2	第3埠頭北岸から北300m	1.0	1.0	1.8	1.0	1.2	1.6	1.4	1.2	1.4	1.4
7	7	石垣港	A	2	新栄町地区南西端西300m	2.0	1.6	1.2	0.8	1.2	1.2	1.6	1.8	1.3	1.0
8	8	川平湾	A	2	小島南先端と双葉地先を結ぶ線上の中心点	2.0	1.4	1.2	0.8	0.9	0.8	1.4	1.3	1.4	1.7
9	9	羽地内海(1)	B	3	仲尾次漁港西埠頭から北西100m	1.7	1.8	1.8	1.8	1.5	1.7	1.7	1.6	1.8	1.9
					呉我船揚場から北へ400m	1.7	1.6	1.8	1.5	1.5	1.6	1.4	1.7	1.8	1.8
	10	羽地内海(2)	A	2	羽地内海中央	1.5	1.7	1.5	1.7	1.3	1.4	1.2	1.6	1.8	1.8
					内海北水路南端	1.3	1.6	1.4	1.7	1.1	1.6	1.1	1.3	1.7	1.9
10	11	糸満海域	A	2	糸満漁港	1.4	1.7	1.3	1.8	1.7	1.3	1.1	1.6	1.8	1.9
					糸満漁港沖	1.1	1.3	1.4	1.6	1.6	0.9	1.1	1.7	1.8	1.8
					岡波岩東	1.1	1.4	1.5	1.1	1.5	1.1	1.2	1.7	1.9	1.9
11	12	恩納海域	A	2	伊武部海岸地先	1.4	1.1	1.6	1.6	1.5	1.0	0.9	1.3	1.8	1.7
					恩納漁港地先	1.3	1.2	1.3	1.8	1.4	1.0	0.8	1.5	1.8	1.7
					冨着海岸地先	1.3	1.3	1.7	1.7	1.4	1.2	1.0	1.3	1.7	1.8
					長浜海岸地先	1.4	1.2	1.7	1.6	1.5	1.1	1.0	1.4	1.7	1.7
環境基準未達成水域数						1	1	1	1	0	1	0	0	1	1
環境基準類型指定水域数						12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
達成率%(環境基準達成水域数／指定水域数×100)						92	92	92	92	100	92	100	100	92	92

＊網掛けは、環境基準未達成。

(8) 与那覇湾・伊佐海域の水質の経年変化

海域No.	水域No.	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	測定地点	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
12	13	与那覇湾	－	－	松原地先	1.0	1.0	1.2	1.2	1.8	1.6	2.6	1.0	1.4	1.0
					沖縄製糖旧さん橋北端	0.8	1.2	2.8	2.0	3.4	1.8	4.0	2.4	2.0	2.0
					与那覇地先	0.8	1.2	1.6	2.2	2.6	1.8	3.2	1.8	1.4	1.8
13	14	伊佐海域	－	－	残波岬南	<0.5	1.0	1.1	1.5	1.6	0.8	1.0	1.7	1.6	1.9
					比謝川河口北	0.6	0.8	1.4	1.7	1.4	1.1	0.8	1.7	1.8	1.8
					比謝川河口南	0.8	1.0	1.4	1.9	1.9	1.2	0.7	1.8	1.8	1.9
					水釜地先	<0.5	1.0	1.4	1.8	1.4	0.8	0.8	1.6	1.7	1.9
					砂辺地先	0.8	0.9	1.4	1.8	1.6	0.9	0.7	1.2	1.9	1.8
					白比川地先	0.6	1.0	1.4	1.7	1.5	0.9	1.0	1.5	1.8	1.9
					大山地先	0.8	1.0	1.4	1.8	1.6	0.7	0.8	1.6	1.5	1.9
					沖電地先	0.8	1.2	1.3	1.7	1.4	1.0	0.9	1.3	1.7	1.8
					港川地先	0.6	1.0	1.5	1.9	1.3	0.8	0.7	1.5	1.8	1.7
					ｷｬﾝﾌﾟｷﾝｻﾞｰ地先	0.6	1.2	1.7	1.8	1.0	1.0	0.8	1.8	1.6	1.8

(9) 各海域の概況及び水質

ア　中城湾

中城湾は、沖縄本島中南部の東海岸に位置し、勝連半島、津堅島、久高島及び知念半島に囲まれた面積約240km^{2}の水域で、昭和49年4月には、重要港湾に指定されています。

昭和49年度に環境基準のA類型（COD ２mg/L）に指定しており、環境基準点における水質の経年変化は昭和58年度以降各地点とも環境基準を達成していましたが、平成20年度に当添海岸において基準を達成しませんでした。平成21年度からは環境基準を達成しています。

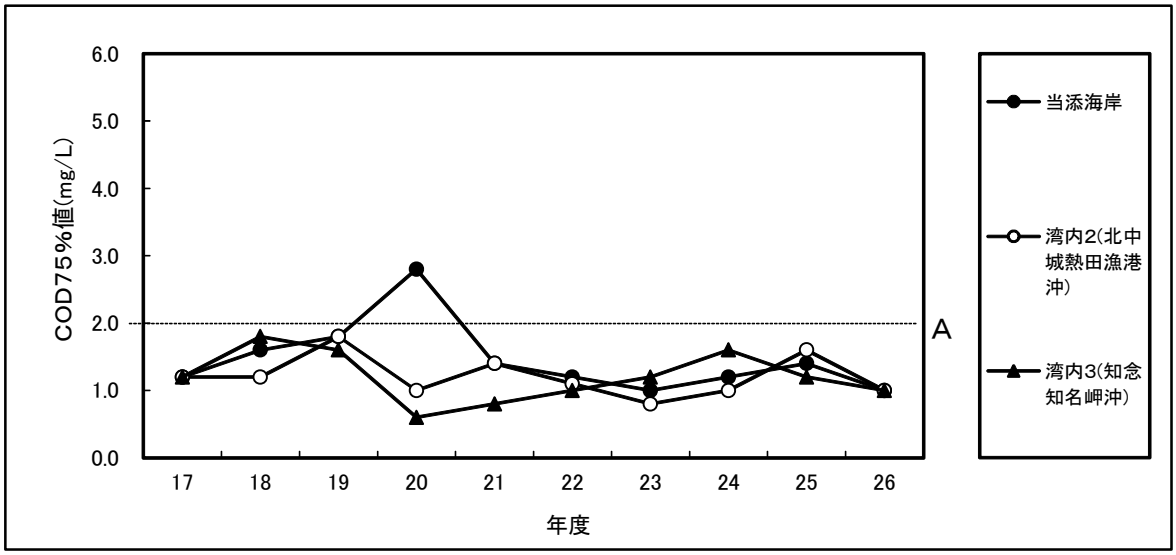


図1　中城湾の水質（COD75％値）経年変化

イ　与勝海域

与勝海域は、沖縄本島中部東側に位置し、平安座島、宮城島、伊計島、浜比嘉島及び勝連半島周辺の面積約66km²の金武湾に接した水域で、陸域には、石油貯蔵基地が立地しています。

昭和49年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好な状態を維持し、指定以来継続して環境基準を達成しています。

ウ　金武湾

金武湾は、金武岬と勝連半島に囲まれた面積約150km²の水域で、湾口は狭く湾奥に向かって入江を形成しており、湾口から湾中央にかけては水深が深いことから、周辺石油及び電力企業への原油等の運搬のために大型タンカー船が航行します。また、同湾は勝連半島と平安座島間の海中道路、平安座島、宮城島及び伊計島で外海と隔てられており、海水の交換は、もっぱら湾口に頼っています。

昭和49年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好な状態を維持しており、平成５年度より継続して環境基準を達成しています。

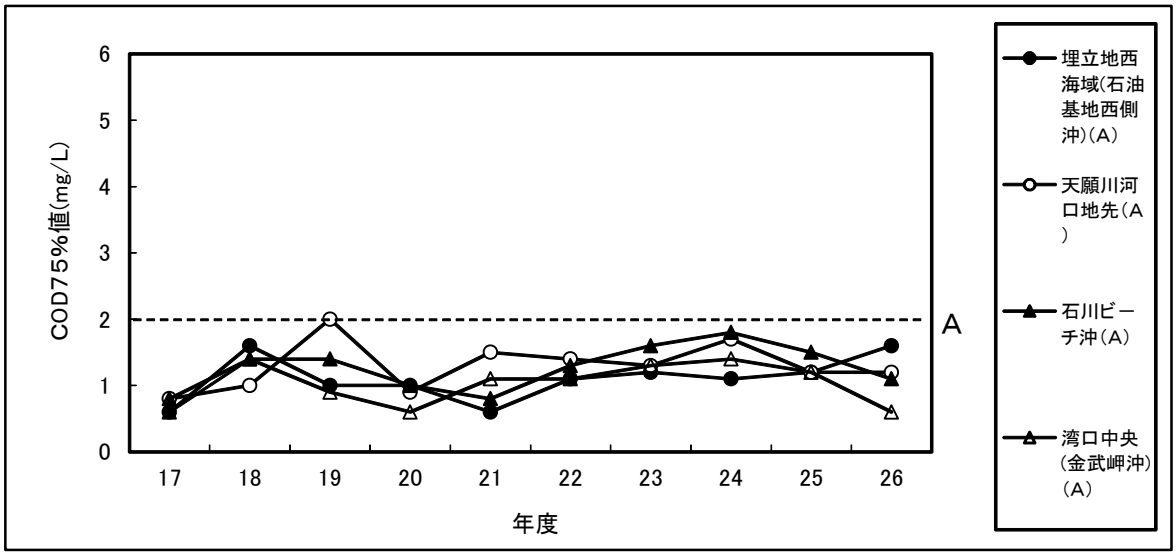


図2　与勝海域、金武湾の水質（COD75%値）経年変化

エ　那覇港海域

那覇港海域は、那覇新港埠頭の伊奈武瀬（いなんせ）から沖合いの自謝加瀬（じじゃかせ）、干ノ瀬（かんびせ）のサンゴ礁を経て那覇空港北岸に囲まれる面積約11km²の水域で、那覇港、泊港及び那覇新港が立地しており、背後には、那覇市街地が広がっています。

昭和50年度に環境基準のA類型に指定しています。最近10年間においては那覇港内は平成20年度及び23～24年度で環境基準を達成しましたが、それ以外の年度は未達成となっています。泊港内では平成19～24年度、自謝加瀬東では平成19年度を除き、環境基準を達成しました。那覇港沖と那覇新港入口では最近10年は基準超過はありません。

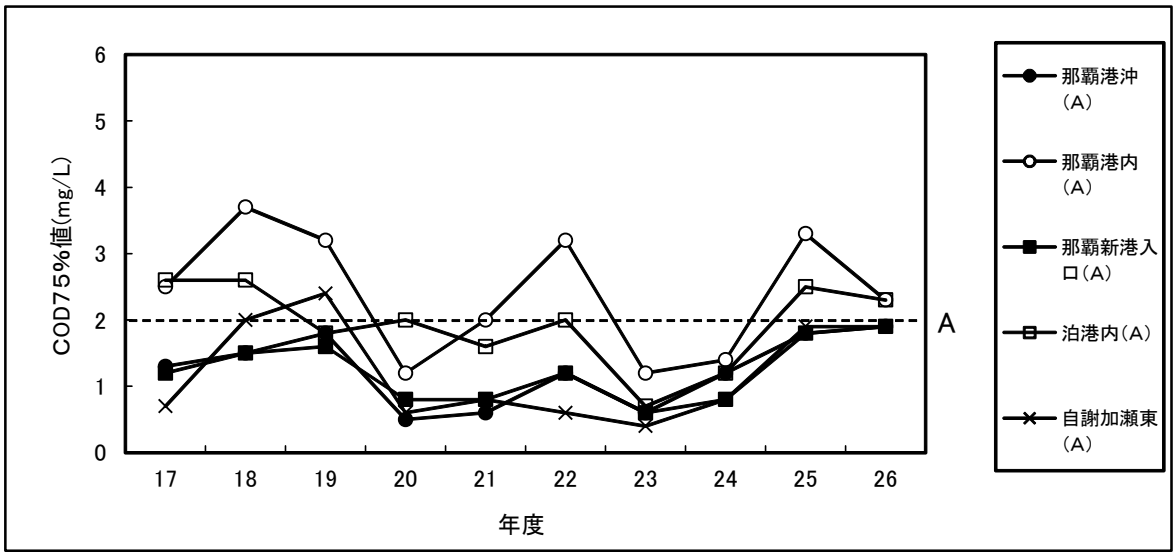


図3　那覇港海域の水質（COD75％値）経年変化

オ　名護湾

名護湾は、沖縄本島北部西海岸に位置し、部瀬名岬と本部半島を結ぶ海岸線に囲まれた面積約47.6km^2 の水域で湾奥には名護市の市街地域が広がっています。また、名護市世冨慶以南は昭和47年に沖縄海岸国定公園に指定されています。

昭和50年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好に推移し、昭和54年度以降継続して環境基準を達成しています。

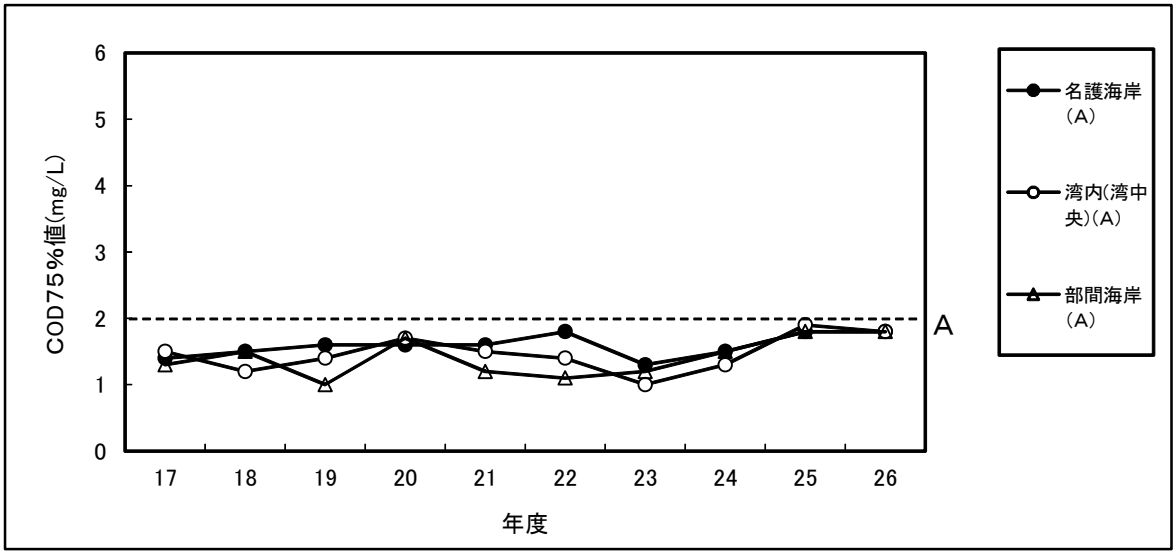


図4　名護湾の水質（COD75％値）経年変化

カ　平良（ひらら）港

平良港は、宮古島西方に位置し、平良市の市街地に面しています。

昭和52年度に環境基準のA類型に指定しており、環境基準点における水質の経年変化は良好に推移し、継続して環境基準を達成しています。

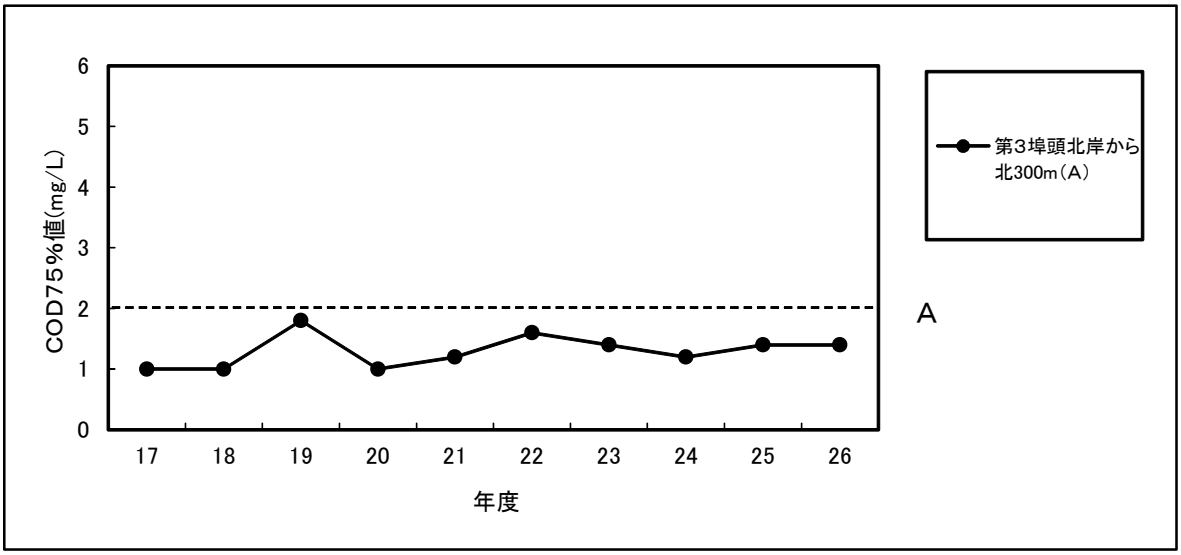


図5　平良港の水質（COD75％値）経年変化

キ　石垣港、川平（かびら）湾

石垣港は、石垣島南部に位置し、面積約19km^2 の海域で石垣市街地に面し、八重山地域の流通港としての中核をなしています。昭和52年度に環境基準のA類型に指定しています。

川平湾は、石垣島北西に位置する風光明媚な入江で、昭和49年度に水産資源保護法に基づく水産動物の繁殖、保護、培養のために必要な措置を講ずるべき保護水面として指定されており、昭和52年度に環境基準のA類型に指定しています。

両海域の環境基準点における水質は良好に推移し、直近の15年間は環境基準を達成しています。

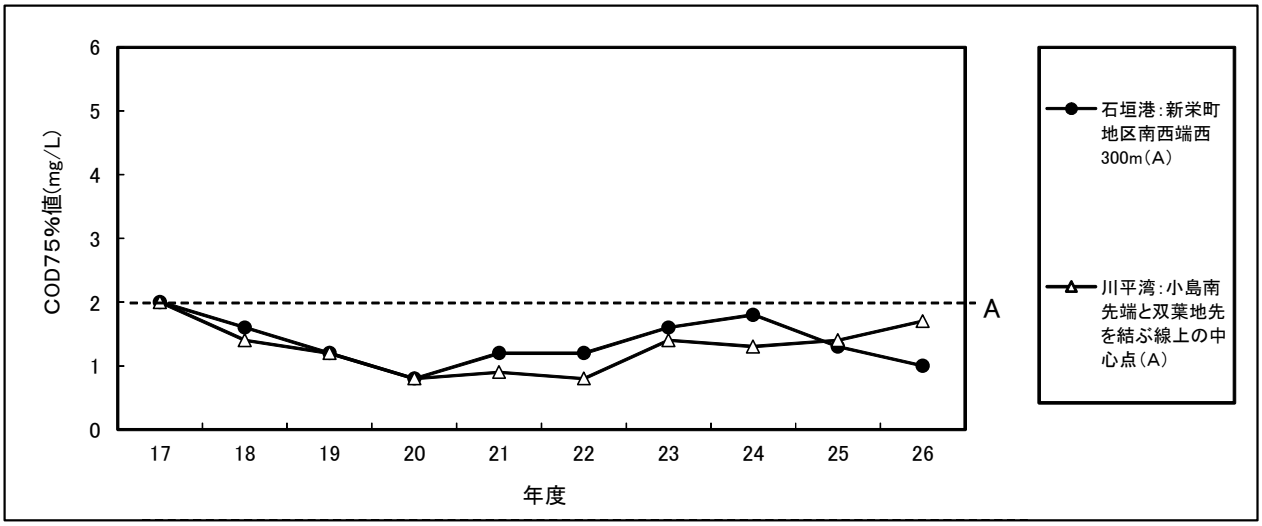


図6　石垣港、川平湾の水質（COD75％値）経年変化

ク　羽地内海

羽地内海は、沖縄本島北部海岸に位置し、本部半島及び屋我地島に囲まれた面積約12km^{2}の風光明媚な内海で、沖縄海岸国定公園及び国設鳥獣保護区に指定されています。

環境基準を昭和57年度に湾奥部の羽地内海、我部祖河川の河口域をB類型（COD ３mg/L）に指定し、その他の海域部をA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は、各地点とも良好に推移しており、昭和63年度より継続して環境基準を達成しています。

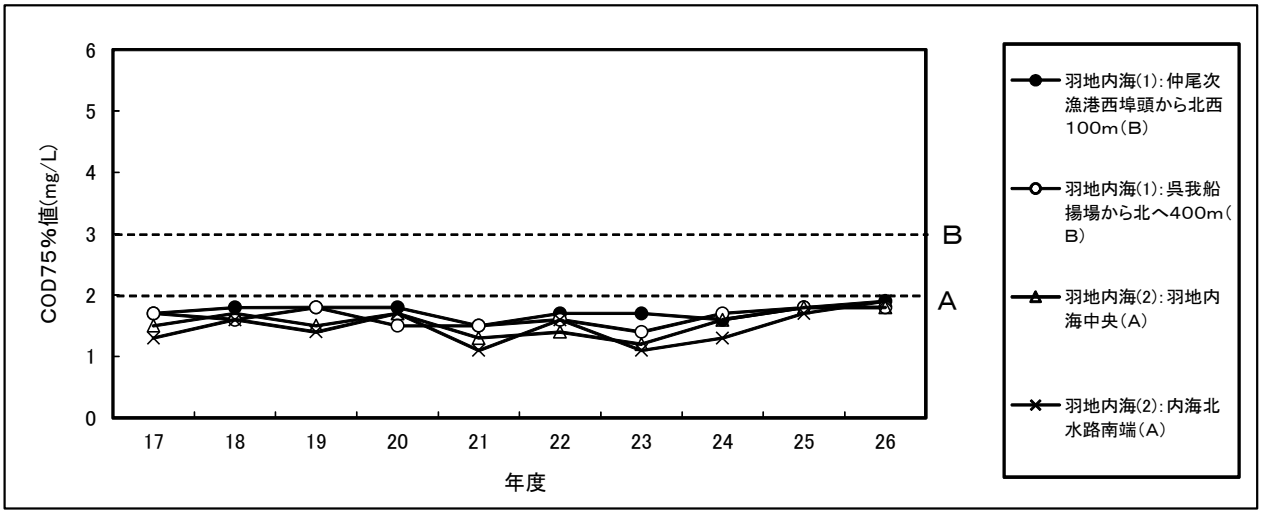


図7　羽地内海(1)、(2)の水質（COD75%値）経年変化

ケ　糸満海域

糸満海域は、本島南部海岸に位置した海域で、糸満市糸満から潮平にかけての西側約274km^{2}を埋立て、糸満臨海工業団地、中小企業団地、沖合側の漁港後背地には水産食品加工団地が建設されているほか、埋め立て地北側は新興住宅地となっています。

昭和60年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好に推移しており、指定以来、継続して環境基準を達成しています。

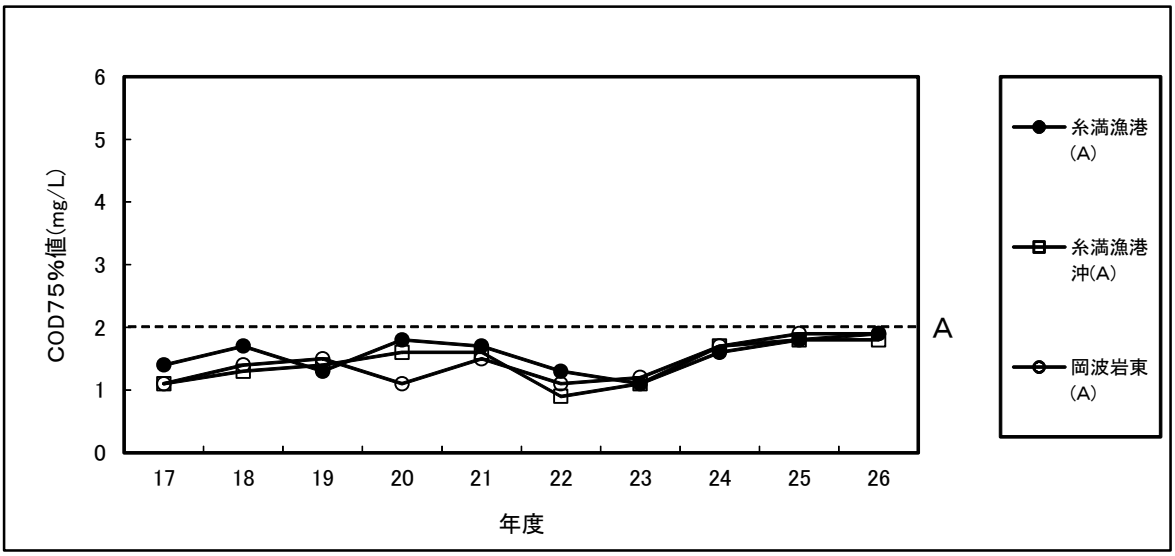


図8　糸満海域の水質（COD75%値）経年変化

コ　恩納海域

恩納海域は、本島北部西海岸に位置し、30数キロに及ぶ風光明媚な海岸線は、白い砂浜とエメラルド色に輝く海、切り立った海蝕崖など変化に富み、昭和47年に沖縄海岸国定公園に指定されています。また、一帯は沖縄を代表する観光・リゾート地として賑わっており、大型リゾートホテル等の関連施設が数多く立地しています。

平成６年度に環境基準のA類型に指定していますが、環境基準点における水質の経年変化は各地点とも良好に推移し、指定以来、継続して環境基準を達成しています。

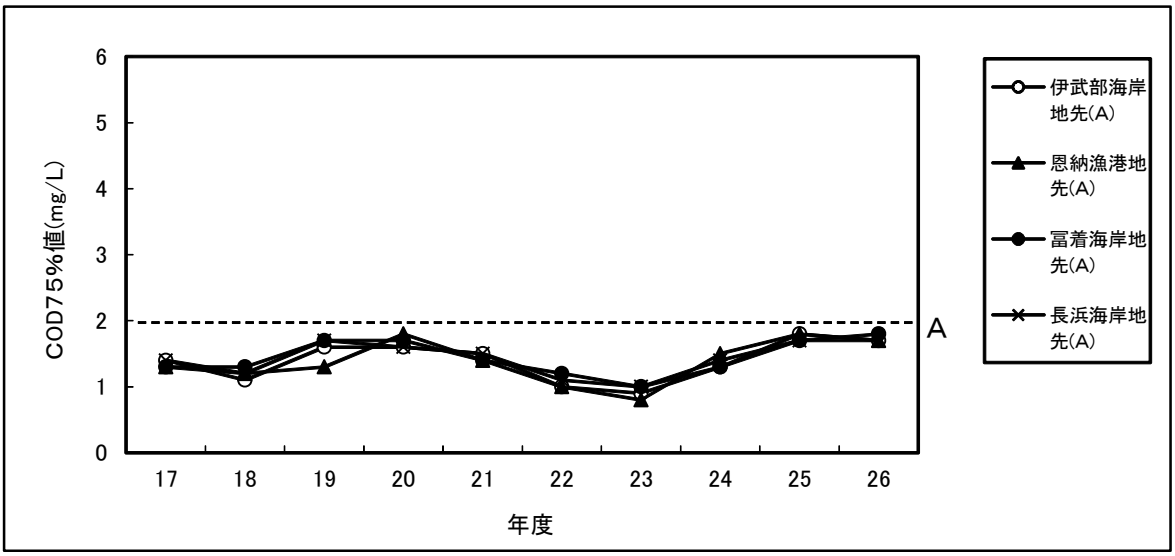


図9　恩納海域の水質（COD75％値）経年変化

サ　与那覇湾、伊佐海域

閉鎖性海域である宮古島の与那覇湾及び、沖縄本島中部西海岸の伊佐海域は、水質環境基準の類型指定を行っておりませんが、水質の状況を把握するために昭和55年度より与那覇湾３地点、平成７年度より伊佐海域10地点で水質測定を実施しています。

与那覇湾においては、年度によりCOD値が　３mg/Lを超えることがありますので、B類型として評価しても基準を達成できない可能性があります。

伊佐海域においては、水質の経年変化は良好に推移し、測定以来継続してCOD値　２mg/L以下と良好な結果となっています。

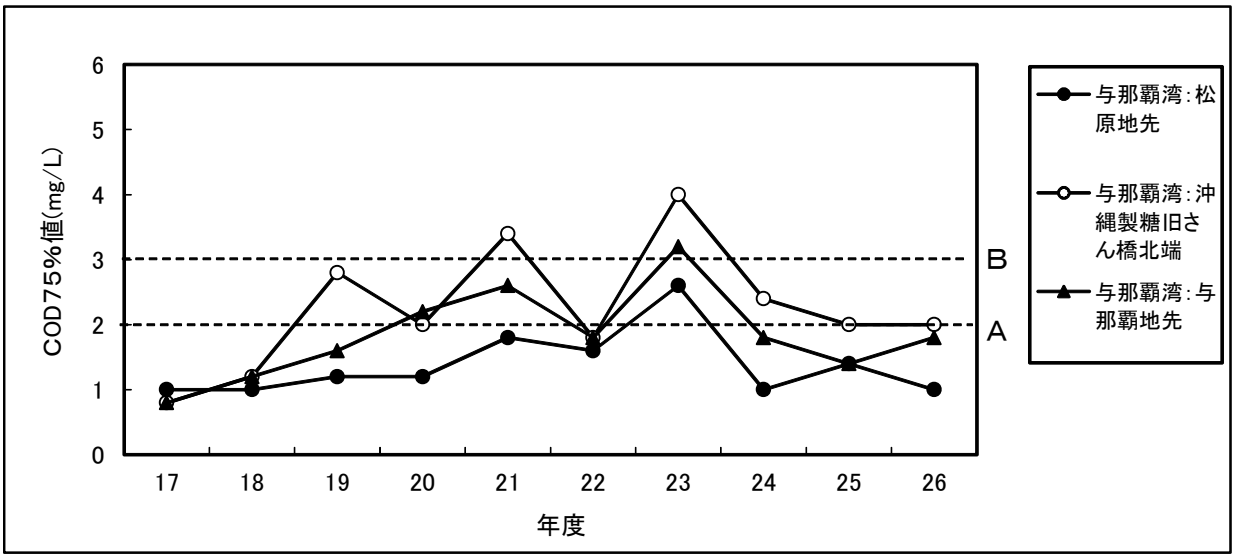


図10　与那覇湾の水質（COD値）経年変化

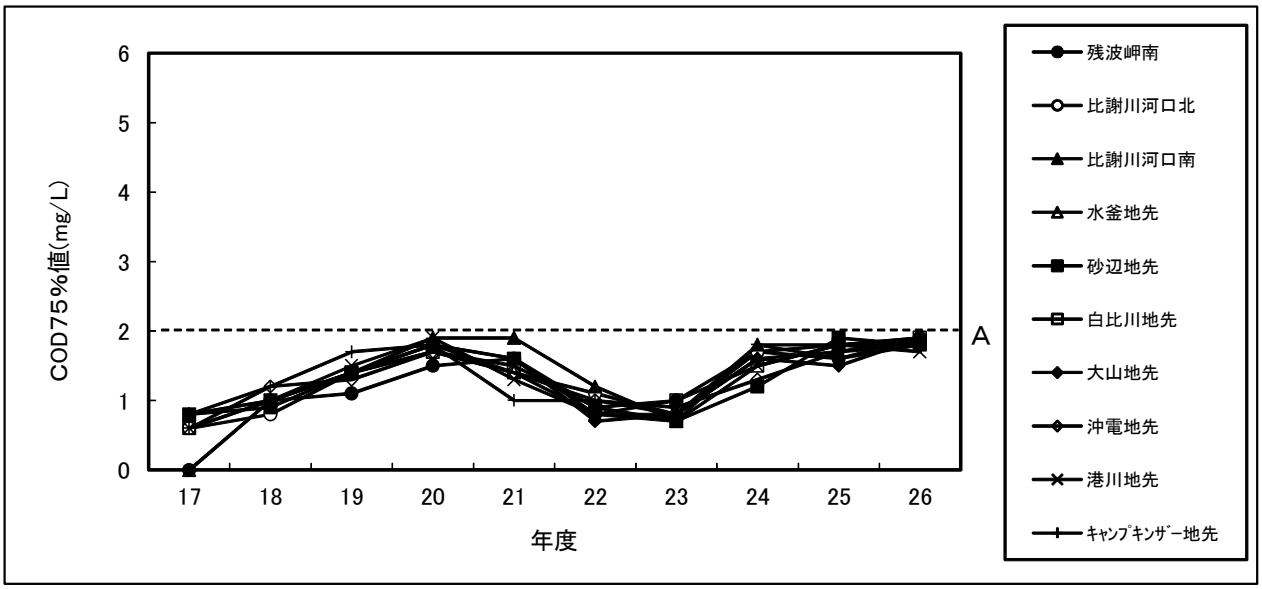


図11　伊佐海域の水質（COD値）経年変化

(10)平成26年度　主要水浴場水質調査結果

番号	(ふりがな) 水浴場名	調査月日	遊泳期間前												判定		調査月日	遊泳期間中												判定	
			ふん便性大腸菌群数(個／100mL)			COD(mg／L)			pH		透明度(m)			油膜の有無				ふん便性大腸菌群数(個／100mL)			COD(mg／L)			pH		透明度(m)			油膜の有無		
			最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	最小	最大	平均		H26	H25		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	最小	最大	平均		H26	H25
1	奥間ビーチ	4/7 4/30	<2	<2	<2	0.8	1	0.9	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	8/12 8/18	<2	6	2	0.8	2.0	1.4	8.0	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
2	エメラルドビーチ	4/7 4/30	<2	<2	<2	0.6	1.4	0.9	8.0	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	8/12 8/18	<2	6	3	0.8	2.0	1.5	8.1	8.1	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A
4	かりゆしビーチ	4/7 4/30	<2	<2	<2	0.8	1.2	1.1	7.9	8.2	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	8/12 8/18	<2	6	2	0.8	1.4	1.1	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A
5	ブセナビーチ	4/7 4/30	<2	<2	<2	<0.5	2.0	1.1	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	8/12 8/18	<2	2	<2	0.8	1.4	1.2	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
8	万座ビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	0.5	0.5	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	<2	16	8	1	1.3	1.1	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A
9	リザンシーパーク	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	0.6	0.6	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	<2	18	7	0.6	1.4	1.1	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
10	サンマリーナ	4/7 4/23	<2	2	<2	<0.5	0.7	0.6	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	<2	16	4	0.6	1.5	1.1	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
11	タイガービーチ	4/7 4/23	<2	6	2	<0.5	0.5	0.5	8.2	8.4	>1	>1	>1	なし	水質A	－	7/17 8/4	<2	120	31	0.7	1.2	0.9	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	－
12	ムーンビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	0.7	0.6	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	<2	32	12	<0.5	1.5	1.0	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
13	ルネッサンス	4/7 4/23	<2	8	2	<0.5	0.7	0.6	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	7/17 8/4	2	30	13	<0.5	0.8	0.7	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A
14	伊計ビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	0.6	0.6	8.3	8.4	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	<2	2	<2	0.7	1.5	1.2	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
15	読谷村営残波ビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	0.7	1.0	0.9	8	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/17 8/4	<2	6	4	0.6	2.1	1.3	8.2	8.4	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A
16	ニライビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	1	0.8	8.2	8.4	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/17 8/4	<2	30	9	<0.5	1.2	0.9	8.3	8.4	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
17	宜野湾トロピカルビーチ	4/7 4/23	<2	2	<2	0.5	0.9	0.7	8.2	8.2	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	<2	26	8	0.5	1.5	0.8	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A
18	サンセットビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	1.2	0.9	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	2	30	13	0.6	1.8	1.2	8.2	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A
19	波の上ビーチ	4/21 4/22	3	54	18	1.5	1.6	1.6	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A	8/11 8/12	10	56	32	1.8	1.9	1.9	8.2	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質A

番号	(ふりがな) 水浴場名	調査月日	遊泳期間前											油膜の有無	判定		調査月日	遊泳期間中										油膜の有無	判定	
			ふん便性大腸菌群数(個／100mL)			COD(mg／L)			pH		透明度(m)							ふん便性大腸菌群数(個／100mL)			COD(mg／L)			pH		透明度(m)					
			最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	最小	最大	平均		H26	H25		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	最小	最大	平均		H26	H25
20	新原ビーチ	4/16 5/1	<2	8	4	0.8	1.4	1.1	8	8.1	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	8/5 8/14	<2	4	3	<0.5	1.8	1.2	8.1	8.1	全透	全透	全透	なし	水質A	水質A
22	イーフビーチ	5/7 5/12	<2	2	<2	<0.5	1.2	0.9	7.6	7.9	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/16 7/17	<2	6	2	1	2.4	1.7	7.9	8	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
23	前浜ビーチ	4/30 5/19	<2	6	2	1.2	2	1.4	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	7/28 8/5	<2	2	<2	0.6	1.2	1.1	7.9	8	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
24	パイナガマビーチ	4/30 5/19	<2	6	2	1.2	1.4	1.3	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	7/28 8/5	<2	4	2	<0.5	1.8	1.2	7.9	8	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
26	底地ビーチ	4/30 5/8	<2	6	2	<0.5	1.5	1	8.1	8.5	全透	全透	全透	なし	水質A	水質AA	7/16 8/6	<2	<2	<2	1.1	1.7	1.3	7.7	8	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
27	真栄里ビーチ	4/30 5/8	<2	<2	<2	0.6	1.6	1	7.9	8.2	全透	全透	全透	なし	水質AA	水質AA	7/16 8/6	<2	<2	<2	0.7	2.0	1.5	7.7	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
28	あざまサンサンビーチ	4/16 5/1	<2	<2	<2	0.8	1.2	1	7.8	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	8/5 8/14	<2	4	<2	<0.5	2.2	1.0	8	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
29	アラハビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	1.4	0.9	8.3	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	7/17 8/4	<2	20	6	<0.5	1.1	0.9	8.2	8.4	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
30	吉野海岸	4/30 5/19	<2	<2	<2	<0.5	1.2	0.8	7.6	8.4	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/28 8/5	<2	10	3	0.6	1.2	0.9	7.9	8.1	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
32	古座間味ビーチ	5/19 5/20	<2	2	<2	0.6	1	0.9	8	8	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	8/19 8/20	<2	10	4	<0.5	1.4	0.9	7.9	8.1	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
33	美々ビーチ	4/16 5/1	<2	2	<2	<0.5	2.6	1.3	7.9	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	8/14 8/18	<2	10	3	0.6	1.4	0.9	8.1	8.2	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA
34	阿波連ビーチ	5/7 5/8	<2	<2	<2	<0.5	1	0.7	7.9	8	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA	7/29 8/18	<2	2	<2	<0.5	1.8	1.0	8	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
35	西原きらきらビーチ	4/16 5/1	<2	84	24	<0.5	1.2	0.8	7.8	8.1	>1	>1	>1	なし	水質A	水質AA	8/14 8/18	<2	4	<2	<0.5	1.8	1.2	8.0	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A
36	クラブメッドカビラビーチ	4/30 5/8	<2	2	<2	<0.5	0.9	0.7	7.9	8.3	全透	全透	全透	なし	水質AA	水質AA	7/16 8/7	<2	2	<2	0.5	2.1	1.4	7.8	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
37	豊崎ちゅらSUNビーチ	4/16 5/1	<2	2	<2	0.6	1.6	1	8	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質A	8/14 8/18	<2	4	<2	1.2	2.2	1.5	8.1	8.1	>1	>1	>1	なし	水質AA	水質AA
38	宇堅ビーチ	4/7 4/23	<2	<2	<2	<0.5	0.6	0.6	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質AA	－	7/17 8/4	<2	40	14	<0.5	1.3	0.9	8.1	8.3	>1	>1	>1	なし	水質A	－

(11)平成26年度に発生した魚類のへい死事故

No	通報年月日	発生地点			へい死魚種数		衛研の測定結果や保健所の考察	
		水域名	市町村名	管轄	魚種	魚数(匹)	死因	備考
1	H26/04/21	長堂川	南風原町	南部	ティラピア	約30	不明	河川水からジフェニルアミンの検出があったが、魚毒性は低く、また、魚体からの検出もなかったため、因果関係は不明。
2	H26/04/21	根路銘川	大宜味村	北部	ボラ	約300	不明	サンプリング時の河川水は溶存酸素が高く、アンモニア態窒素の検出もあり、生物が生息しづらい水質であったと思われるが、死魚発生時のデータが無いので死因は不明となった。
3	H26/04/18	金武ダム	金武町	中部	ティラピア	約200	不明	金武ダム内でアオコが大量に発生していることから、アオコが原因とも考えられるが、死魚との因果関係は不明。
4	H26/05/14	億首川	金武町	中部	フナ・ウナギ ティラピア	約1500	不明	金武ダム下流側で発生していることから、金武ダム内で発生しているアオコが原因とも考えられるが、死魚との因果関係は不明。
5	H26/05/16	真喜屋川	名護市	北部	ウナギ	不明	不明	エトキシキンが河川水、魚の内臓から検出されたが、魚毒性が低く、エラなどから検出がないことから因果関係があるとはいえない。
6	H26/06/06	小那覇排水路	西原町	南部	ボラ	約100	呼吸障害	溶存酸素、アンモニア態窒素濃度から、遊離アンモニアによる呼吸障害と考えられる。
7	H26/07/24	名護市真喜屋水路	名護市	北部	ティラピア	約30	呼吸障害	溶存酸素、アンモニア態窒素濃度から、遊離アンモニア及び酸素不足による呼吸障害と考えられる。
8	H26/07/28	牧港川	浦添市	南部	ティラピア	約300	呼吸障害	溶存酸素、アンモニア態窒素濃度から、遊離アンモニア及び酸素不足による呼吸障害と考えられる。
9	H26/09/17	雄樋川	南城市	南部	ティラピア	約30	不明	調査時の河川水の溶存酸素、アンモニア態窒素濃度は呼吸障害を発生させる可能性がある濃度だが、調査は死魚発生から数日経過していたため、原因かどうかは不明である。
10	H26/09/26	牧港川	浦添市	南部	ティラピア	約30	不明	調査時の河川水に問題は無かったが、同一箇所で過去2年に遊離アンモニアによる呼吸障害による死魚が4件発生している。
11	H26/10/28	南西石油前水路	西原町	南部	ティラピア	約40	呼吸障害	溶存酸素、アンモニア態窒素濃度から、遊離アンモニア及び酸素不足による呼吸障害と考えられる。
12	H27/01/22	長堂川	南風原町	南部	ティラピア	約300	不明	調査時の河川水の溶存酸素、アンモニア態窒素濃度は呼吸障害を発生させる可能性がある濃度だが、調査は死魚発生から数日経過していたため、原因かどうかは不明である。
13	H27/03/27	与那城水路	うるま市	中部	コボラ	数百	呼吸障害	溶存酸素、アンモニア態窒素濃度から、遊離アンモニア及び酸素不足による呼吸障害と考えられる。

（12）県内の公共用水域で発生した魚類へい死事故の原因（過去5年分）

年　度	発生数	発生原因及び発生数				
		急性中毒	急性中毒原因物質	呼吸障害	その他	不 明
平成22年	13	0	―	3	4	6
平成23年	24	3	・トルクロホスメチル、プロチオホス ・クロロタロニル、トルクロホスメチル、プロチオホス、クロルフェナピル ・フェントエート	6	3	12
平成24年	19	1	・フェニトロチオン、プロチオホス、ＥＰＮ	4	2	12
平成25年	13	2	・メチダチオン ・ペンディメタリン、テトラジホン、マラチオン	4	0	7
平成26年	13	0	―	5	0	8
計	82	6		22	9	45

（13）水質汚濁に係る環境基準の水域類型指定状況

①河川

基準値単位：mg/L

河川No.	河川名	水域No.	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	（旧類型）	水域の範囲	達成期間	利用目的	環境基準点	指定年月日	※当初指定年月日
1	比謝川	1	比謝川(1)	B	3	－	比謝橋下流のえん堤から与那原川合流点までと長田川	ロ	上水道用水	比謝川ポンプ場	H16.3.30	S49.3.4
		~~2~~	~~比謝川(2)~~	~~C~~	~~5~~	~~－~~	~~トニー橋から与那原川合流点まで~~	~~ロ~~	~~環境保全~~	~~トニー橋~~		
		3	比謝川(3)	C	5	D	与那原川合流点から上流とハンザ川の昭和橋まで	イ	工業用水	与那原川合流点		
2	国場川	4	国場川(1)	C	5	－	明治橋から真玉橋まで	ロ	工業用水	那覇大橋		S49.3.4
		5	国場川(2)	E	10		真玉橋から上流の一日橋までと長堂川の翔南製糖取水せきまで	ハ	環境保全	真玉橋		
3	満名川	6	満名川(1)	A	2	B	伊野波川合流点から渡久地橋まで	イ	そのほか	渡久地橋		S50.3.6
		7	満名川(2)	A		－	伊野波川合流点から上流	ロ	農業用水	伊野波川合流点		
4	福地川	8	福地川	A	2	－	福地ダム及び福地川上流	イ	上水道用水	福地ダム		S50.3.6
5	天願川	9	天願川(1)	B	3	C	川崎ポンプ場えん堤から河口まで	イ	工業農業用水	河口		S50.9.18
		10	天願川(2)	B	3	－	川崎ポンプ場えん堤より上流と川崎川上流カニカラン川合流点まで	ロ	上水道用水	合流点下流100m		
6	漢那川	11	漢那川	A	2	－	沖縄県企業局取水場跡から上流	イ	水道用水	漢那ダム		S51.3.18
7	羽地大川	12	羽地大川	A	2	－	川上橋下せきから上流	イ	水道農業用水	名護市取水点		S51.3.18
8	我部祖河川	13	我部祖河川(1)	A	2	－	喜知留川合流点から上流	イ	水道用水	石橋(山田橋)		S51.3.18
		14	我部祖河川(2)	A	2	D	喜知留川合流点から下流の奈佐田川合流点まで	イ	農業用水	奈佐田川合流点から上流100m		
		15	我部祖河川(3)	A	2	－	奈佐田川全域	ロ	水道用水	奈佐田川合流点から支川上流100m		
9	新川川	16	新川川(1)	A	2	－	河口から新川ダムまで	イ	上水道用水	下流の高江橋		S52.4.25
		17	新川川(2)	A			新川ダムから上流	イ	水道用水	新川ダム		
10	安波川	18	安波川(1)	A	2	B	河口から安波小中学校後方えん堤まで	イ	環境保全	安波大橋		S52.4.25
		19	安波川(2)	A		－	安波小中学校後方えん堤から上流	イ	自然環境保全	安波小中校後方		
11	普久川	20	普久川(1)	A	2	B	安波川合流点から御拝橋上流400mの沢まで	イ	環境保全	御拝橋		S52.4.25
		21	普久川(2)	A		－	御拝橋上流400mの沢から上流	イ	水道用水	御拝橋上流420mの沢		
12	汀間川	22	汀間川(1)	A	2	B	河口から三原小学校前えん堤まで	イ	環境保全	嘉手苅橋から上流200m		S52.4.25
		23	汀間川(2)	A		－	三原小学校前えん堤から上流	イ	水道用水	三原小中学校前堰堤上流50mの橋		
13	久茂地川	24	久茂地川	C	5	E	全域	イ	環境保全	泉崎橋		S53.3.15
14	安里川	25	安里川	D	8	E	全域	イ	環境保全	蔡温橋下流200mの橋		S53.3.15
15	安謝川	26	安謝川	C	5	E	全域	イ	環境保全	安謝橋		S53.3.15
16	報得川	27	報得川	E	10	－	川尻橋から上流	ロ	環境保全	水位計設置点		S54.4.9
17	牧港川	28	牧港川	C	5	－	宇地泊川合流点から上流の陽迎橋までと支川宇地泊川の比屋良川橋まで	イ	環境保全	牧港川取水場跡 宇地泊川取水場跡		S55.6.12
18	辺野喜川	29	辺野喜川	A	2	－	辺野喜橋から上流	イ	水道用水	辺野喜橋		S57.7.12
19	饒波川	30	饒波川	D	8	－	全域	ハ	農業用水	石火矢橋		S58.7.21
20	源河川	31	源河川	A	2	－	全域（支川も含む。）	イ	水道用水	取水場		S63.3.25
21	平南川	32	平南川	A	2	－	全域（支川も含む。）	イ	水道用水	アザカ橋下流30m		H1.4.25
22	大保川	33	大保川	A	2	B	大保大橋から上流全域（支川も含む。）	イ	水道用水	田港橋		H1.4.25
23	宮良川	34	宮良川	A	2	－	支川を含む全域（底原ダムを除く。）	イ	水道用水	平喜名橋		H2.1.16
24	名蔵川	35	名蔵川	A	2	－	支川を含む全域	イ	水道用水	石糖取水場前		H2.1.16
25	雄樋川	36	雄樋川	D	8	－	全域（支流も含む。）	ロ	農業用水 環境保全	前川（前川橋） 石川橋		H9.2.28

※水域名下線表記地点は、平成16年度から類型見直し（上位類型に）を行った水域

※平成25年3月12日、比謝川の水域類型指定改正。比謝川(2)を廃止し、比謝川(1)及び比謝川(3)の2水域の指定に改正。

達成期間の分類は、次のとおりとする。　(1)「イ」は、直ちに達成、(2)「ロ」は、五年以内で可及的速やかに達成、(3)「ハ」は、五年を超える期間で可及的速やかに達成。

②海域

基準値単位:mg/L

海域No.	水域No.	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	水域の範囲	達成期間	利用目的	環境基準点	指定年月日
1	1	中城湾	A	2	勝連半島から南部知念半島に至る沿岸と沖合の離島久高島、津堅島に囲まれた全域	イ	水産資源 水浴	当添海岸 北緯26° 11′ 東経127° 47′ 湾内2 北緯26° 16′ 東経127° 50′ 湾内3 北緯26° 12′ 東経127° 50′	S50.3.6
2	2	与勝海域	A	2	勝連崎、北緯26° 16′ 東経128° 01′、北緯26° 25′ 東経128° 01′、北緯26° 25′ 東経128°、北緯26° 22′ 東経127° 56′、東経127° 56′・海中道路との交差点を結ぶ線と海中道路、勝連半島に囲まれた全域	イ	水産資源 水浴	埋立地西海岸 北緯26° 22′ 東経127° 57′	S50.3.6
3	3	金武湾	A	2	海中道路、海中道路・東経127° 56′、北緯26° 22′ 東経127° 56′、北緯26° 25′ 東経128° の各点と金武岬を結ぶ線とその沿岸に囲まれた全域	イ	水産資源 水浴	天願川河口地先 北緯26° 22′ 東経127° 53′ 石川ビーチ沖 北緯26° 25′ 東経127° 50′ 30″ 湾口中央 北緯26° 25′ 東経127° 58′	S50.3.6
4	4	那覇港海域	A	2	安謝埋立地北側先端、北緯26° 14′ 30″ 東経127° 39′ 30″（自謝加瀬）、北緯26° 13′ 東経127° 38′ 30″（浅ノ瀬）、北緯26° 12′ 30″ 東経127° 38′ 30″（儀間ノ瀬）、北緯26° 12′ 30″・陸地との交差点の各点を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	ロ	港湾 水産資源	那覇港沖 北緯26° 13′ 15″ 東経127° 39′ 25″ 那覇港内 北緯26° 12′ 20″ 東経127° 40′ 20″ 那覇新港入口 北緯26° 13′ 50″ 東経127° 40′ 45″ 泊港内 北緯26° 13′ 15″ 東経127° 41′ 05″ 自謝加瀬東 北緯26° 14′ 30″ 東経127° 39′ 45″	S51.3.18
5	5	名護湾海域	A	2	部瀬名岬と名護市と本部町の境界を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	イ	水産資源	名護海岸 北緯26° 35′ 00″ 東経127° 58′ 30″ 湾内 北緯26° 34′ 00″ 東経127° 57′ 00″ 部間海岸 北緯26° 36′ 00″ 東経127° 54′	S51.3.18
6	6	宮古海域 平良港海域	A	2	北緯24度48分48秒、東経125度17分を中心とする半径3.5kmの円内の海域	ロ	港湾 水産資源 水浴	第3埠頭北端から北へ300m 北緯24° 48′ 25″ 東経125° 16′ 34″	S52.4.25
7	7	八重山海域 石垣港海域	A	2	川バナ三角点（北緯24度20分48秒、東経124度8分52秒）から方位角253度10分の向きに距離420mの地点を中心とする半径3.8kmの円内の海域	ロ	港湾 水産資源 水浴	浜崎地区南埠頭埋立予定地から西へ300m 北緯24° 20′ 03″ 東経124° 08′ 38″	S52.4.25
8	8	八重山海域 川平湾海域	A		点イと点ロを結ぶ直線、点ハと基点2を結ぶ直線及びその沿岸に囲まれた海域	イ	水産資源	小島南先端と双葉地先を結ぶ線上の中心点 北緯24° 27′ 00″ 東経124° 08′ 50″	S52.4.25
9	9	羽地内海 羽地内海(1)	B	3	沖縄本島沿岸、奥武橋、奥武島沿岸、直線A1及び直線A2に囲まれた区域	ロ	水産資源	仲尾次漁港西埠頭から北西100m 北緯26° 37′ 30″ 東経128° 01′ 40″ 呉我船揚場から北400m 北緯26° 37′ 45″ 東経128° 00′ 30″	S57.6.3
	10	羽地内海 羽地内海(2)	A	2	沖縄本島沿岸、直線A1、直線A2、奥武島、屋我地大橋、屋我地島沿岸及び直線Bに囲まれた区域	イ	水産資源	羽地内海中央 北緯26° 38′ 40″ 東経128° 00′ 45″ 内海北水路南端 北緯26° 39′ 25″ 東経127° 59′ 40″	S57.6.3

海域No.	水域No.	環境基準類型指定水域名	類型	基準値	水域の範囲	達成期間	利用目的	環境基準点	指定年月日
10	11	糸満海域	A	2	北緯26° 09′ 00″ 東経127° 40′ 11″、北緯26° 09′ 00″ 東経127° 38′ 23″、北緯26° 06′ 09″ 東経127° 38′ 23″、北緯26° 06′ 09″ 東経127° 39′ 49″ の各点を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	イ	港湾 水産資源	糸満漁港 北緯26° 07′ 33″ 東経127° 39′ 38″	S60.9.13
								糸満漁港沖 北緯26° 07′ 24″ 東経127° 39′ 00″	
								岡波岩東 北緯26° 08′ 15″ 東経127° 38′ 40″	
11	12	恩納海域	A	2	読谷村残波岬の北端、北緯26° 32′ 29″ 東経127° 54′ 23″ の点、名護市部瀬名岬の西端の各地点を結ぶ線とその沿岸に囲まれた海域	イ	水産資源 水浴	伊武部海岸地先 北緯26° 31′ 30″ 東経127° 55′ 42″	H6.4.22
								恩納漁港地先 北緯26° 30′ 00″ 東経127° 51′ 26″	
								冨着海岸地先 北緯26° 27′ 08″ 東経127° 48′ 38″	
								長浜海岸地先 北緯26° 25′ 21″ 東経127° 44′ 26″	

（備考）

1. 類型の欄のA,B,C,D及びEには、河川に係るものにあっては昭和46年12月28日付け環境庁告示第59号別表2の1の(1)アの河川の表の類型、海域に係るものにあっては同告示別表2の2アの表の類型を示す。
2. 達成期間の分類は次のとおりとする。
   「イ」は、直ちに達成
   「ロ」は、5年以内で可及的速やかに達成
   「ハ」は、5年を超える期間で可及的速やかに達成
3. 川平湾海域の基点及び点の位置
   基点1　石垣市字川平地先　俗称　チャバンチキ離
   基点2　石垣市大字川平小字仲筋1131-8地先の岩
   点イ　基点1から123度9分412mの点
   点ロ　基点1から304度1分25mの点
   点ハ　基点2から352度36分42mの点
4. 羽地内海の直線
   「直線A1」とは奥武島南端から東経128度00分55秒と沖縄本島沿岸との交点（点イ）に引いた直線。
   「直線A2」とは点イから北緯26度38分と沖縄本島沿岸との交点に引いた直線。
   「直線B」とは点イから北緯26度40分45秒と沖縄本島沿岸との交点と東経128度00分43秒と屋我地島との交点を結ぶ直線。
5. 北緯、東経の座標については、類型指定当時に使用されていた旧測地系（日本測地系）による

（14）水質汚濁防止法の特定事業場数（各保健所別）

水濁法施行令別表第一の号番号		那覇市				南部保健所				中部保健所				北部保健所				宮古保健所				八重山保健所				小計			
		排水量50m³／日以上	有害	排水量50m³／日未満	有害	排水量50m³／日以上	有害	排水量50m³／日未満	有害	排水量50m³／日以上	有害	排水量50m³／日未満	有害	排水量50m³／日以上	有害	排水量50m³／日未満	有害	排水量50m³／日以上	有害	排水量50m³／日未満	有害	排水量50m³／日以上	有害	排水量50m³／日未満	有害	排水量50m³／日以上	有害	排水量50m³／日未満	有害
1の2	畜産農業又はサービス業の用に供する施設					3		84		4		8		5		52	1					1		17		13		161	1
2	畜産食料品製造業の用に供する施設					2		10	2	3		3		1		3				1				3		6		20	2
3	水産食料品製造業の用に供する施設							10				3				3				3				5				24	
4	野菜・果実を原料とする保存食料品製造業の用に供する施設							2				2		2		6								1		2		11	
5	みそ・しょう油等製造業等の用に供する施設							8				2				3												13	
7	砂糖製造業の用に供する施設					4		2		1				4				4		1		6				19		3	
8	パンもしくは菓子の製造業又は製あんぎ業の用に供する粗製あんの沈殿槽																							2				2	
9	米菓製造業又はこうじ製造業の用に供する洗米機															2												2	
10	飲料製造業の用に供する施設			1		4	1	10		1		13		5		16		3		6				13		13	1	59	
11	動物系飼料又は有機質肥料の製造業の用に供する施設							1		1				1		7		1		1		1				4		9	
12	動植物油脂製造業の用に供する施設											1																1	
16	めん類製造の用に供する湯煮施設					2		5				1				1								1		2		8	
17	豆腐・煮豆製造の用に供する湯煮施設			1		3		56				6		1		26				2				3		4		94	
18の2	冷凍調理食料品製造業の用に供する施設									1		1														1		1	
19	紡績業又は繊維製品の製造業若しくは加工業の用に供する施設			2				1				1																4	
22	木材製品処理業の用に供する施設							1				1				1												3	
23	パルプ紙加工品製造業の用に供する施設									1	1															1	1		
23の2	新聞・出版・印刷・製版業の用に供する施設							1																				1	
27	無機化学工業製品製造業の用に供する施設									1	1	1														1	1	1	
30	発酵工業の用に供する施設																			1								1	
49	農薬製造業の用に供する混合施設							1																				1	
51	石油精製業の用に供する施設					1																				1			
53	ガラス又はガラス製品の製造業の用に供する施設							1																				1	
54	セメント製品製造業の用に供する施設							8				7				2												17	
55	生コンクリート製造業の用に供するバッチャープラント			3		3		14				12		5		6				7				2		8		44	
58	窯業原料の精製業の用に供する施設							1																				1	
59	砕石業の用に供する施設							1				3				1												5	
60	砂利採取業の用に供する水洗式分別施設									3				1												4			
61	鉄鋼業の用に供する施設									1																1			
62	非鉄金属製造業の用に供する施設							1	1																			1	1
63	金属製品製造業又は機械器具製造業の用に供する施設									1	1															1	1		
63の2	空きびん卸売業の用に供する自動式洗びん施設																												
63の3	石炭を燃料とする火力発電施設のうち、廃ガス洗浄施設									3																3			
64の2	水道施設・工業用水道施設・自家用工業用水道の浄水施設（1万m3以上）					1				1				2		1				1		1				5		2	
65	酸又はアルカリによる表面処理施設					1	1			1	1					1										2	2	1	
66の3	旅館業の用に供する施設	3				6		26		27		22		13		47		3		24		15		68		67		187	
66の4	共同調理場（500㎡以上）							1				2				2						2				2		5	
66の5	弁当仕出屋又は弁当製造業の用に供する厨房施設（360㎡以上）											1																1	
66の6	飲食店に設置されるちゅう房施設（420㎡以上）					3		1		4				2								2				11		1	
66の7	そば・うどん店等飲食店に設置されるちゅう房施設（630㎡以上）									1																1			
67	洗たく業の用に供する洗浄施設			5		8		22		5	4	11		1		14	2	1		4		1		3		16	4	59	2
68	写真現像業の用に供する自動式フィルム現像洗浄施設			1				3	2	2		2	2			1				1				3	2	2		11	6
68の2	病院（病床数300以上）					6	2	2	1	4	4											1	1			11	7	2	1
69	と畜場又は死亡獣畜取扱業の用に供する解体施設					3		1						1				1				2		1		7		2	
70の2	自動車分解整備事業の用に供する洗車施設							2				1				1												4	
71	自動式車両洗浄施設			13				66				55				13				3				5				155	
71の2	科学技術に関する事業場の業務の用に供する施設	1	1	1	1	3	2	7	5	3		1	1	2	2	5	2			3	1	2		7	4	11	5	24	14
71の3	一般廃棄物処理施設					1		1		1	1	1				4	1							1		2	1	7	1
71の4	産業廃棄物処理施設							1	1					3												3		1	1
72	し尿処理施設（500人以下のし尿浄化槽を除く）					63		8		64	3	6		25	1			8		6		24		1		184	4	21	
73	下水道終末処理施設	1				6				4	3			4				1				3				19	3		
74	特定事業場から排出される水の処理施設					1		1	1	1				1		2										3		3	1
小計		5	1	27	1	124	6	360	13	139	19	167	3	79	3	220	6	22		64	1	61	1	136	6	430	30	974	30
合計		32 (2)				484 (19)				306 (22)				299 (9)				86 (1)				197 (7)				1,404 (60)			

注 1. 2つ以上の業種を兼業する特定事業場については代表業種に属すとみなし、１つとして計上。
2. 項目「有害」とは有害物質を排出するおそれがあるものの内数を表す。
3. 合計欄の（ ）は、有害物質を排出するおそれがあるものの内数を表す。

(15)水質汚濁防止法に基づく改善命令等の発動状況

年　度	内訳		命令後の状況
昭　50	改善命令	生コンクリート製造業　１件 電気メッキ業　１件	改善済み　２件
	排出水の排出の一時停止命令	電気メッキ業　１件	改善済み　１件
昭　51	改善命令	電気メッキ業　１件 と畜業　１件	改善済み　２件
昭　52	改善命令	検査業　１件 写真現像業　１件	改善済み　２件
昭　53	改善命令	飲料製造業　１件 畜産農業　２件 果実の保存食料製造業　６件	改善済み　９件
昭54～60	なし		
昭　61	改善命令	電気メッキ業　１件	改善済み　１件
昭62～平6	なし		
平　7	改善命令	食料品製造業　１件	改善済み　１件
平８～９	なし		
平　10	改善命令	旅館業　１件	改善済み　１件
平11～23	なし		
平　24	改善命令	食料品製造業　１件	改善済み　１件
平　25	なし		
平　26	なし		

4　化学物質関係（ダイオキシン類）

(1)大気環境

調査地点		春	夏	秋	冬	平均値
		(pg-TEQ/m^3)				
1	那覇市保健所	0.0097	0.012	0.0065	0.011	0.010
2	石垣市役所	－	0.0023	0.0051	0.0096	0.0057
3	沖縄県北部合同庁舎	－	0.0025	0.0062	0.023	0.011
4	沖縄市農民研修センター	－	0.0081	0.0091	0.039	0.019
5	南風原町中央公民館	－	0.0030	0.0056	0.017	0.0085
6	宮古島市役所	－	0.0019	0.0083	0.0083	0.0062

注：調査地点（那覇市保健所）は那覇市による測定

(2)公共用水域(水質、底質)

調査地点		水　質 (pg-TEQ/L)	底　質 (pg-TEQ/g)
1	我部祖河川奈佐田川合流点から上流100m	0.094	1.3
2	比謝川ヨナバル川合流点	0.22	3.6
3	国場川真玉橋	0.29	3.2
4	報得川水位計設置点	0.065	2.5
5	名蔵川石糖取水場前	0.099	0.81
6	那覇港海域泊港内	0.23	13

注：調査地点（国場川真玉橋、那覇港海域泊港内）は那覇市による測定

(3)地下水

調査地点		地下水 (pg-TEQ/L)
1	那覇市　マージガー	0.029
2	糸満市　潮平ガー	0.038
3	南城市　垣花樋川	0.043
4	南風原町　大名ヒージャーガー	0.039
5	八重瀬町　屋富祖井	0.042
6	与那原町　親川	0.034
7	南大東村　池之沢在の井戸	0.029
8	北大東村　中野在の井戸	0.047

注：調査地点（那覇市マージガー）は那覇市による測定

(4)土壌(一般環境、発生源周辺)

調査地点			土壌 (pg-TEQ/g)
一般環境	1	那覇市　末吉公園	2.4
	2	糸満市　西崎親水公園	1.5
	3	南城市　玉城陸上競技場	2.4
	4	南風原町　宮城公園	0.16
	5	八重瀬町　具志頭運動公園競技場	0.56
	6	与那原町　ゆうゆう公園	3.8
	7	南大東村　国民運動場	0.41
	8	北大東村　上陸公園	0.042
発生源周辺	1	①　糸満市　平和創造の森公園①	0.35
	2	②　糸満市　平和創造の森公園②	1.0
	3	③　糸満市　荒崎海岸	0.66
	4	④　糸満市　沖縄陸軍病院之塔	2.6
	5	⑤　糸満市　東辺名公民館	2.0
	6	⑥　糸満市　平和之塔	0.52

注：調査地点（那覇市末吉公園）は那覇市による測定

（参考）

環境基準

大気	公共用水域水質	公共用水域底質	土壌
0.6pg-TEQ/m^3 以下	1pg-TEQ/L 以下	150pg-TEQ/g 以下	1,000pg-TEQ/g 以下 (250 以上)* ＊:調査指標値

5　騒音・振動・悪臭関係

(1) 騒音規制法に基づく特定施設の届出状況（平成26年度末現在）

（単位：件）

特定施設の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
金属加工機械		16	6	13	150	42	11		2						18	3					13	274
空気圧縮機等	4	424	309	272	311	1,533	109		25	2	4		6	9	99	17	2			6	19	3,151
土石用破砕機等		4	10			1			5						3		2					25
織機									1						1							2
建設用資材製造機械		5	3	2	2	6	8		3													29
穀物用製粉機		57	9	18		28																112
木材加工機械		7	4		1	136	6								8					2		164
抄紙機				2					18													20
印刷機				12	10	34			17	1						6						80
合成樹脂用射出成型機		1							21						2							24
鋳型製造型機			1			2																3
特定施設総数	4	514	342	319	474	1,782	134	0	92	3	4	0	6	9	131	26	4	0	0	8	32	3,884
特定工場等総数	3	142	70	82	123	333	31	0	69	2	2	0	2	3	29	7	1	0	0	6	7	912

(2) 騒音規制法に基づく特定建設作業の届出状況（平成26年度）

（単位：件）

特定建設作業の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
くい打機等を使用する作業		1	3	1	5	10	1		7	1				3	4	4	1	6		1		48
びょう打機等を使用する作業																						0
さく岩機を使用する作業		6	11	15	12	51		1	2	2	2	1		1	1	6	1					112
空気圧縮機を使用する作業		1	1	1	3	3	2									1						12
コンクリートプラントを設けて行う作業																1						1
バックホウを使用する作業	7	3		1	12	7	2	1	2					10	3	5				2	1	56
トラクターショベルを使用する作業													1									1
ブルトーザーを使用する作業									1													1
計	7	11	15	18	32	71	5	2	12	3	2	1	1	14	8	17	2	6	0	3	1	231

（3）平成26年度自動車交通騒音測定結果（市町村実施）

No.	測定地点	環境基準類型	測定開始年月日	測定終了年月日	道路名	車線数	車道端からの距離	道路敷地境界からの距離	住居等からの距離	地上高さ	等価騒音レベル（dB）		要請限度値（dB）		要請限度達成状況		環境基準		環境基準達成状況	
											昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
1	那覇市壺川	C	平成27年1月15日	平成27年1月16日	国道329号	4	13.2	0.0	10.5	1.2	63	58	75	70	○	○	70	65	○	○
2	那覇市具志1-15-9	C	平成27年1月22日	平成27年1月23日	国道331号	4	10.1	0.0	18.2	1.2	66	59	75	70	○	○	70	65	○	○
3	那覇市字銘苅269-1	B	平成27年1月22日	平成27年1月23日	那覇糸満線	4	5.1	0.0	28.9	1.2	71	64	75	70	○	○	70	65	×	○
4	那覇市字上間219-1	B	平成27年2月5日	平成27年2月6日	那覇糸満線	4	3.6	0.0	26.5	1.2	68	62	75	70	○	○	70	65	○	○
5	那覇市安里2丁目4	C	平成27年2月5日	平成27年2月6日	県道39号線	2	5.8	0.0	23.7	1.2	63	58	75	70	○	○	70	65	○	○
6	那覇市西2-3-1	C	平成27年1月22日	平成27年1月23日	県道43号線	2	4.9	0.0	43.9	1.2	65	61	75	70	○	○	70	65	○	○
8	宜野湾市長田4丁目4	A	平成26年10月14日	平成26年10月15日	沖縄県道32号線（併設道路）	2	0.7	0.0	0.0	1.4	59	51	75	70	○	○	70	65	○	○
9	宜野湾市志真志2丁目3	A	平成26年10月21日	平成26年10月22日	沖縄県道32号線（併設道路）	2	0.8	0.0	0.0	1.2	52	42	75	70	○	○	70	65	○	○
10	石垣市字平得	B	平成27年2月19日	平成27年2月20日	国道390号	2	2.1	0.0	43.5	1.2	64	58	75	70	○	○	70	65	○	○
11	浦添市西原4丁目40	B	平成26年12月10日	平成26年12月11日	沖縄自動車道西原IC	4	27.4	20.0	10.0	1.2	61	53	75	70	○	○	70	65	○	○
12	浦添市前田3丁目23	X	平成26年12月15日	平成26年12月15日	沖縄自動車道	4	10.5	4.5	12.0	1.8	66	58	75	70	○	○	70	65	○	○
13	名護市宮里4-14-56	B	平成27年1月27日	平成27年1月28日	国道58号	4	5.2	0.0	104.8	1.2	68	58	75	70	○	○	70	65	○	○
14	糸満市字阿波根690	B	平成26年11月26日	平成26年11月27日	那覇糸満線	4	5.7	0.0	48.6	1.2	65	58	75	70	○	○	70	65	○	○
16	沖縄市池原3丁目9	X	平成27年3月10日	平成27年3月11日	国道329号線	4	2.6	0.0	－	1.2	68	62	75	70	○	○	70	65	○	○
17	沖縄市知花5丁目14	X	平成27年1月8日	平成27年1月9日	国道329号線	4	2.7	0.0	－	1.2	72	67	75	70	○	○	70	65	×	×
18	沖縄市知花2丁目4	C	平成27年1月8日	平成27年1月9日	国道329号線	4	2.6	0.0	－	1.2	68	62	75	70	○	○	70	65	○	○
19	沖縄市比屋根5丁目2	B	平成27年1月8日	平成27年1月9日	国道329号線	4	2.5	0.0	－	1.2	71	65	75	70	○	○	70	65	×	○
20	沖縄市美原4丁目11	A	平成27年1月8日	平成27年1月9日	具志川環状線	2	1.5	0.0	－	1.2	66	59	75	70	○	○	70	65	○	○
21	うるま市江洲381-1	B	平成27年2月5日	平成27年2月6日	沖縄環状線	4	7.0	0.0	－	1.2	65	59	75	70	○	○	70	65	○	○
22	うるま市赤道735	B	平成27年2月5日	平成27年2月6日	県道16号線	3	4.0	0.0	－	1.2	67	60	75	70	○	○	70	65	○	○
24	宮古島市平良	X	平成27年2月18日	平成27年2月19日	平良城辺線	4	7.4	0.0	－	1.2	65	58	75	70	○	○	70	65	○	○
25	嘉手納町字嘉手納50-3	C	平成26年12月18日	平成26年12月19日	国道58号	4	4.4	0.0	4.3	1.2	67	60	75	70	○	○	70	65	○	○
26	嘉手納町字水釜155-2	B	平成26年12月18日	平成26年12月19日	町道水釜大木線	2	2.3	0.0	1.0	1.2	66	62	75	70	○	○	65	60	×	×
27	嘉手納町字屋良1058-1	C	平成26年12月18日	平成26年12月19日	町道久得牧原線	2	2.5	1.0	－	1.2	68	63	75	70	○	○	65	60	×	×
28	嘉手納町屋良1丁目2-12	B	平成26年12月18日	平成26年12月19日	県道74号線	4	6.3	0.0	2.1	1.2	65	58	75	70	○	○	70	65	○	○
29	北谷町字吉原1188番地1	B	平成26年11月26日	平成26年11月27日	県道24号線	2	2.2	1.0	1.2	1.2	65	63	75	70	○	○	70	65	○	○
30	北谷町字上勢頭820番地3	B	平成26年11月26日	平成26年11月27日	県道23号線	4	3.4	0.0	4.0	1.2	66	60	75	70	○	○	70	65	○	○
32	北中城村字熱田40番地	B	平成27年3月10日	平成27年3月11日	国道329号線	4	2.0	0.0	2.0	1.2	72	65	75	70	○	○	70	65	×	○
33	北中城村字渡口84番地1	B	平成27年3月10日	平成27年3月11日	国道329号線	4	2.0	0.0	2.0	1.2	67	61	75	70	○	○	70	65	○	○
34	中城村字南上原948	B	平成27年2月12日	平成27年2月13日	県道29号線	2	4.2	1.0	9.5	1.2	68	63	75	70	○	○	70	65	○	○
35	中城村字伊舎堂647-5	B	平成27年2月12日	平成27年2月13日	国道329号	4	2.1	0.0	2.9	1.2	73	66	75	70	○	○	70	65	×	×
36	国道329号線	C	平成26年12月2日	平成26年12月3日	国道329号線	4	1.0	0.0	1.0	1.2	66	60	75	70	○	○	70	65	○	○
37	県道77号線	B	平成26年12月2日	平成26年12月3日	県道77号線	4	11.5	0.0	3.0	1.2	60	50	75	70	○	○	70	65	○	○
38	南風原町字津嘉山547番地	A	平成27年3月19日	平成27年3月20日	県道128号線	2	0.7	0.0	5.8	1.2	65	59	75	70	○	○	70	65	○	○
40	南風原町字宮平666番地1	C	平成27年3月19日	平成27年3月20日	国道329号線	4	1.9	0.0	11.3	1.2	67	62	75	70	○	○	70	65	○	○
41	南風原町兼城603番地	C	平成27年3月19日	平成27年3月20日	国道329号線	4	2.0	0.0	32.0	1.2	68	62	75	70	○	○	70	65	○	○

（４） 平成26年度自動車交通騒音測定結果（面的評価）

地点番号	評価対象道路 (1)路線名	(2)車線数	(3)環境基準類型※1	(4)遮音壁等の有無	(5)低騒音舗装の有無	評価区間	測定地点の住所※2	測定地点の等価騒音レベル(dB) 昼間	夜間	騒音測定年度	評価区間の延長 (km)	環境基準達成戸数(戸)・環境基準達成確率(%) 評価対象住居等戸数 (戸)	昼間・夜間とも基準値以下 (戸)	(%)	昼間のみ基準値超過 (戸)	(%)	夜間のみ基準値超過 (戸)	(%)	昼間・夜間とも基準値超過 (戸)	(%)
1	国道329号	4	B	無	無	糸満与那原線～与那原町・南風原町　境	―	－	－	－	0.3	34	34	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	国道329号	4	B	無	無	与那原町・南風原町　境～一般国道506号	島尻郡南風原町字与那覇	70	64	H26	0.8	303	303	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	国道329号	4	C	無	有	一般国道506号～那覇糸満線	島尻郡南風原町字宮平	71	65	H26	1.4	463	426	92.0	0	0.0	37	8.0	0	0.0
4	国道329号	4	B	無	無	一般国道331号～糸満与那原線	―	－	－	－	0.5	106	106	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	国道329号	4	C	無	有	那覇糸満線～南風原町・那覇市　境	島尻郡南風原町字兼城	68	63	H26	0.9	134	134	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	沖縄北谷線	4	B	無	無	沖縄市・北谷町　境～一般国道58号	中頭郡北谷町字上勢頭	66	59	H26	2.6	257	256	99.6	0	0.0	1	0.4	0	0.0
7	那覇北中城線	2	B	無	無	浦添西原線～宜野湾西原線	中頭郡西原町字棚原	67	62	H26	2	571	571	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
8	那覇北中城線	2	B	無	無	那覇市・西原町　境～浦添西原線	中頭郡西原町字翁長	68	63	H26	2.1	249	249	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9	県道6号線	2	C	無	無	一般国道58号～一般国道58号	中頭郡読谷村字伊良皆	65	58	H26	1	206	206	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10	県道6号線	2	－	無	無	一般国道58号～県道12号線	中頭郡読谷村字都屋	68	62	H26	4.5	936	936	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11	浦添西原線	2	－	無	無	那覇北中城線～県道155号線	中頭郡西原町字翁長	69	64	H26	2	400	400	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
12	浦添西原線	2	－	無	無	県道155号線～一般国道329号	中頭郡西原町字呉屋	69	62	H26	1.1	203	203	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
13	浦添西原線	2	B	無	無	浦添市・西原町　境～那覇北中城線	―	－	－	－	0.5	134	134	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
14	宜野湾西原線	2	－	無	無	那覇北中城線～一般国道329号	―	－	－	－	1.5	47	47	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
15	宜野湾西原線	2	A	無	無	宜野湾市西原町　境～那覇北中城線	中頭郡西原町字森川	67	59	H26	1.5	267	258	96.6	0	0.0	9	3.4	0	0.0

※1 環境基準類型のあてはめがない地点は「－」とし、Bの基準を当てはめた。

※2 「測定地点の住所」の欄に「－」の記載がある場合の「基準点の等価騒音レベル」の欄については、他の評価区間における測定結果を準用した。

(5) 振動規制法に基づく特定施設の届出状況（平成26年度末現在）

（単位：件）

特定施設の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
金属加工機械		7	5	1	144	4	11		1						3	3						179
空気圧縮機		40	86	79	164	444	56			2			2	4	8	7	2			3	10	907
破砕機等		3	4						2						2							11
織機																						0
コンクリートブロックマシン等			1		2		7		1													11
木材加工機械			2		1		6													2		11
印刷機械					10					1						6						17
ゴム練用又は合成樹脂練用ロール機																						0
合成樹脂用射出成型機		2																				2
鋳型造成機															1							1
特定施設総数	0	52	98	80	321	448	80	0	4	3	0	0	2	4	14	16	2	0	0	5	10	1,139
特定工場等総数	0	14	36	16	102	45	24	0	4	2	0	0	2	2	8	5	1	0	0	5	2	268

(6) 振動規制法に基づく特定建設作業施設の届出状況（平成26年度）

（単位：件）

特定施設の種類	名護市	うるま市	沖縄市	宜野湾市	浦添市	那覇市	豊見城市	南城市	糸満市	宮古島市	石垣市	本部町	嘉手納町	北谷町	西原町	南風原町	与那原町	八重瀬町	読谷村	北中城村	中城村	合計
くい打機等を使用する作業	9	12	20	14	14	35	18	2	17	1	1		1	16	4	10	3	6		2	4	189
鋼球を使用して破壊する作業	7																					7
舗装版破砕機を使用する作業																						0
ブレーカーを使用する作業		6	13	6	18	40	2	2	3	2				10	1	9	1					113
計	16	18	33	20	32	75	20	4	20	3	1	0	1	26	5	19	4	6	0	2	4	309

6 土壌・地下水・地盤関係

（1） 平成26年度　地下水質測定結果（概況調査）

（単位：mg/L）

市町村名		糸満市	南城市	南風原町	八重瀬町	与那原町	南大東村	北大東村
地区名		潮平	玉城垣花	大名	具志頭	親川	池之沢	中野
採水年月日		H26.8.22	H26.8.22	H26.8.22	H26.8.22	H26.8.22	H26.8.27	H26.8.28
項目	環境基準値 (mg/L)							
pH	—	7.5	7.5	7.4	7.2	7.5	7.1	6.9
カドミウム	0.003以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
全シアン	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
鉛	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
六価クロム	0.05以下	不検出	不検出	不検出	不検出	0.006	不検出	不検出
砒素	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
総水銀	0.0005以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
アルキル水銀	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
PCB	検出されないこと	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	0.02以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
四塩化炭素	0.002以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
塩化ﾋﾞﾆﾙﾓﾉﾏｰ	0.002以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	0.004以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	0.1以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	0.04以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (MC)	1以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	0.006以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (TCE)	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (PCE)	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	0.002以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
チラウム	0.006以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
シマジン	0.003以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
チオベンカルブ	0.02以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
ベンゼン	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
セレン	0.01以下	不検出	不検出	不検出	不検出	0.002	不検出	不検出
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	5.16	0.97	0.32	9.20	0.42	0.02	0.06
ふっ素	0.8以下	0.10	0.11	0.18	0.15	0.56	不検出	不検出
ほう素	1以下	0.03	不検出	0.10	0.02	0.07	0.10	0.10
1,4-ジオキサン	0.05以下	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出

（2）平成26年度　地下水質測定結果（継続監視調査）

（単位：mg/L）

市町村	字 井戸番号	項目	砒素	総水銀	アルキル水銀	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	塩化ビニルモノマー	1,2-ジクロロエタン	ほう素	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素
		環境基準	0.01以下	0.0005以下	検出されないこと	0.01以下	0.01以下	1以下	0.002以下	0.004以下	1以下	10以下
		種別										
浦添市	屋富祖 000100	井戸	0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	当　山 000100	井戸	0.035	－	－	－	－	－	－	－	－	－
豊見城市	高　嶺 010100	湧水	－	－	－	不検出	不検出	不検出	不検出	－	－	－
沖縄市	与　儀 000100	井戸	0.038	－	－	－	－	－	－	－	－	－
西原町	小那覇 000100	井戸	－	－	－	不検出	不検出	不検出	0.0042	不検出	－	－
北谷町	桑　江 000100	井戸	0.035	－	－	－	－	－	－	－	－	－
嘉手納町	屋　良 010100	湧水	－	－	－	0.0084	0.0008	不検出	不検出	－	－	－
読谷村	楚　辺 000400	井戸	0.014	－	－	－	－	－	－	－	3.5	－
うるま市	石川 000200	井戸	0.008	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	与那城屋慶名 000100	井戸	0.004	－	－	－	－	－	－	－	－	－
恩納村	谷　茶 000300	井戸	0.004	－	－	－	－	－	－	－	－	－
宮古島市	伊良部仲地 000100	井戸	－	－	－	－	－	－	－	－	－	10
石垣市	登野城 000100	井戸	－	－	－	不検出	不検出	不検出	不検出	－	－	－

＊網掛けは基準超過
＊アルキル水銀の測定は、総水銀が検出された場合に行う。

7　赤土関係

(1)懸濁物質含量(SPSS)測定結果（定点観測調査結果）

単位：kg/m³

		平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度		
調査海域	調査地点	第１回調査	第２回調査	第３回調査	第１回調査	第２回調査	第３回調査	第１回調査	第２回調査	第３回調査	第１回調査	第２回調査	第３回調査
平南川河口	調査日		H23.6.15	H23.11.8	H24.6.29	H24.11.10	H25.1.30	H25.6.25	H25.12.6	H26.1.29	H26.7.2	H26.11.28	H27.2.7
	013-No.1		31.7	3.1	16.9	2.4	2.7	70.7	3.6	2.9	47.6	7.0	28.6
	013-No.2		78.4	8.4	42.0	1.6	2.7	195.0	8.0	2.4	237.4	8.6	8.9
	013-No.3		6.1	2.5	17.4	2.0	1.6	4.3	1.9	3.5	8.5	7.3	8.0
	幾何平均		24.8	4.0	23.1	2.0	2.3	39.0	3.8	2.9	45.8	7.6	12.7
源河川河口	調査日		H23.6.15	H23.11.8	H24.6.29	H24.11.10	H25.1.30	H25.6.25	H25.12.6	H26.1.29	H26.7.2	H26.11.28	H27.2.7
	035-No.1		16.5	25.6	45.8	5.1	6.4	21.7	18.5	11.1	25.1	18.6	8.2
	035-No.2		34.1	91.6	119.0	23.9	28.0	308.0	28.6	19.9	319.6	40.3	22.9
	035-No.3		6.0	5.0	7.2	2.9	2.3	3.6	3.8	2.5	5.5	7.4	2.4
	幾何平均		15.0	22.7	34.0	7.1	7.4	28.9	12.6	8.2	35.3	17.7	7.7
平良川河口	調査日		H23.6.15	H23.11.9	H24.6.28	H24.11.9	H24.1.29	H25.6.25	H25.11.28	H26.1.31	H26.7.1	H26.12.1	H27.2.12
	016-01		74.7	65.2	79.9	10.3	83.2	93.3	40.8	34.7	84.5	32.4	38.5
	016-02		54.5	70.3	77.0	105.0	82.2	107.9	105.0	52.5	60.4	32.0	149.0
	016-03		55.3	61.4	45.9	17.7	41.3	100.0	70.7	96.3	100.7	29.5	36.3
	幾何平均		60.8	65.5	65.6	26.8	65.6	100.2	67.2	56.0	80.1	31.3	59.3
恩納村赤瀬海域	調査日		H23.6.17	H23.11.16	H24.6.26	H24.12.11	H25.2.4	H25.6.26	H25.12.7	H26.1.30	H26.7.1	H26.11.29	H27.2.11
	039-No.1		26.9	42.5	73.7	2.6	17.9	35.9	14.1	7.4	45.1	16.8	11.6
	039-No.2		2.3	3.6	75.1	0.9	2.0	18.9	2.1	2.1	35.0	2.1	1.3
	039-No.3		4.4	4.2	37.1	1.2	2.9	18.3	6.8	6.3	33.6	7.0	5.5
	幾何平均		6.4	8.6	59.0	1.4	4.7	23.2	5.9	4.6	37.6	6.3	4.4
漢那中港川河口	調査日		H23.6.16	H23.11.16	H24.6.28	H24.12.7	H25.1.30	H25.7.1	H25.11.29	H26.2.20	H26.7.3	H26.11.27	H27.2.9
	043-01		132.6	149.7	49.7	18.0	46.9	62.7	19.7	279.7	243.9	118.6	332.4
	043-No.2		11.3	28.0	34.3	9.9	4.6	3.5	2.3	10.4	28.0	10.3	4.5
	043-No.3		29.0	133.1	44.8	248.5	98.5	16.1	23.1	20.1	18.0	14.6	9.0
	幾何平均		35.1	82.3	42.4	35.4	27.7	15.2	10.2	38.8	49.7	26.1	23.8
加武川河口	調査日		H23.6.16	H23.11.11	H24.7.1	H24.11.6	H25.1.28	H25.6.26	H25.12.5	H26.2.20	H26.7.3	H26.11.27	H27.2.9
	048-No.1		6.0	42.8	35.6	13.7	71.9	21.7	19.7	12.2	46.2	43.2	20.4
	048-No.2		52.2	26.1	21.8	18.3	23.6	12.0	30.1	14.6	56.3	46.2	30.9
	048-No.3		25.1	121.6	47.0	36.1	15.5	93.8	57.7	46.0	49.5	29.5	20.3
	幾何平均		19.9	51.4	33.2	20.8	29.7	29.0	32.5	20.2	50.5	38.9	23.4
石川川河口	調査日		H23.6.16	H23.11.11	H24.7.1	H24.11.6	H25.1.28	H25.7.1	H25.12.5	H26.2.20	H26.7.1	H26.12.6	H27.2.11
	055-No.1		1290.7	948.1	870.0	818.0	1041.0	615.3	699.7	873.5	737.3	703.0	737.3
	055-No.2		11.5	15.6	23.4	9.3	26.1	18.5	9.8	7.0	43.5	43.5	6.1
	055-No.3		25.1	78.9	171.0	58.0	95.3	80.9	91.6	51.4	61.5	346.5	344.0
	幾何平均		72.0	105.3	151.6	76.1	137.3	97.3	85.6	68.0	125.4	219.6	115.7
アージ島海域	調査日		H23.6.17	H23.11.18	H24.6.27	H24.11.7	H25.1.31	H25.7.3	H25.12.7	H26.2.21	H26.7.2	H26.12.5	H27.2.10
	068-No.1		158.6	133.1	78.5	23.8	26.1	79.8	36.5	47.4	81.1	73.1	65.0
	068-No.2		44.4	59.7	42.3	29.6	29.8	64.6	55.2	47.4	76.6	29.8	63.5
	068-No.3		71.8	90.2	43.8	31.5	26.9	70.6	35.6	59.6	39.1	52.5	17.9
	幾何平均		79.7	89.5	52.6	28.1	27.6	71.4	41.5	51.2	62.4	48.5	42.0
大度海岸	調査日		H23.6.17	H23.11.18	H24.6.27	H25.12.6	H25.1.31	H25.7.3	H25.11.21	H26.2.21	H26.7.2	H26.12.2	H27.2.10
	066-No.1		18.6	167.2	7.2	5.2	9.1	86.8	12.1	9.1	27.2	7.8	5.5
	066-No.2		11.7	32.5	6.6	8.3	13.0	13.4	8.6	19.6	26.6	14.4	15.2
	066-No.3		13.6	29.0	9.2	14.7	12.1	26.2	18.3	15.8	29.5	10.4	20.8
	幾何平均		14.4	54.0	7.6	8.6	11.3	31.2	12.4	14.1	27.7	10.5	12.0
宮良川河口	調査日	H23.4.28	H23.7.12	H23.11.21	H24.6.28	H24.11.27	H25.1.30	H25.6.22	H25.12.2	H26.2.21	H26.6.28	H26.12.12	H27.2.9
	094-No.1	96.8	26.6	114.0	30.3	55.3	150.6	53.7	62.2	49.3	8839.0	63.8	19.6
	094-02	886.1	184.6	406.3	563.0	737.3	160.9	700.7	98.3	238.2	583.6	137.7	101.7
	幾何平均	292.9	70.1	215.2	130.6	201.9	155.7	194.0	78.2	108.4	2271.2	93.7	44.6
白保海域	調査日	H23.4.28	H23.7.12	H23.11.22	H24.6.28	H24.11.23	H25.1.30	H25.6.23	H25.12.3	H26.2.2	H26.6.28	H26.12.13	H27.2.10
	095-No.1	44.5	54.3	77.9	24.6	59.5	62.7	44.5	21.8	69.5	35.0	79.3	38.1
	095-No.2	1225.5	682.4	82.2	159.0	31.9	65.4	246.3	13.3	56.0	101.3	70.7	36.4
	095-No.3	38.4	18.3	20.5	21.8	18.3	32.8	16.0	13.7	17.5	68.6	13.5	13.3
	098-No.4	31.0	16.8	30.6	25.6	15.0	45.3	28.9	15.3	37.0	48.1	26.2	18.6
	幾何平均	89.7	58.2	44.8	38.4	26.9	49.7	47.4	15.7	39.8	58.5	37.5	24.2
阿嘉島海域	調査日			H23.11.14		H24.11.20			H25.11.7			H26.12.24	
	110-No.1			12.9		10.9			4.7			11.9	
	110-No.2			6.0		17.8			3.6			5.8	
	幾何平均			8.8		13.9			4.1			8.3	

(2)サンゴ調査結果概要（定点観測調査結果）

調査区域		生息環境	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		主な出現種（H26年度）
			種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	種類数	被度(%)	
平南川河口	No.2	水深５m岩盤	8	10.0	5	9.0	5	9.0	2	5.0	ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）
	No.3	水深４m岩盤	11	3.0	10	3.0	9	3.0	10	3.0	ﾄｹﾞｷｸﾒｲｼ属（塊状）、ｽﾘﾊﾞﾁｻﾝｺﾞ属（葉状）
源河川河口	No.1	水深３m岩盤	10	3.0	10	3.0	12	4.0	11	4.0	ﾄｹﾞｷｸﾒｲｼ属（塊状）、ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）
	No.3	水深２m岩盤	7	1.0	4	1.0	4	1.0	3	1.0	ﾄｹﾞｷｸﾒｲｼ属（被覆・塊状）、ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）
平良川河口	No.2	水深４m岩盤	18	5.0	20	6.0	21	6.0	20	6.0	ﾕﾋﾞｴﾀﾞﾊﾏｻﾝｺﾞ（樹枝状）、ﾄｹﾞｷｸﾒｲｼ属（塊状）
	No.3	水深3.5m岩盤	4	1.0	4	1.0	4	1.0	1	1.0	ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）
赤　瀬海　域	No.2	水深2.5m岩盤	7	5.0	7	9.0	7	15.0	4	45.0	ｺﾓﾝｻﾝｺﾞ属（樹枝状）、ｱﾅｻﾝｺﾞﾓﾄﾞｷ属（被覆状）
	No.3	水深２m岩盤	7	15.0	8	1.0	8	22.0	7	35.0	ｺﾓﾝｻﾝｺﾞ属（樹枝状）、ｺﾓﾝｻﾝｺﾞ属（被覆状）
漢那中港川河口	No.1	水深1.5m岩盤	4	8.0	3	8.0	2	8.0	2	8.0	ｶﾒﾉｺｷｸﾒｲｼ（塊状）
	No.3	水深2.5m岩盤	5	0.2	3	0.2	2	0.1	2	0.1	ﾊﾅﾔｻｲｻﾝｺﾞ（樹枝状）、ﾊﾏｻﾝｺﾞ属(塊状)
加武川河口	No.2	水深２m岩盤	6	0.8	8	0.8	8	0.8	5	0.8	ｺﾓﾝｻﾝｺﾞ属（被覆状）、ｳｽﾁｬｷｸﾒｲｼ（塊状）
	No.3	水深1.5m岩盤	5	4.0	4	4.0	7	3.0	8	3.0	ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）、ﾙﾘｻﾝｺﾞ属（塊状）
石川川河口	No.2	水深２m岩盤	2	3.0	2	3.0	2	3.0	2	2.0	ﾊﾏｻﾝｺﾞ属(塊状)、ｺﾞｶｸｷｸﾒｲｼ（塊状）
	No.3	水深５m岩盤	10	19.0	10	19.0	10	19.0	10	19.0	ﾊﾏｻﾝｺﾞ属(塊状)
アージ島海　域	No.2	水深１m砂地	1	0.1	1	0.1	1	0.1	1	0.1	ｺﾌﾞﾊﾏｻﾝｺﾞ（塊状）
	No.3	水深２m砂地	2	37.0	2	37.0	2	37.0	2	37.0	ｺﾌﾞﾊﾏｻﾝｺﾞ（塊状）
大　度海　岸	No.1	水深１m岩盤	4	0.3	5	0.3	2	0.2	1	0.1	ﾊﾟﾘｶﾒﾉｺｷｸﾒｲｼ（塊状）
	No.2	水深３m砂地	7	33.0	9	36.0	6	33.0	6	20.0	ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）
宮良川河口	No.2	礁原の岩盤上	12	10.0	12	14.0	6	5.0	6	5.0	ｱﾗﾙﾘｻﾝｺﾞ（塊状）、ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）
白保海域	No.1	モリヤマクチ近くの岩盤上	17	6.0	17	7.0	16	7.0	15	7.0	ｺﾓﾝｻﾝｺﾞ属（樹枝状）、ﾕﾋﾞｴﾀﾞﾊﾏｻﾝｺﾞ（樹枝状）
	No.2	礁地内の岩盤上	7	8.0	7	8.0	6	8.0	7	9.0	ﾊﾏｻﾝｺﾞ属（塊状）
	No.3	礁地内の岩盤上	18	16.0	18	36.0	16	46.0	13	48.0	ｽｷﾞﾉｷﾐﾄﾞﾘｲｼ（樹枝状）、ｺﾉﾊｼｺﾛｻﾝｺﾞ（葉状）
阿嘉島海　域	No.1	水深３m砂地	8	70.0	8	70.0	8	70.0	7	72.0	ﾕﾋﾞｴﾀﾞﾊﾏｻﾝｺﾞ（樹枝状）、ｱﾅｻﾝｺﾞﾓﾄﾞｷ属（樹枝状）
	No.2	水深３m礁原	9	3.0	11	3.0	14	5.0	14	5.0	ｱﾅｻﾝｺﾞﾓﾄﾞｷ属（樹枝状）、ﾊﾟﾗｵﾊﾏｻﾝｺﾞ（塊状）

備　考

① 結果は、各定点の方形枠内（２m×２m）のサンゴの出現種、被覆度を表示

② 宮良川・白保海域は平成１１年度から調査開始

③ 阿嘉島海域は、サンゴ状況の参考地点

(3)懸濁物質含量(SPSS)測定結果（重点監視海域調査結果）

	調査海域	調査地点	平成 26 年度 第１回調査	平成 26 年度 第２回調査	平成 26 年度 第３回調査
沖縄本島周辺	大井川河口	調査日	H26.7.1	H26.12.3	H27.2.14
		018-1	108.5	59.3	35.7
		018-2	129.2	15.8	10.7
		018-3	291.4	203.2	142.8
		幾何平均	159.9	57.5	37.9
	大小堀川河口	調査日	H26.7.1	H26.12.3	H27.2.14
		022-1	101.6	61.0	77.2
		022-2	107.7	15.0	6.7
		022-3	44.1	68.6	34.4
		幾何平均	78.4	39.7	26.1
	屋嘉田潟原	調査日	H26.7.2	H26.11.29	H27.2.14
		040-Y03	93.8	44.6	81.6
		040-Y04	49.4	26.6	17.2
		040-Y14	157.5	85.3	62.1
		040-Y16	61.3	254.0	233.4
		040-Y31	200.1	69.3	88.9
		040-Y36	9.1	12.7	8.5
		幾何平均	65.8	53.2	49.9
	平良川河口	調査日	H26.7.1	H26.12.1	H27.2.12
		016-01	84.5	32.4	38.5
		016-02	60.4	32.0	149.0
		016-03	100.7	29.5	36.3
		幾何平均	80.1	31.3	59.3
	慶佐次川河口	調査日	H26.7.1	H26.12.1	H27.2.12
		015-1	42.5	12.7	9.9
		015-2	692.2	34.0	30.9
		015-3	562.4	53.7	170.2
		幾何平均	254.8	28.5	37.3
	漢那中港川河口	調査日	H26.7.3	H26.11.27	H27.2.9
		043-1	243.9	118.6	332.4
		043-3	24.8	45.3	96.9
		043-18	53.4	22.3	28.9
		幾何平均	68.6	49.3	97.6
	池味地先	調査日	H26.7.3	H26.12.6	H27.2.11
		053-1	93.3	140.5	82.3
		053-2	214.2	111.4	124.4
		053-3	242.7	58.5	74.6
		幾何平均	169.3	97.1	91.4
	大度海岸	調査日	H26.7.2	H26.12.2	H27.2.10
		066-OD06	10.5	12.3	7.8
		066-OD38	26.9	9.2	13.7
		066-OD41	10.4	4.7	9.2
		066-OD19	94.1	59.9	53.1
		幾何平均	22.9	13.4	15.1
	ウフビシ（重要サンゴ群集等）			H26.12.3	
				36.3	
	大度（重要サンゴ群集等）			H26.12.2	
				15.7	

	調査海域	調査地点	平成 26 年度 第１回調査	平成 26 年度 第２回調査	平成 26 年度 第３回調査
久米島周辺	真謝川河口	調査日	H26.7.4	H26.12.19	H27.2.16
		071-1	43.8	16.7	7.4
		071-2	139.8	65.2	64.9
		071-3	88.3	30.5	74.1
		幾何平均	81.5	32.1	32.9
	儀間川河口	調査日	H26.7.3	H26.12.18	H27.2.16
		073-03	29.5	23.7	32.1
		073-06	19.7	8.4	6.6
		073-09	33.9	62.1	23.5
		073-35	31.1	5.1	3.5
		幾何平均	28.0	15.8	11.5
慶良間周辺	渡嘉志久ビーチ（対照地点）			H26.12.23	
				3.5	
	安波連ビーチ（対照地点）			H26.12.23	
				30.4	
宮古島周辺	南静園地先海域（対照地点）			H26.12.25	
				9.8	
	シギラ（対照地点）			H26.12.25	
				45.7	
西表島周辺	野崎川河口	調査日	H26.7.19	H26.12.14	H27.2.13
		085-1	36.9	41.0	29.2
		085-2	47.3	56.5	17.0
		085-3	18.8	3.4	4.4
		幾何平均	32.0	19.9	13.0
	与那良川河口	調査日	H26.7.19	H26.12.23	H27.2.13
		086-1	123.1	111.4	187.7
		086-2	41.8	61.5	59.4
		086-3	1.8	10.3	8.2
		幾何平均	21.0	41.3	45.0
	嘉弥真水道	調査日	H26.7.19	H26.12.15	H27.2.13
		088-1	90.3	37.0	25.9
		088-2	23.2	24.6	23.4
		088-3	68.5	64.4	74.5
		幾何平均	52.4	38.8	35.6
	浦内川河口(096-2)（対照地点）			H26.12.14	
				2.0	
	浦内川河口(096-3)（対照地点）			H26.12.14	
				103.2	
	鳩間島南（重要サンゴ群集等）			H26.12.14	
				13.5	
	マルグー（重要サンゴ群集等）			H26.12.15	
				27.8	

	調査海域	調査地点	平成 26 年度 第１回調査	平成 26 年度 第２回調査	平成 26 年度 第３回調査
	嘉良川河口	調査日	H26.6.27	H26.12.10	H27.2.12
		083-1	220.8	40.9	274.3
		083-2	25.9	5.8	2.5
		083-3	29.8	2.2	4.7
		幾何平均	55.4	8.1	14.8
	大浦川河口	調査日	H26.6.27	H26.12.9	H27.2.12
		084-0U08	108.8	26.6	29.2
		084-0U10	183.3	42.7	32.8
		084-0U19	172.8	149.0	149.0
		084-0U32	89.6	86.4	53.8
		084-0U48	58.5	69.3	153.2
		084-0U50	105.8	82.7	63.2
		幾何平均	111.4	66.2	64.8
	吹通川河口	調査日	H26.6.27	H26.12.10	H27.2.12
		085-1	9.3	3.7	5.1
		085-2	85.1	38.8	20.5
		085-3	50.1	18.2	11.0
		幾何平均	34.1	13.8	10.5
	浦底湾	調査日	H26.6.27	H26.12.10	H27.2.12
		086-1	50.8	169.7	89.2
		086-2	39.2	17.8	7.8
		086-3	34.6	7.3	11.8
		幾何平均	41.0	28.0	20.2
	川平湾	調査日	H26.6.29	H26.12.11	H27.2.11
		087-1	16.0	21.9	7.7
		087-2	31.8	39.1	42.0
		087-3	32.8	26.8	23.5
		幾何平均	25.6	28.4	19.7

	調査海域	調査地点	平成 26 年度 第１回調査	平成 26 年度 第２回調査	平成 26 年度 第３回調査
石垣島周辺	崎枝湾	調査日	H26.6.29	H26.12.11	H27.2.11
		088-1	24.6	14.8	38.2
		088-2	39.6	45.5	41.7
		088-3	40.5	28.3	16.1
		幾何平均	34.0	26.7	29.5
	名蔵湾	調査日	H26.6.29	H26.12.12	H27.2.11
		090-1	64.8	61.5	83.3
		090-2	57.7	26.4	14.4
		090-3	26.3	39.7	35.3
		幾何平均	46.2	40.1	34.9
	白保海域	調査日	H26.6.28	H26.12.13	H27.2.10
		095-S07	30.8	21.4	25.8
		095-S16	90.4	66.5	98.5
		095-S19	21.8	25.8	14.3
		095-S22	51.6	36.7	15.6
		095-S34	25.4	12.9	5.4
		幾何平均	38.0	28.1	19.8
	宮良川河口	調査日	H26.6.28	H26.12.12	H27.2.9
		094-1	17.9	14.6	42.2
		094-2	583.6	137.7	101.7
		094-3	55.8	128.8	46.2
		094-4	137.1	124.2	93.8
		幾何平均	94.5	75.3	65.7
	伊原間（対照地点）			H26.12.9	
				75.1	
	川平湾外（対照地点）			H26.12.11	
				6.0	
	白保アオサンゴ（重要サンゴ群集等）			2014/12/163	
				22.5	

(4) 環境保全目標の達成状況

調査海域		環境保全目標（堆積指標）による評価				
		H21-23年度類型	H26年度類型用SPSS値（kg/m3）	H26類型	目標類型	評価
沖縄本島周辺	大井川河口	サンゴ場C	108.5	サンゴ場B	サンゴ場A	△
	大小堀川河口	サンゴ場C	107.7	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	屋嘉田潟原	海草藻場B	157.5	海草藻場B	海草藻場A	△
	平良川河口	サンゴ場C	84.5	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	慶佐次川河口	サンゴ場C	42.5	サンゴ場B	サンゴ場A	○
	漢那中港川河口	サンゴ場C	96.9	サンゴ場C	サンゴ場A	△
	池味地先	海草藻場B	214.2	海草藻場B	海草藻場A	△
	大度海岸	サンゴ場C	26.9	サンゴ場A	サンゴ場A	◎
	ウフビシ（重要サンゴ群集等）		36.3	サンゴ場AA	サンゴ場AA	▲
	大度（重要サンゴ群集等）		15.7	サンゴ場A	サンゴ場AA	▲
久米島周辺	真謝川河口	サンゴ場C	43.8	サンゴ場A	サンゴ場A	○
	儀間川河口	サンゴ場C	31.1	サンゴ場A	サンゴ場A	○
慶良間周辺	渡嘉志久ビーチ（対照地点）		3.5	サンゴ場AA	対照地点は目標なし	
	安波連ビーチ（対照地点）		30.4	サンゴ場A	対照地点は目標なし	
宮古島周辺	南静園地先（対照地点）		9.8	サンゴ場A	対照地点は目標なし	
	シギラ（対照地点）		45.7	サンゴ場A	対照地点は目標なし	
石垣島周辺	嘉良川河口	サンゴ場C	75.6	サンゴ場B	サンゴ場B	△
	大浦川河口	サンゴ場C	100.8	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	吹通川河口	サンゴ場C	65.3	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	浦底湾	サンゴ場C	41.0	サンゴ場B	サンゴ場B	◎
	川平湾	サンゴ場B	29.3	サンゴ場B	サンゴ場A	◎
	崎枝湾	サンゴ場C	34.1	サンゴ場B	サンゴ場B	◎
	名蔵湾	サンゴ場C	61.1	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	白保海域	サンゴ場C	30.8	サンゴ場C	サンゴ場A	○
	宮良川河口	サンゴ場C	583.6	サンゴ場C	サンゴ場B	△
	伊原間（対照地点）		75.1	サンゴ場C	対照地点は目標なし	
	川平湾外（対照地点）		6.0	サンゴ場A	対照地点は目標なし	
	白保アオサンゴ（重要サンゴ群集等）		22.5	サンゴ場A	サンゴ場AA	▲
西表島周辺	野崎川河口	サンゴ場C	48.1	サンゴ場B	サンゴ場B	◎
	与那良川河口	サンゴ場C	187.7	サンゴ場C	サンゴ場A	△
	嘉弥真水道	サンゴ場C	52.3	サンゴ場B	サンゴ場B	△
	浦内川河口(096-2)（対照地点）		2.0	干潟A	対照地点は目標なし	
	浦内川河口(096-3)（対照地点）		103.2	干潟A	対照地点は目標なし	
	鳩間島南（重要サンゴ群集等）		13.5	サンゴ場A	サンゴ場AA	▲
	マルグー（重要サンゴ群集等）		27.8	サンゴ場A	サンゴ場AA	▲

集計	重点監視海域（対照地点、重要サンゴ群集等地点除く）	目標達成海域（上記、◎）	5海域	23%
		H21-23年度より改善海域（上記、○）	4海域	18%
		H21-23年度から改善していない海域（上記、△）	13海域	59%
		H21-23年度から悪化した海域（上記、×）	0海域	0%
	重要サンゴ群集等地点	目標達成地点（上記、●）	0地点	0%
		目標未達成地点（上記、▲）	5地点	100%

(5) 赤土等に係る環境保全目標類型

サンゴ場における環境保全目標類型

類型	堆積指標 SPSS(kg/m^3)	海域の概観	主に見られる生物
サンゴ場AA	1～10未満 (ランク3～4)	底質は、砂をかき混ぜると懸濁物質の舞い上がりが確認できる程度。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られ、樹枝状のミドリイシ属やコモンサンゴ属の群落等がサンゴ場内に発達し、大規模群落を形成することもある。サンゴ群落内の岩盤には清浄域を好むヒメジャコ、サボテングサ等が局所的に生息し、群落横の砂地にはサツマビナ等の貝類が埋在する。また、周辺ではサンゴ類を利用するスズメダイ類やベラ類等の魚類が多く見られる他、色とりどりの魚類が遊泳する。	サンゴ類：ミドリイシ属(コユビミドリイシ、サンカクミドリイシ等)、コモンサンゴ属(エダコモンサンゴ、ノリコモンサンゴ等) ベントス類：サツマビナ、スナギンチャク科、ホンナガウニ、ヒメジャコ、ツマジロナガウニ 海藻草類：サボテングサ、ハイオオギ、ビロウドガラガラ属、アミジグサ属 魚類：スズメダイ科の内、デバスズメダイ、アオバスズメダイ、ミツボシクロスズメダイ、ロクセンスズメダイ等サンゴ上に生息する種群、ノドグロベラ、アカオビベラ、スジベラ、トカラベラ、カノコベラ
サンゴ場A	10～30未満 (ランク5a)	底質は注意して見ると懸濁物質の存在がわかる。 生き生きとしたサンゴ礁生態系が見られ、サンゴ類を中心とした良好な生態系が維持されている。樹枝状サンゴから塊状サンゴまで多種のサンゴ類が生息し、周辺には清浄域を好むベントス類・海藻類、およびサンゴ類を利用するスズメダイ類を中心とした魚類が遊泳する。	
サンゴ場B	30～50未満 (ランク5b)	底質の表面にホコリ状の懸濁物質がかぶさる。 透明度が悪くなり、サンゴ被度に影響が出始める。また、樹枝状サンゴの出現割合が減少し、塊状サンゴの出現割合が増加し始める。サンゴ類を利用する魚類が減少し始め、カザリハゼ等の砂、砂泥に住む魚類の出現が増加し始める。	サンゴ類：キクメイシモドキ※ ベントス類：ニワトリガキ、カニノテムシロ、ケヤリムシ科、ウニシャコ科 海藻草類：ヒメテングサ、コノハノリ科、アオノリ属、アオサ属 魚類：ハナナガモチノウオ、カザリハゼ、ホシハゼ、タカノハハゼ、シノビハゼ属
サンゴ場C	50以上 (ランク6～8)	一見して赤土等の堆積がわかる。底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 明らかに人為的な赤土等の流出による汚染があると判断。 樹枝状サンゴ類の群落はほとんど見られず、塊状のサンゴが大半を占める。岩盤上にはキクメイシモドキ、ニワトリガキ、ヒメテングサ等、砂泥上にはカニノテムシロ等が出現し、泥底にはタカノハハゼ等の泥質依存のハゼ類が出現する。	

注)表中の数字は年間の最大値である。
※ キクメイシモドキは、主にSPSSランク7、8に出現する。

海草藻場における環境保全目標類型

類型	堆積指標 SPSS(kg/m^3)	海域の概観	主に見られる生物
海草藻場A	1～50未満 (ランク3～5b)	透明度は高く清浄な海域だが、海草に捕捉された懸濁物質が藻場内にとどまることもある。 サンゴ類では、コモンサンゴ属(樹枝状)等が海草とともに群落をなすことがある。 海草藻場内にはクサイロカノコ、コブヒトデ、ハゴロモ等が局所的に住み、藻場脇の砂地にはタケノコガイ科等が埋在する。周辺ではキンセンイシモチ、ミツボシキュウセン等の魚類が遊泳する。	サンゴ類：コモンサンゴ属(樹枝状) ベントス類：タケノコガイ科の内、ムシロタケ、リュウキュウタケ、カニモリタケ等礁池内砂底に生息する種群、クサイロカノコ、コブヒトデ 海藻草類：ハゴロモ、イトグサ属 魚類：キンセンイシモチ、ミツボシキュウセン、ハラスジベラ
海草藻場B	50以上 (ランク6～8)	一見して赤土等の堆積がわかり、海草上に浮泥がかぶる。底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 リュウキュウアマモ等の海草藻場にはミツデサボテングサ等も混在し、局所的にヒメクワノミカニモリやフトコロガイ等の貝類が生息する。周辺ではサラサハゼ属等の泥質を好む魚類が生息する。	サンゴ類：なし ベントス類：ヒメクワノミカニモリ、フトコロガイ、フトユビシャコ 海藻草類：リュウキュウアマモ、ミツデサボテングサ 魚類：サラサハゼ属、フエフキダイ属の幼魚、タイワンマトイシモチ

注)表中の数字は年間の最大値である。

干潟における環境保全目標類型

類型	堆積指標 SPSS(kg/m^3)	海域の概観	主に見られる生物
干潟A	1～100未満 (ランク3～6)	底質の表面に懸濁物質がかぶさる。底質攪拌で赤土等が懸濁する。 SPSS値が100kg/m^{3}に近づくに従い、種の多様性は高くなる。干潟の表面に甲殻類のミナミコメツキガニ、リュウキュウコメツキガニ、ミナミスナガニ等が見られる。	ベントス類：ミナミコメツキガニ、リュウキュウコメツキガニ、ミナミスナガニ
干潟B	100以上 (ランク6～8)	底質攪拌で赤土等が色濃く懸濁。 SPSS値が高くなるに従い、種の多様性は低下する。 干潟の表面に巻貝のウミニナ属が見られ、泥内にはミナミメナガオサガニが生息する。点在する岩には、ヒバリガイモドキ、マルアマオブネ、シロスジフジツボ等が生息する。	ベントス類：シロスジフジツボ、ヒバリガイモドキ、マルアマオブネ、ウミニナ属、カノコガイ、ミナミメナガオサガニ

注)表中の数字は年間の最大値である。

8　基地公害関係

(1)平成25(2013)年度在日日軍施設・区域環境調査(基地排水調査結果)

施設・区域名				キャンプ・シュワブ		キャンプ・ハンセン	
調査地点番号				2	2	5	5
調査地点名			単位	下水処理施設	下水処理施設	下水処理施設	下水処理施設
調査項目		採水年月日		2013/12/14	2014/1/15	2013/12/4	2014/1/15
		採水時刻		13:25	10:00	10:50	10:45
		天　　候		晴れ	曇	晴れ	晴れ
		気　　温	(℃)	20.8	16.3	19.9	16.4
		水　　温	(℃)	17.2	21.2	24.9	23.1
		色相		無	微褐色	淡黄	微褐色
		臭気		塩素臭	塩素臭	微下水	塩素臭
		透視度	(cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	770	801	794	864
	生活環境項目	pH		7.2	7.3	7.3	7.4
		BOD	(mg/L)			8.5	5.8
		COD	(mg/L)	12	14		
		SS	(mg/L)	<1	2.5	3.6	2.6
		n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		大腸菌群数	(個/cm^3)	0	0	0	0
		ﾌｪﾉｰﾙ類含有量	(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
		銅含有量	(mg/L)	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
		亜鉛含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		溶解性鉄含有量	(mg/L)	<0.1	0.15	<0.1	0.14
		溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		ｸﾛﾑ含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		窒素含有量	(mg/L)				
		燐含有量	(mg/L)				
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ｼｱﾝ化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		有機燐化合物(ﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙｼﾞﾒﾄﾝ及びEPNに限る。)	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		六価ｸﾛﾑ化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	0.03
		砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		水銀及びｱﾙｷﾙ水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾁｳﾗﾑ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ｼﾏｼﾞﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｾﾚﾝ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ほう素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	10	12	14	17
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(1)平成25(2013)年度在日米軍施設・区域環境調査(基地排水調査結果)

施設・区域名				キャンプ・コートニー		キャンプ・コートニー	
調査地点番号				6-1	6-1	6-2	6-2
調査地点名			単位	下水処理施設	下水処理施設	下水処理施設	下水処理施設
調査項目		採水年月日		2013/12/16	2014/1/23	2013/12/16	2014/1/23
		採水時刻		10:45	10:10	11:10	10:45
		天　候		曇	晴れ	曇	晴れ
		気　温	(℃)	19.6	15.8	19.6	16.1
		水　温	(℃)	19.5	16.6	21.3	19.4
		色相		微褐色	微白濁	微褐色	微褐色
		臭気		生ぐさ臭	塩素	微下水	塩素
		透視度	(cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	450	455	583	553
	生活環境項目	pH		7.1	7.2	7.3	7.0
		BOD	(mg/L)				
		COD	(mg/L)	8.3	9.2	8.0	8.4
		SS	(mg/L)	3.9	2.7	<1	<1
		n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		大腸菌群数	(個/cm^3)	0	0	0	0
		ﾌｪﾉｰﾙ類含有量	(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
		銅含有量	(mg/L)	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
		亜鉛含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		溶解性鉄含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		ｸﾛﾑ含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		窒素含有量	(mg/L)	8	13	22	19
		燐含有量	(mg/L)	4.2	4.4	2.9	4.5
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ｼｱﾝ化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		有機燐化合物(ﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙｼﾞﾒﾄﾝ及びEPNに限る。)	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		六価ｸﾛﾑ化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		水銀及びｱﾙｷﾙ水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾁｳﾗﾑ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ｼﾏｼﾞﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｾﾚﾝ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ほう素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	6.4	11	<1	8.8
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(1)平成25(2013)年度在日米軍施設・区域環境調査(基地排水調査結果)

施設・区域名				奥間レストセンター		ホワイトビーチ	
調査地点番号				44	44	45	45
調査地点名			単位	下水処理施設	下水処理施設	下水処理施設	下水処理施設
調査項目		採水年月日		2013/12/11	2014/1/30	2013/12/19	2014/1/23
		採水時刻		11:10	11:07	10:35	11:15
		天　候		曇	晴れ	晴れ	晴れ
		気　温	(℃)	19.0	21.6	18.9	18.5
		水　温	(℃)	19.9	20.0	20.3	18.2
		色相		無	無	無	微褐色
		臭気		無	塩素	無	塩素
		透視度	(cm)	>30	>30	>30	20.6
		電気伝導率	(μS/cm)	620	517	441	389
	生活環境項目	pH		6.8	7.4	6.6	6.5
		BOD	(mg/L)				
		COD	(mg/L)	2.8	1.3	7	13
		SS	(mg/L)	1.4	1.2	2.0	3.7
		n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		大腸菌群数	(個/cm^3)	0	0	0	0
		ﾌｪﾉｰﾙ類含有量	(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
		銅含有量	(mg/L)	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
		亜鉛含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		溶解性鉄含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	0.14	<0.1
		溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		ｸﾛﾑ含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		窒素含有量	(mg/L)				
		燐含有量	(mg/L)				
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ｼｱﾝ化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		有機燐化合物(ﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙｼﾞﾒﾄﾝ及びEPNに限る。)	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		六価ｸﾛﾑ化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		水銀及びｱﾙｷﾙ水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾁｳﾗﾑ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ｼﾏｼﾞﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｾﾚﾝ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ほう素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	9.0	19	8.9	17
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(1)平成25(2013)年度在日米軍施設・区域環境調査(基地排水調査結果)

施設・区域名				キャンプ・シュワブ	キャンプ・コートニー	嘉手納飛行場		奥間レストセンター
調査地点番号				30	32	33	43	46
調査地点名			単位	海中排水口付近	海中排水口付近	大道川河口沖	嘉手納マリーナ	海中排水口付近
調査項目		採水年月日		2013/12/4	2013/12/16	2013/12/19	2013/12/19	2014/1/30
		採水時刻		13:40	11:35	13:50	13:15	11:30
		天　候		晴れ	曇	曇	曇	晴れ
		気　温	(℃)	22.5	19.8	18.5	20.5	21.6
		水　温	(℃)	21.3	19.7	19.6	21.1	20.7
		色相		無	無	無	無	無
		臭気		無	無	無	無	無
		透視度	(cm)	>30	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	48800	47800	46700	47800	49300
	生活環境項目	pH		8.2	8.2	8.2	8.1	8.2
		BOD	(mg/L)					
		COD	(mg/L)	1.0	0.7	1.8	1.0	3.5
		SS	(mg/L)	4.9	6.5	<1	2.3	<1
		n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	(mg/L)	<1	<1	<1	<1	<1
		大腸菌群数	(個/cm^3)	0	2	10	1	0
		ﾌｪﾉｰﾙ類含有量	(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
		銅含有量	(mg/L)	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
		亜鉛含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		溶解性鉄含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		ｸﾛﾑ含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		窒素含有量	(mg/L)	<1	<1	<1	<1	<1
		燐含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ｼｱﾝ化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		有機燐化合物(ﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙｼﾞﾒﾄﾝ及びEPNに限る。)	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		六価ｸﾛﾑ化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素及びその化合物	(mg/L)	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
		水銀及びｱﾙｷﾙ水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾁｳﾗﾑ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ｼﾏｼﾞﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｾﾚﾝ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<1	1.1	<1	<1	<1
		ほう素及びその化合物	(mg/L)	4.4	4.1	4.2	4.4	4.4
		ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	<1	1.0	<1	1.0	1.4
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(1)平成25(2013)年度在日米軍施設・区域環境調査(基地排水調査結果)

施設・区域名				キャンプ瑞慶覧			
調査地点番号				20-(1)	20-(1)	20-(2)	20-(2)
調査地点名			単位	普天間川下流	普天間川下流	普天間川上流	普天間川上流
調査項目		採水年月日		2013/12/5	2014/1/16	2013/12/5	2014/1/16
		採水時刻		14:46	13:12	14:00	13:42
		天　候		晴れ	曇	晴れ	曇
		気　温	(℃)	19.6	15.1	21.5	15.5
		水　温	(℃)	23.0	15.9	18.0	15.4
		色相		無	無	微褐色	無
		臭気		微藻	無	無	無
		透視度	(cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	1213	914	875	825
	生活環境項目	pH		8.9	9.4	8.0	8.2
		BOD	(mg/L)	<0.5	0.8	3.8	3.2
		COD	(mg/L)				
		SS	(mg/L)	2.9	<1	3.3	1.3
		n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		大腸菌群数	(個/cm³)	4.0E+02	6	4.0E+02	83
		ﾌｪﾉｰﾙ類含有量	(mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
		銅含有量	(mg/L)	<0.3	<0.3	<0.3	<0.3
		亜鉛含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		溶解性鉄含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		ｸﾛﾑ含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		窒素含有量	(mg/L)				
		燐含有量	(mg/L)				
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ｼｱﾝ化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		有機燐化合物(ﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙｼﾞﾒﾄﾝ及びEPNに限る。)	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		六価ｸﾛﾑ化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		水銀及びｱﾙｷﾙ水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾁｳﾗﾑ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ｼﾏｼﾞﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	(mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｾﾚﾝ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ほう素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1	<1	<1
		ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	2.5	2.1	3.9	3.3
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
備考							

＊ 網掛けは基準超過

(1)平成25(2013)年度在日米軍施設・区域環境調査(基地排水調査結果)

施設・区域名				普天間飛行場	
調査地点番号				47	48
調査地点名			単位	ﾌｪﾝｽ横排水溝 入口	ﾌｪﾝｽ横排水溝 出口
調査項目		採水年月日		2014/1/9	2014/1/9
		採水時刻		10:23	10:00
		天　　候		曇	曇
		気　　温	(℃)	15.0	15.5
		水　　温	(℃)	17.9	16.1
		色相		微白濁	無
		臭気		下水	微下水
		透視度	(cm)	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	1033	770
	生活環境項目	pH		7.8	8.4
		BOD	(mg/L)	2.5	10
		COD	(mg/L)		
		SS	(mg/L)	1.0	1.1
		n-ﾍｷｻﾝ抽出物質	(mg/L)	<1	<1
		大腸菌群数	(個/cm^3)	1.0E+04	2.2E+02
		ﾌｪﾉｰﾙ類含有量	(mg/L)	<0.5	<0.5
		銅含有量	(mg/L)	<0.3	<0.3
		亜鉛含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2
		溶解性鉄含有量	(mg/L)	0.1	<0.1
		溶解性ﾏﾝｶﾞﾝ含有量	(mg/L)	<0.1	<0.1
		ｸﾛﾑ含有量	(mg/L)	<0.2	<0.2
		窒素含有量	(mg/L)		
		燐含有量	(mg/L)		
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002
		ｼｱﾝ化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1
		有機燐化合物(ﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙｼﾞﾒﾄﾝ及びEPNに限る。)	(mg/L)	<0.01	<0.01
		鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.005	<0.005
		六価ｸﾛﾑ化合物	(mg/L)	0.02	<0.02
		砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002
		水銀及びｱﾙｷﾙ水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾁｳﾗﾑ	(mg/L)	<0.005	<0.005
		ｼﾏｼﾞﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005
		ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	(mg/L)	<0.01	<0.01
		ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｾﾚﾝ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002
		ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1
		ほう素及びその化合物	(mg/L)	<1	<1
		ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	2.8	1.5
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005
備考				大腸菌群数は1/16採水	大腸菌群数は1/16採水

＊ 網掛けは基準超過

(2)平成25(2013)年度在日米軍施設・区域環境調査(地下水調査結果)

施設・区域名				普天間飛行場	
調査地点番号				49	49
調査地点名				ﾌｪﾝｽ横湧水	ﾌｪﾝｽ横湧水
調査項目		採水年月日		2013/12/5	2014/1/9
		採水時刻		13:24	10:50
		天　　候		晴れ	曇
		気　　温	(℃)	19.8	14.5
		水　　温	(℃)	21.8	20.2
		色相		無	無
		臭気		無	無
		透視度	(cm)	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	787	823
		pH		8.0	8.0
	健康項目	ｶﾄﾞﾐｳﾑ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002
		ｼｱﾝ化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1
		有機燐化合物(ﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙﾊﾟﾗﾁｵﾝ、ﾒﾁﾙｼﾞﾒﾄﾝ及びEPNに限る。)	(mg/L)	<0.01	<0.01
		鉛及びその化合物	(mg/L)	<0.005	<0.005
		六価ｸﾛﾑ化合物	(mg/L)	<0.02	<0.02
		砒素及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002
		水銀及びｱﾙｷﾙ水銀その他の水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀化合物	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾌｪﾆﾙ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		塩化ﾋﾞﾆﾙﾓﾉﾏｰ	(mg/L)	<0.0002	<0.0002
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾁｳﾗﾑ	(mg/L)	<0.005	<0.005
		ｼﾏｼﾞﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005
		ﾁｵﾍﾞﾝｶﾙﾌﾞ	(mg/L)	<0.01	<0.01
		ﾍﾞﾝｾﾞﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｾﾚﾝ及びその化合物	(mg/L)	<0.002	<0.002
		ほう素及びその化合物	(mg/L)	<0.05	<0.05
		ふっ素及びその化合物	(mg/L)	<0.1	<0.1
		ｱﾝﾓﾆｱ、ｱﾝﾓﾆｳﾑ化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	(mg/L)	<1	<1
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(3)平成26(2014)年度在日軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名			キャンプ・シュワブ		キャンプ・ハンセン	
調査地点番号			60	60	61	61
調査地点名			久志大川	久志大川	加武川西支流	加武川西支流
調査項目		採水月日	2015/1/7	2015/2/4	2015/1/7	2015/2/4
		採水時刻	10:40	10:41	11:25	11:32
		天　候	晴れ	曇	曇	曇ー小雨
		気　温 (℃)	17.8	16.9	17.5	16.8
		水　温 (℃)	15.9	15.2	15.9	15.8
		色相	無	無	微黄	微黄
		臭気	無	無	微土	無
		透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率 (μS/cm)	272	307	248	271
	生活環境項目	pH	7.9	7.9	7.9	7.9
		BOD (mg/L)	<0.5	<0.5	<0.5	0.5
		SS (mg/L)	<1	<1	2	1
		DO (mg/L)	9.6	9.6	9.9	9.6
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.5E+02	1.7E+03	9.3E+01	1.7E+03
		全亜鉛 (mg/L)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.23	0.22	0.25	0.25
		ふっ素 (mg/L)	0.14	0.09	0.17	0.11
		ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(3)平成26(2014)年度在日軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名			嘉手納飛行場			
調査地点番号			11	11	63	63
調査地点名			ダクジャク川	ダクジャク川	嘉手納消防本部裏側溝	嘉手納消防本部裏側溝
調査項目		採水月日	2015/1/8	2015/2/5	2015/1/8	2015/2/5
		採水時刻	10:25	10:50	10:50	11:15
		天　候	曇	曇	曇	曇
		気　温 (℃)	14.5	16.2	15.4	16.2
		水　温 (℃)	16.9	16.6	14.1	14.0
		色相	無	無	無	無
		臭気	無	無	微土	微土
		透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率 (μS/cm)	618	516	402	474
	生活環境項目	pH	7.8	7.7	7.7	7.6
		BOD (mg/L)	<0.5	<0.5	0.9	0.7
		SS (mg/L)	<1	1	<1	1
		DO (mg/L)	8.9	7.4	9.0	8.0
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	4.9E+03	1.7E+04	1.3E+04	4.0E+03
		全亜鉛 (mg/L)	<0.003	0.003	0.017	0.026
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.92	0.49	0.19	0.20
		ふっ素 (mg/L)	0.13	0.08	0.21	0.09
		ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(3)平成26(2014)年度在日軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名			キャンプ桑江	キャンプ瑞慶覧		
調査地点番号			15	18	20	21
調査地点名			第1ゲート横排水溝	北谷南小川	普天間川下流基地外	石川原川
調査項目		採水月日	2015/2/4	2015/1/20	2015/1/20	2015/1/20
		採水時刻	13:07	10:30	13:00	10:50
		天　候	曇	曇	曇	曇
		気　温 (℃)	18.4	18.5	20.0	19.5
		水　温 (℃)	18.9	19.1	19.8	18.8
		色相	無	無	無	無
		臭気	無	微藻	微土	青草
		透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率 (μS/cm)	200	598	1,600	609
	生活環境項目	pH	8.8	8.4	9.1	8.2
		BOD (mg/L)	3.1	<0.5	<0.5	0.5
		SS (mg/L)	2	<1	17	1
		DO (mg/L)	11	16	16	11
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.6E+05	4.9E+03	3.9E+02	4.9E+04
		全亜鉛 (mg/L)	0.008	<0.003	0.006	<0.003
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.60	0.61	2.3	2.9
		ふっ素 (mg/L)	0.14	0.15	0.20	0.10
		ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(3)平成26(2014)年度在日軍施設・区域環境調査(公共用水域調査結果)

施設・区域名				キャンプ瑞慶覧	
調査地点番号				62	62
調査地点名				白比川	白比川
調査項目		採水月日		2015/1/8	2015/2/5
		採水時刻		11:30	11:50
		天　候		曇	曇
		気　温	(℃)	14.3	16.5
		水　温	(℃)	15.6	15.8
		色相		無	無
		臭気		微下水	無
		透視度	(cm)	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	744	669
	生活環境項目	pH		7.9	7.9
		BOD	(mg/L)	5.4	4.7
		SS	(mg/L)	1	8
		DO	(mg/L)	8.9	7.4
		大腸菌群数	(MPN/100ml)	7.9E+04	1.3E+04
		全亜鉛	(mg/L)	0.009	0.008
	健康項目	カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003
		全シアン	(mg/L)	<0.1	<0.1
		鉛	(mg/L)	<0.002	<0.002
		六価クロム	(mg/L)	<0.02	<0.02
		砒素	(mg/L)	<0.002	<0.002
		総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		PCB	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		チウラム	(mg/L)	<0.001	<0.001
		シマジン	(mg/L)	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002
		ベンゼン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005
		セレン	(mg/L)	<0.002	<0.002
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	(mg/L)	3.1	2.9
		ふっ素	(mg/L)	0.21	0.12
		ほう素	(mg/L)	0.05	<0.05
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005

＊ 網掛けは基準超過

(4)平成26(2014)年度基地周辺公共用水域監視調査(公共用水域調査結果)

調査地点番号				3	3	15
調査地点名				億首橋	億首橋	第一ゲート横　排水溝
調査項目		採水月日		2014/8/13	2014/12/3	2014/7/23
		採水時刻		14:00	10:02	9:55
		天　　候		くもり	くもり	くもり
		気　　温	(℃)	30.6	21.7	31.2
		水　　温	(℃)	25.2	22.0	31.0
		色相		微緑	無	無
		臭気		無	微下水	微藻
		透視度	(cm)	>30	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	5,310	911	665
	生活環境項目	pH		7.5	7.2	7.7
		DO	(mg/L)	8.4	8.1	18
		BOD	(mg/L)	<0.5	<0.5	1.2
		SS	(mg/L)	7	8	5
		大腸菌群数	(MPN/100ml)	N.D.	N.D.	1.1E+04
		全亜鉛	(mg/L)	0.003	0.005	0.01
	健康項目	カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005
		チウラム	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素	(mg/L)	0.22	0.12	<0.08
		ほう素	(mg/L)	0.29	<0.05	0.08
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	(mg/L)	0.33	0.57	<0.05

(4)平成26(2014)年度基地周辺公共用水域監視調査(公共用水域調査結果)

調査地点番号			18	18	18	18
調査地点名			北谷南小川	北谷南小川	北谷南小川	北谷南小川
調査項目		採水月日	2014/7/23	2014/9/24	2014/11/20	2015/2/25
		採水時刻	10:20	11:10	10:35	10:40
		天　候	くもり	くもり	晴れ	晴れ
		気　温 (℃)	31.2	30.2	24.8	24.1
		水　温 (℃)	27.3	29.5	24.8	22.9
		色相	無	無	無	無
		臭気	微土	微土	無	微土
		透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率 (μS/cm)	642	572	500	537
	生活環境項目	pH	7.9	8.1	8.5	8.0
		DO (mg/L)	10	12	22	11
		BOD (mg/L)	<0.5	<0.5	0.9	<0.5
		SS (mg/L)	2	<1	11	<1
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.7E+04	2.4E+05	1.3E+05	1.1E+04
		全亜鉛 (mg/L)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.002
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素 (mg/L)	0.16	0.12	0.22	<0.08
		ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	0.80	0.73	0.52	2.5

(4)平成26(2014)年度基地周辺公共用水域監視調査(公共用水域調査結果)

調査地点番号			21	21	21	21
調査地点名			石川原川	石川原川	石川原川	石川原川
調査項目		採水月日	2014/7/23	2014/9/24	2014/11/20	2015/2/25
		採水時刻	10:38	11:35	10:55	10:10
		天　候	くもり	くもり	晴れ	晴れ
		気　温 (℃)	31.2	30.7	24.0	23.5
		水　温 (℃)	26.6	28.2	23.9	23.3
		色相	無	無	無	無
		臭気	藻	無	微土	無
		透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率 (μS/cm)	619	580	603	557
	生活環境項目	pH	7.8	8.0	8.5	7.9
		DO (mg/L)	10.0	9.6	10	17
		BOD (mg/L)	<0.5	0.6	<0.5	0.5
		SS (mg/L)	2	<1	<1	26
		大腸菌群数 (MPN/100ml)	1.7E+04	1.3E+05	2.8E+04	7.0E+03
		全亜鉛 (mg/L)	0.003	<0.003	<0.003	<0.003
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素 (mg/L)	0.10	<0.08	0.15	0.1
		ほう素 (mg/L)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	2.4	2.4	2.8	0.5

(4)平成26(2014)年度基地周辺公共用水域監視調査(公共用水域調査結果)

調査地点番号				20	20	53	53
調査地点名				普天間川下流(基地外)	普天間川下流(基地外)	オート川	オート川
調査項目		採水月日		2014/7/23	2014/11/20	2014/8/13	2014/12/3
		採水時刻		11:10	11:30	12:05	11:03
		天　候		くもり	晴れ	くもり	くもり
		気　温	(℃)	33.1	26.0	33.5	18.0
		水　温	(℃)	30.0	25.6	27.4	15.6
		色相		無	無	微褐色	無
		臭気		微土	微藻	無	無
		透視度	(cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率	(μS/cm)	1,025	11,200	292	440
	生活環境項目	pH		8.7	8.6	6.9	7.3
		DO	(mg/L)	14	12	7.4	9.0
		BOD	(mg/L)	0.8	<0.5	<0.5	<0.5
		SS	(mg/L)	7	5	3	4
		大腸菌群数	(MPN/100ml)	2.2E+04	7.9E+03	1.4E+03	1.7E+03
		全亜鉛	(mg/L)	0.004	<0.003	0.003	<0.003
	健康項目	カドミウム	(mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン	(mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム	(mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼｽ-1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ	(mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		チウラム	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン	(mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン	(mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン	(mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素	(mg/L)	0.11	0.23	0.13	0.18
		ほう素	(mg/L)	0.05	0.70	<0.05	<0.05
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	(mg/L)	0.63	1.1	0.26	0.37

(5)平成26(2014)年度基地周辺公共用水域測定結果(地下水調査結果)

施設・区域名			普天間飛行場			キャンプ瑞慶覧
調査地点番号			50	51	52	56
調査地点名			森川公園内湧水	フンシンガー	ヒヤカーガー	チュンナガー
調査項目		採水月日	2014/8/6	2014/8/6	2014/8/6	2014/8/6
		採水時刻	14:50	14:15	14:35	13:50
		天　候	くもり一時雨	晴れ	晴れ	晴れ
		気　温 (℃)	28.5	32.5	33.1	31.2
		水　温 (℃)	24.1	24.5	24.9	24.4
		色相	無	無	無	無
		臭気	無	無	無	無
		透視度 (cm)	>30	>30	>30	>30
		電気伝導率 (μS/cm)	527	737	597	766
		pH	7.2	7.2	7.3	7.2
	健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003
		全シアン (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
		鉛 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		六価クロム (mg/L)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
		砒素 (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		総水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｱﾙｷﾙ水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		PCB (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ｼﾞｸﾛﾛﾒﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		四塩化炭素 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,2-ｼﾞｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,1-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,1,2-ﾄﾘｸﾛﾛｴﾀﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾄﾘｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		ﾃﾄﾗｸﾛﾛｴﾁﾚﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,3-ｼﾞｸﾛﾛﾌﾟﾛﾍﾟﾝ (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		1,4-ｼﾞｵｷｻﾝ (mg/L)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
		チウラム (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		シマジン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
		チオベンカルブ (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ベンゼン (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
		セレン (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
		ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08	<0.08
		ほう素 (mg/L)	<0.05	0.05	<0.05	0.06
		硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)	1.2	3.7	1.5	3.0

(6)平成26年度　米軍基地周辺公共用水域監視調査(底質分析結果)

施設・区域名		ｷｬﾝﾌﾟ･ﾊﾝｾﾝ	嘉手納飛行場	牧港補給地区前海岸
調査地点番号		K-3	K-33	K-60
調査地点名		億首橋	大道川河口沖	牧港補給地区前海岸
採取年月日		2014/8/13	2014/7/14	2014/7/11
乾燥減量	(%)	25.5	19.2	26.4
カドミウム	(mg/kg-dry)	0.26	0.08	0.14
鉛	(mg/kg-dry)	29	16	2.4
六価クロム	(mg/kg-dry)	<2.0	<2.0	<2.0
砒素	(mg/kg-dry)	28	3.8	2.4
総水銀	(mg/kg-dry)	0.11	0.03	<0.01
PCB	(mg/kg-dry)	<0.01	0.12	0.01
ｸﾛﾙﾃﾞﾝ類	(mg/kg-dry)		0.022	
DDT類	(mg/kg-dry)		0.056	
ﾄﾞﾘﾝ類	(mg/kg-dry)		<0.005	
HCH類	(mg/kg-dry)		<0.005	
HCB	(mg/kg-dry)		<0.005	

(7)平成26年度　米軍基地周辺公共用水域監視調査（魚類分析結果）

採取場所		牧　港　海　域				
検体名		ボラ科	ニシン科	ブダイ科	ニザダイ科	ヒイラギ科
採取年月日		2014.11.20	2014.11.20	2014.11.20	2014.11.20	2014.11.20
体長(cm)		31.0～39.0	16.5～18.5	23.0～23.0	13.0～15.5	18.5～20.5
体重(g)		812～1536	146～222	566～617	158～231	195～294
カドミウム	(mg/kg)	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
鉛	(mg/kg)	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
砒素	(mg/kg)	1.40	0.31	0.33	0.31	0.34
総水銀	(mg/kg)	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.06
PCB	(mg/kg)	<0.01	0.05	<0.01	<0.01	0.01
総クロム	(mg/kg)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
DDT類 *	(mg/kg)	0.006	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
ｸﾛﾙﾃﾞﾝ類 *	(mg/kg)	0.017	0.014	<0.005	<0.005	0.078
ﾄﾞﾘﾝ類 *	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
HCH類 *	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005
HCB	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005

採取場所		嘉手納海域		
検体名		ボラ科	ブダイ科	ヒイラギ科
採取年月日		2015.2.25	2015.3.30	2015.2.25
体長(cm)		25.5～29.4	23.0～25.0	24.5～26.0
体重(g)		307～497	475～503	462～503
カドミウム	(mg/kg)	<0.02	<0.02	<0.02
鉛	(mg/kg)	<0.05	<0.05	<0.05
砒素	(mg/kg)	1.0	0.70	0.42
総水銀	(mg/kg)	<0.01	<0.01	0.10
PCB	(mg/kg)	0.01	0.06	0.01
総クロム	(mg/kg)	<0.01	<0.01	<0.01
DDT類 *	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005
ｸﾛﾙﾃﾞﾝ類 *	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005
ﾄﾞﾘﾝ類 *	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005
HCH類 *	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005
HCB	(mg/kg)	<0.005	<0.005	<0.005

* クロルデン類(７物質)、DDT類(６物質)、ドリン類(３物質)及び、HCH類(４物質)の値は合計値。
＜0.005とは、各成分とも0.005未満であることを示す。

(8) 平成26年度基地周辺公共用水域監視調査（ダイオキシン類）
（底質分析結果）

施設区域名	採水地点	実測濃度	毒性等量	環境基準値
		pg/g	pg-TEQ/g	pg-TEQ/g
キャンプ・フォスター	普天間川	1500	4.7	150
嘉手納飛行場	比謝川	2000	3.0	
キャンプ・フォスター	石川原川	6600	8.7	

(9)嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺航空機騒音調査

ア　月別Ldenの推移

平成26年度における嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺の航空機騒音の月別Ldenは、それぞれ下表のとおりです。

表1　月別Ldenの推移（嘉手納飛行場周辺）

(dB)

測定地点	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
１　美　原	64	62	63	63	64	62	63	64	62	64	63	65
２　昆　布	64	61	60	58	－	－	－	62	61	63	62	63
３　上　勢	54	51	54	50	51	51	53	56	53	55	54	54
４　宮　城	60	59	60	56	59	57	56	54	53	58	60	60
５　北　見	59	56	55	56	54	54	60	60	58	61	59	61
６　八重島	50	48	52	49	48	－	－	－	－	－	－	－
７　屋良A	61	57	57	57	58	57	61	61	60	61	60	63
８　砂　辺	70	71	71	68	71	70	67	65	63	71	72	71
９　伊良皆	50	50	47	46	50	50	54	49	50	52	51	51
10　桑　江	50	50	53	45	50	50	50	54	52	52	51	52
11　山　内	48	49	48	45	45	47	48	48	49	51	49	50
12　知　花	60	58	56	56	56	56	60	60	58	61	60	61
13　嘉手納	63	62	61	64	61	58	62	62	62	61	60	62
14　兼　久	58	56	54	55	55	54	58	57	57	57	56	60
15　屋良B	69	69	69	69	68	67	68	68	66	68	69	69
16　宮　里	41	39	41	40	40	39	41	41	42	43	46	42
17　北　玉	46	49	48	42	43	44	44	44	48	48	44	46
18　みどり町	50	47	46	49	43	47	48	46	42	44	47	52
19　仲　嶺	45	40	47	46	39	45	43	45	41	43	50	47
20　勝連南風原	48	47	50	50	48	50	46	47	48	47	43	41
21　座喜味	－	－	－	－	－	－	－	46	48	47	45	49
22　コ　ザ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	52	50

※座喜味局は11月、コザ局は２月から測定開始（新設）。

※昆布局は８月～10月は欠測、八重島局は８月で廃止。

表2　月別Ldenの推移（普天間飛行場周辺）

(dB)

測定地点	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
１　野　嵩	54	61	57	56	57	55	50	52	53	56	53	52
２　愛　知	45	49	47	42	45	43	43	47	46	47	44	44
３　我如古	47	46	50	47	50	48	45	49	52	52	47	47
４　上大謝名	61	65	67	60	59	58	58	59	62	61	59	62
５　新　城	53	56	56	56	57	55	51	52	53	54	50	52
６　宜野湾	48	49	50	48	50	47	46	48	51	49	47	48
７　真志喜	53	51	52	51	53	50	48	51	54	53	48	51
８　大　山	53	50	51	50	52	49	50	51	53	53	48	50
９　荻　道	50	54	53	53	52	53	50	50	50	52	50	48
10　大　城	48	53	52	52	51	51	48	49	51	51	49	48
11　熱　田	48	48	52	50	49	47	46	47	48	48	46	46
12　比屋根	42	50	49	43	49	45	38	42	41	42	40	41
13　牧　港	49	52	52	49	46	44	46	49	48	50	48	53
14　当　山	52	54	53	50	50	49	47	50	51	52	50	49
15　内　間	49	52	50	49	49	46	45	47	49	49	48	50

イ　曜日別日平均騒音発生回数

嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺における曜日別日平均騒音発生回数は、平日（月曜日～金曜日）に多く、土曜日及び日曜日は少ない傾向にあります。

表1　曜日別日平均騒音発生回数（嘉手納飛行場周辺）

（回／日）

測定地点	日	月	火	水	木	金	土
1　美　原	22.5	48.5	60.4	62.7	56.1	45.8	29.2
2　昆　布	11.4	37.7	44.6	43.6	41.3	31.3	17.7
3　上　勢	10.5	45.1	54.0	55.8	47.2	39.6	18.0
4　宮　城	18.6	59.2	81.6	81.5	72.3	64.0	32.3
5　北　美	9.3	31.8	39.3	40.9	35.1	32.9	14.1
6　八重島	5.0	10.1	14.9	19.8	14.0	18.6	6.0
7　屋良Ａ	19.5	64.7	86.7	81.6	76.5	61.5	33.0
8　砂　辺	18.9	70.0	91.1	87.3	78.3	73.4	34.6
9　伊良皆	4.2	27.2	39.7	38.1	33.7	28.9	11.2
10　桑　江	3.0	18.7	23.4	22.5	19.6	19.8	6.4
11　山　内	6.3	30.5	40.0	40.0	34.3	29.2	10.8
12　知　花	14.6	50.7	66.1	65.4	58.9	58.4	26.0
13　嘉手納	8.6	46.0	61.3	58.6	50.3	36.6	14.1
14　兼　久	2.6	28.5	38.5	38.2	31.5	20.4	5.3
15　屋良B	23.8	65.4	83.8	79.0	72.9	61.3	34.1
16　宮　里	5.6	20.2	24.9	27.3	21.7	18.6	7.8
17　北　玉	5.7	23.9	32.0	31.3	25.9	25.2	9.7
18　みどり町	0.6	6.4	8.9	8.4	6.8	4.8	1.4
19　仲　嶺	1.2	4.4	5.7	5.4	3.9	3.1	1.2
20　勝連南風原	2.1	6.1	10.6	10.4	8.6	8.2	3.5
21　座喜味	9.2	36.9	47.3	39.2	46.7	33.1	15.7
22　コ　ザ	8.3	38.9	40.0	43.2	42.6	29.1	8.3

表2　曜日別日平均騒音発生回数（普天間飛行場周辺）

（回／日）

測定地点	日	月	火	水	木	金	土
1　野　嵩	3.5	26.5	36.1	36.2	31.9	25.3	9.9
2　愛　知	4.7	16.5	18.4	21.5	19.1	17.1	6.9
3　我如古	3.3	13.0	18.9	19.0	15.7	13.1	5.6
4　上大謝名	11.6	36.1	47.3	50.3	42.5	35.9	18.8
5　新　城	6.1	30.2	39.9	40.3	36.5	28.1	12.1
6　宜野湾	18.3	35.3	39.7	43.2	37.4	35.6	20.5
7　真志喜	3.6	19.3	26.7	30.7	23.8	16.8	7.0
8　大　山	3.7	11.8	16.2	18.7	14.5	12.7	5.3
9　荻　道	3.8	22.3	29.2	29.4	26.3	21.9	8.8
10　大　城	5.7	21.7	28.9	28.7	25.5	20.9	9.8
11　熱　田	3.5	16.0	22.2	23.5	20.5	17.3	6.7
12　比屋根	3.5	16.8	22.3	23.2	17.1	15.7	6.2
13　牧　港	2.6	13.6	19.2	20.3	17.5	14.8	6.6
14　当　山	2.7	15.7	20.0	18.8	18.2	13.7	6.3
15　内　間	0.7	7.9	10.7	10.1	9.7	7.4	3.3

ウ　時間帯別平均騒音発生回数

嘉手納飛行場及び普天間飛行場周辺における時間帯別航空機騒音発生回数は、それぞれ下表のとおりです。両飛行場周辺とも、７時～19時における騒音発生比率が概ね70～90%を占めているものの、夜間・早朝にも発生しています。

表1　時間帯別月平均騒音発生回数（嘉手納飛行場周辺）

（回／月）

測定地点	Ｎ１（00時～07時）		Ｎ２（07時～19時）		Ｎ３（19時～22時）		Ｎ４（22時～24時）		終日	22時～06時
	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	回数
1　美　原	70.3	5.0%	1,118.5	79.5%	194.2	13.8%	23.8	1.7%	1,406.7	63.3
2　昆　布	52.5	5.3%	820.7	83.5%	96.2	9.8%	13.9	1.4%	983.2	39.0
3　上　勢	26.2	2.3%	986.8	85.5%	127.3	11.0%	14.1	1.2%	1,154.3	24.9
4　宮　城	50.4	2.8%	1,447.5	81.5%	249.8	14.1%	29.0	1.6%	1,776.7	61.8
5　北　美	49.8	5.7%	703.1	80.0%	110.8	12.6%	15.4	1.7%	879.1	40.7
6　八重島	22.1	6.9%	244.3	76.3%	47.2	14.8%	6.5	2.0%	320.1	23.7
7　屋良Ａ	103.2	5.7%	1,440.1	79.6%	225.6	12.5%	39.8	2.2%	1,808.6	105.0
8　砂　辺	48.3	2.5%	1,623.3	83.0%	254.3	13.0%	29.3	1.5%	1,955.0	60.9
9　伊良皆	26.2	3.4%	645.6	82.8%	99.5	12.8%	8.5	1.1%	779.8	24.3
10　桑　江	5.7	1.2%	418.3	89.8%	38.3	8.2%	3.8	0.8%	466.0	5.8
11　山　内	31.8	3.9%	703.9	85.6%	76.4	9.3%	10.4	1.3%	822.5	24.9
12　知　花	53.8	3.7%	1,222.7	83.4%	173.8	11.9%	16.1	1.1%	1,466.3	40.3
13　嘉手納	84.4	7.0%	930.2	77.6%	134.8	11.2%	49.1	4.1%	1,198.4	99.4
14　兼　久	29.3	4.1%	621.3	86.6%	56.4	7.9%	10.8	1.5%	717.8	21.5
15　屋良Ｂ	124.2	6.8%	1,459.2	79.8%	199.8	10.9%	44.8	2.4%	1,827.8	116.9
16　宮　里	17.8	3.3%	448.8	83.2%	63.5	11.8%	9.6	1.8%	539.7	17.6
17　北　玉	13.2	2.0%	566.2	86.6%	66.9	10.2%	7.3	1.1%	653.5	15.8
18　みどり町	9.4	5.8%	140.6	86.5%	10.8	6.7%	1.7	1.0%	162.5	3.3
19　仲　嶺	5.7	5.2%	86.8	80.0%	11.7	10.8%	4.3	4.0%	108.5	6.6
20　勝連南風原	8.7	4.0%	181.3	84.1%	20.7	9.6%	4.8	2.2%	215.5	8.4
21　座喜味	16.2	1.8%	776.6	84.2%	120.4	13.1%	8.7	0.9%	921.9	17.0
22　コ　ザ	36.6	4.1%	785.2	87.6%	66.0	7.4%	8.2	0.9%	896.0	22.2

表2　時間帯別月平均騒音発生回数（普天間飛行場周辺）

（回／月）

測定地点	Ｎ１（00時～07時）		Ｎ２（07時～19時）		Ｎ３（19時～22時）		Ｎ４（22時～24時）		終日	22時～06時
	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	回数
1　野　嵩	5.4	0.8%	626.1	87.1%	78.7	11.0%	8.5	1.2%	718.8	11.7
2　愛　知	5.2	1.2%	369.4	84.2%	56.6	12.9%	7.6	1.7%	438.8	9.8
3　我如古	3.5	1.0%	304.9	84.5%	47.6	13.2%	4.9	1.4%	360.9	6.6
4　上大謝名	13.1	1.2%	871.9	83.3%	149.1	14.2%	12.3	1.2%	1,046.3	18.3
5　新　城	7.5	0.9%	707.0	85.6%	98.5	11.9%	13.0	1.6%	826.0	15.8
6　宜野湾	14.1	1.4%	844.3	84.9%	122.8	12.3%	13.4	1.3%	994.7	20.4
7　真志喜	3.5	0.7%	443.8	82.8%	80.7	15.1%	8.0	1.5%	535.9	9.9
8　大　山	20.0	5.7%	249.8	71.8%	66.4	19.1%	11.8	3.4%	347.9	29.3
9　荻　道	5.8	1.0%	531.7	88.9%	53.2	8.9%	7.2	1.2%	597.9	9.1
10　大　城	6.9	1.1%	528.8	87.3%	60.9	10.1%	9.3	1.5%	606.0	12.3
11　熱　田	4.5	1.0%	401.5	87.0%	47.8	10.3%	8.0	1.7%	461.8	10.2
12　比屋根	6.2	1.4%	386.4	87.2%	44.3	10.0%	6.2	1.4%	443.1	8.0
13　牧　港	10.9	2.7%	327.0	79.6%	62.3	15.2%	10.8	2.6%	411.0	21.7
14　当　山	5.6	1.3%	346.6	83.5%	55.7	13.4%	7.0	1.7%	414.8	12.6
15　内　間	3.1	1.4%	189.0	87.2%	22.1	10.2%	2.5	1.1%	216.6	5.5

(10)環境放射能調査結果の概要

ア　降水（定時採取雨水）

おおよその放射能レベルを簡易に、かつ、迅速に確認するため、毎日午前９時に降水採取容器を回収・設置し、前日の午前９時から当日の午前９時までの24時間に降った雨水中の全ベータ放射能濃度を調査しています（ただし、平成23年３月の福島第一原子力発電所事故以降、平成23年12月末まで、定時採取雨水試料の全量を放射性核種を同定するためのガンマ線測定に供したため全ベータ放射能濃度を測定を一時中断しました）。

平成26年度において、降雨量が0.5mm以上のときに採取した調査試料数は108試料であり、年間の全ベータ放射能濃度は10.6MBq/km^{2}です。なお、すべての試料において人工放射性核種は検出されていません。

表1-1　降水の全ベータ放射能濃度

採取場所：南城市大里　　（定時採取量 0.5mm以上）

採取年月	測定数	降雨量 (mm)	最低値 (Bq/L)	最高値 (Bq/L)	降下量 (MBq/km^2)
平成26年４月	9	89.0	N.D.	1.4	10.6
５月	14	393.5	N.D.	N.D.	N.D.
６月	12	338.4	N.D.	N.D.	N.D.
７月	7	243.3	N.D.	N.D.	N.D.
８月	13	202.0	N.D.	N.D.	N.D.
９月	8	104.3	N.D.	N.D.	N.D.
10月	8	174.0	N.D.	N.D.	N.D.
11月	5	82.3	N.D.	N.D.	N.D.
12月	10	98.7	N.D.	N.D.	N.D.
平成27年１月	5	28.0	N.D.	N.D.	N.D.
２月	9	45.8	N.D.	N.D.	N.D.
３月	8	76.4	N.D.	N.D.	N.D.

N.D.：計測数値が計数誤差の３倍を下回るもの

表1-2　降水の全ベータ放射能濃度の年度推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
降下量 (MBq/km^2)	1.6	(N.D.)※	40.6	10.0	10.6

N.D.：計測数値が計数誤差の３倍を下回るもの

※　平成24年１～３月の３ヶ月間の測定であるため、(N.D.）と表記した。

イ　降下物（雨、ちり）

屋外露出した大型水盤に１か月間の降下物（雨水、ちり）を捕集し、その降下物中

に含まれる放射能濃度を調査しています。

降下物中に含まれる全ベータ放射能、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137および天然放射性核種のカリウム-40の月間降下量及び年度推移は以下のとおりです。

平成26年度において、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137は検出されていません。全ベータ放射能濃度は16.3MBq/km^{2}検出されていますが、すべての試料において人工放射性核種は検出されていません。

表2-1　降下物の全ベータ放射能、I-131 、Cs-134 、Cs-137 、K-40

採取場所：うるま市勝連

採取年月	採取期間	日数	降雨量 (mm)	降下量 (MBq/km^2)				
				全ベータ	I-131	Cs-134	Cs-137	K-40
平成26年４月	04/01 ～ 05/01	30	119.0	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	1.1
５月	05/01 ～ 06/02	32	425.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.76
６月	06/02 ～ 07/01	29	375.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.99
７月	07/01 ～ 08/01	31	398.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	31
８月	08/01 ～ 09/01	31	120.0	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	1.2
９月	09/01 ～ 10/01	30	174.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	1.0
10月	10/01 ～ 11/04	34	111.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	54
11月	11/04 ～ 12/01	27	65.0	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	1.4
12月	12/01 ～ 01/05	35	99.0	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	2.0
平成27年１月	01/05 ～ 02/02	28	15.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.8
２月	02/02 ～ 03/02	28	39.5	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.94
３月	03/02 ～ 04/01	30	64.5	16.3	N.D.	N.D.	N.D.	1.2

N.D.：計測数値が計数誤差の３倍を下回るもの

表2-2　降下物の全ベータ放射能、I-131 、Cs-134、Cs-137、K-40の年度推移（年間累積値）

(単位:MBq/km^2)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
全ベータ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	16.3
I-131	0.59	2.9	N.D.	N.D.	N.D.
Cs-134	N.D.	4.8	N.D.	N.D.	N.D.
Cs-137	N.D.	4.3	0.12	N.D.	N.D.
K-40	14	92	60	24	96

N.D.：計測数値が計数誤差の３倍を下回るもの

ウ　上水、農産物、土壌

(ｱ) 上水（水道蛇口水）

上水は年１回、夏季（６月ごろ）に水道蛇口水より採取し、機器分析によるヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137及び天然放射性核種のカリウム-40を調査しています。

上水中のヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137濃度は検出限界以下となっています。

(ｲ) 農産物

人参、キャベツおよび米に含まれるヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137濃

度は、全試料とも検出限界以下となっています。

(ｳ) 土壌

土壌中のセシウム-137濃度は、那覇市の土壌（草地）では表層部（0～5cm）で4.3Bq/kg乾土、深層部（5～20cm）で4.0Bq/kg乾土検出され、平成23年３月の福島第一原子力発電所事故以前と同等のレベルです。一方、うるま市の土壌（未耕土）では、前年度と同様、共に検出限界以下となっています。

表3　上水、農産物、土壌の核種分析結果

試料名		採取地	試料数	I-131 平均値	Cs-134 平均値	Cs-137 平均値	K-40 平均値	単位
上水（蛇口水）		那覇市	1	N.D.	N.D.	N.D.	64	mBq/L
米	精米	名護市	1	N.D.	N.D.	N.D.	26	Bq/kg生
野菜	人参	うるま市	1	N.D.	N.D.	N.D.	73	Bq/kg生
	キャベツ	うるま市	1	N.D.	N.D.	N.D.	68	Bq/kg生
土壌	(0～5cm)	那覇市	1	N.D.	N.D.	4.3	490	Bq/kg乾土
	(5～20cm)		1	N.D.	N.D.	4.0	500	Bq/kg乾土
	(0～5cm)	うるま市	1	N.D.	N.D.	N.D.	404	Bq/kg乾土
	(5～20cm)		1	N.D.	N.D.	N.D.	432	Bq/kg乾土

N.D.：計測数値が計数誤差の３倍を下回るもの

エ　海水、海底土

(ｱ) 海水

海水中のヨウ素-131、セシウム-134およびセシウム-137 濃度は、検出限界以下となっています。

(ｲ) 海底土

海底土中のヨウ素-131、セシウム-134およびセシウム-137 濃度は、検出限界以下となっています。

表4　海水、海底土の核種分析結果

試料名	採取地	試料数	I-131 平均値	Cs-134 平均値	Cs-137 平均値	K-40 平均値	単位
海水	金武中城湾	1	N.D.	N.D.	N.D.	11,000	mBq/L
海底土	金武中城湾	1	N.D.	N.D.	N.D.	97	Bq/kg乾土

N.D.：計測数値が計数誤差の３倍を下回るもの

オ　空間放射線量

外部からの放射線による人体への影響を評価し、外部被曝線量を推定することを目的として、モニタリングポストによる空間中の放射線量率の測定を行っています。県内各地域における空間放射線量率の測定を強化するため、平成24年度から、モニタリングポスト３局を新設し、既設局と合わせて４局体制（地域バランスを考慮し、北部（名護市）・中部（うるま市）・南部（那覇市）・離島（石垣市）に配置）で、常時監

視しています。

モニタリングポストにおける空間放射線量率は、うるま市：19～45nGy/h、那覇市：42～74nGy/h、名護市：24～52nGy/h、石垣市：14～47nGy/hの範囲となっています。なお、従来から測定を継続しているうるま市の測定結果は、平成23年３月の福島第一原子力発電所事故以前と同等の放射線レベルとなっています。

表5-1 モニタリングポストによる空間線量率

（単位：nGy/h）

測定地点 / 測定年月	うるま市			那覇市			名護市			石垣市		
	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値	最低値	最高値	平均値
平成26年４月	21	45	22	43	74	45	25	46	26	14	28	15
５月	20	32	22	43	61	44	25	44	26	14	24	15
６月	20	31	21	42	59	44	24	37	26	14	47	15
７月	20	22	20	43	45	44	25	27	26	14	24	14
８月	19	29	20	43	55	44	24	52	25	14	22	15
９月	19	29	20	43	48	44	25	32	25	14	18	15
10月	20	23	21	43	47	44	25	28	26	14	18	15
11月	20	32	21	43	56	44	25	37	26	14	26	15
12月	20	35	21	43	57	44	25	45	26	14	28	16
平成27年１月	21	26	22	43	53	44	25	33	26	14	33	16
２月	20	35	22	43	60	44	25	45	26	14	37	16
３月	20	34	21	43	61	44	25	41	26	14	32	15

表5-2　モニタリングポストによる空間線量率（年平均値）の年度推移

（単位：nGy/h）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
うるま市	19	22	22	22	21
那覇市	－	－	45	44	44
名護市	－	－	26	26	26
石垣市	－	－	15	15	15

※那覇市、名護市、石垣市は、平成24年度から測定開始

9　廃棄物関係

（１）粗大ごみ処理施設整備状況

平成26年3月末現在

実施主体		構成市町村	規模(t/日)	処理方式	総事業費（千円）	着工年月	竣工年月	備考
1	倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	7	選別	－	H19.3	H22.3	ﾘｻｲｸﾙﾌﾟﾗｻﾞに含む
2	浦添市	浦添市	25	破砕	2,349,961	S55.9	S57.12	
3	比謝川行政事務組合	嘉手納町、読谷村	13	併用	666,672	H7.2	H10.3	
4	本部町今帰仁村清掃施設組合	本部町、今帰仁村	15	併用	330,969	H7.9	H10.3	
5	糸満市･豊見城市清掃施設組合	糸満市、豊見城市	30	併用	1,862,782	H7.12	H10.3	
6	名護市	名護市	5	併用	426,570	H10.10	H11.3	
7	那覇市・南風原町環境施設組合	那覇市、南風原町	39	併用	2,513,355	H14.8	H18.3	
合　　計		13市町村	134		8,150,309			

※ 処理方式の併用とは、粗大ごみの破砕と圧縮の両方の処理を行うこと。

（２）一般廃棄物最終処分場整備状況

平成26年3月末現在

実施主体		構成市町村	埋立開始年月	終了予定年月	埋立面積（m^2）	埋立容量（m^3）	平成24年度末 残余容量（m^3）	平成24年度末 残余年数(推計)	総事業費（千円）
1	比謝川行政事務組合	読谷村、嘉手納町	H20.4	H35.3	15,650	155,000	42,309	21.7	1,436,820
2	恩納村	恩納村、うるま市	H3.5	H24.3	12,300	100,000	45,430	28.7	583,220
3	伊江村	伊江村	H3.4	H24.3	25,382	72,400	46,381	199.9	160,734
4	宮古島市	宮古島市	H6.6	H26.3	10,600	81,000	39,364	178.1	893,114
5	名護市	名護市	H7.4	H22.3	20,000	185,000	7,758	15.0	1,148,470
6	倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	H9.2	H24.3	38,000	400,000	240,359	76.7	2,738,582
7	宮古島市	宮古島市	H9.3	H30.3	7,000	52,000	15,273	4.7	906,400
8	石垣市	石垣市	H11.2	H27.3	15,200	140,000	43,894	9.7	2,224,183
9	粟国村	粟国村	H11.3	H28.3	6,000	15,000	7,600	38.0	580,670
10	渡嘉敷村	渡嘉敷村	H14.2	H35.3	3,000	15,000	13,631	47.8	466,917
11	多良間村	多良間村	H14.7	H35.3	3,000	10,000	9,623	118.8	503,214
12	久米島町	久米島町	H16.3	H36.3	5,000	25,000	18,082	10.2	905,829
13	国頭地区行政事務組合	国頭村、東村、大宜味村	H18.4	H38.3	7,200	45,000	37,882	30.8	1,214,621
14	竹富町	竹富町	H18.4	H33.3	4,300	22,000	19,953	84.2	637,539
15	伊是名村	伊是名村	H18.11	H34.3	2,500	11,000	10,595	1765.8	416,684
16	与那国町	与那国町	H19.4	H39.3	3,000	11,000	8,555	3.5	711,505
17	那覇市・南風原町環境施設組合	那覇市、南風原町	H19.4	H33.3	13,000	107,000	71,089	19.2	4,338,657
18	本部町・今帰仁村清掃施設組合	本部町・今帰仁村	H21.4	H35.3	8,800	67,000	63,005	55.6	1,545,206
19	北大東村	北大東村	H21.2	H41.2	900	2,000	1,828	10.6	291,689
20	南大東村	南大東村	H22.3	H37.3	1,330	4,500	3,403	47.3	627,430
合　　計		27市町村			202,162	1,519,900	746,014	27.9	22,331,484

（３）廃棄物再生利用施設整備状況

平成26年3月末現在

実施主体		構成市町村	施設規模	総事業費（千円）	着工年月	竣工年月	備考
リサイクルプラザ							
1	那覇市	那覇市	53 t/8h	1，869，900	H6．2	H7．3	H20-23に拡充整備（総事業費1，286，709千円）
2	浦添市	浦添市	40 t/5h	3，515，978	H9．11	H11．3	
3	中城村北中城村清掃事務組合	中城村、北中城村	9 t/5h	―	H12．12	H15．5	総事業費はごみ処理施設に含む（防衛施設庁予算）
4	中部北環境施設組合	うるま市、恩納村	57 t/5h	3，163，983	H14．2	H16．3	
5	倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	82 t/5h	2，582，873	H19．3	H22．3	
小　計		9市村	241 t/日	11，132，734			
リサイクルセンター							
1	渡嘉敷村	渡嘉敷村	1 t/日	169，845	H12．9	H14．3	
2	多良間村	多良間村	1 t/日	175，486	H12．9	H14．3	
3	伊江村	伊江村	1 t/日	―	H14．10	H16．2	総事業費はごみ処理施設に含む（防衛施設庁予算）
4	久米島町	久米島町	3 t/日	439，517	H15．1	H16．3	
5	国頭地区行政事務組合	国頭村、東村、大宜味村	4．8 t/日	544，339	H16．10	H18．3	
6	竹富町	竹富町	1．4 t/日	354，900	H16．11	H18．2	
7	与那国町	与那国町	1 t/日	416，120	H17．3	H18．11	
8	宮古島市（伊良部島）	宮古島市	1 t/日	213，691	H19．9	H20．3	
9	伊是名村	伊是名村	1 t/日	75，470	H22．7	H24．1	
小　計		11町村	15．2 t/日	2，389，368			
ストックヤード							
1	石垣市	石垣市	576 m^2	107，520	H9．11	H10．3	
2	渡嘉敷村	渡嘉敷村	200 m^2	49，936	H10．10	H11．3	
3	糸満市	糸満市	631 m^2	104，749	H11．11	H12．3	
4	島尻消防清掃組合	南城市（旧：知念村、玉城村、大里村）、八重瀬町	612 m^2	145，569	H12．3	H12．8	
5	多良間村	多良間村	234 m^2	54，295	H13．8	H14．3	
6	北大東村	北大東村	150 m^2	46，515	H14．4	H14．8	
7	国頭地区行政事務組合	国頭村、東村、大宜味村	450 m^2	81，375	H16．10	H18．3	
8	本部町今帰仁村清掃施設組合	本部町、今帰仁村	600 m^2	265，900	H18．2	H19．1	
9	中部北環境施設組合（うるま市字栄野比地内）	うるま市、恩納村	150 m^2	186，060	H19．8	H20．3	
10	倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	1700 m^2	273，803	H21．6	H22．1	
11	中部北環境施設組合（うるま市石川伊波地内）	うるま市、恩納村	150 m^2	199，448	H21．7	H22．3	
12	那覇市	那覇市	300 m^2	33，942	H21．10	H23．2	
13	中部北環境施設組合（うるま市勝連内間地内）	うるま市、恩納村	150 m^2	194，355	H23．7	H24．3	
小　計		18市町村	5，903 m^2	1，743，467			
合　計		27市町村		15，265，569			

（４）し尿処理施設整備状況

平成26年3月末現在

実施主体		構成市町村	規模（kL/日）	処理方式	総事業費（千円）	着工年月	竣工年月	平24年度処理実績（kL/年）
1	石垣市	石垣市	25	嫌消	80,317	昭46．6	昭47．6	12,789
2	名護市	名護市、国頭村(委託)、東村(委託)、大宜味村(委託)	40	二段活	115,997	昭47．8	昭48．3	13,320
3	東部清掃施設組合	与那原町、西原町、南城市(旧 佐敷町)	30	嫌消	157,693	昭48．8	昭49．1	9,687
4	本部町今帰仁村清掃施設組合	本部町、今帰仁村	35	〃	579,180	昭49．9	昭50．5	6,943
5	倉浜衛生施設組合	沖縄市、宜野湾市、北谷町	130	〃	1,293,000	昭51．3	昭52．2	8,248
6	中城村北中城村清掃事務組合	中城村、北中城村	30	〃	429,871	昭52．2	昭53．2	7,375
7	中部衛生施設組合	うるま市、嘉手納町、読谷村、恩納村(事業分)	80	二段活（低希釈）	850,345	昭53．3	昭55．6	20,253
8	糸満市豊見城市清掃施設組合	糸満市、豊見城市	65	〃	998,496	昭55.12	昭57．3	11,269
9	宮古島市(旧伊良部町)	宮古島市(旧 伊良部町)	10	好気性（低希釈）	242,000	昭56.1	昭58．3	573
10	多良間村	多良間村	3	二段活（低希釈）	83,000	昭57.11	昭58．3	289
11	島尻消防清掃組合	南城市、(旧 知念村、玉城村、大里村)八重瀬町(旧具志頭村)、南風原町(委託)	30	二段活（低希釈）	893,464	昭61．2	昭62．9	11,645
合　計		25	478		5,723,363			102,391

10　自然環境関係

（１）自然環境保全基礎調査一覧

	年　度	調　査　内　容　等
第１回	S48	現存植生と植生自然度
第２回	53～54	現存植生（沖縄島北部地域、八重山諸島）
		特定植物群落（県下101の貴重な又は代表的な群落）
		動物分布調査
		（哺乳類：シカ・イノシシ、淡水魚：タナゴモドキ、昆虫類、両生類、爬虫類分布）
		海域生物環境調査（サンゴ礁・藻場・干潟分布）
第３回	58	現存植生調査（沖縄島中南部地域・久米島・慶良間列島・南北大東島）
	59	現存植生調査（宮古島・伊良部島・多良間島）
		特定植物群落調査（追加調査35ケ所）
		海域生物環境調査
	60	現存植生調査（硫黄鳥島・粟国島）
		特定植物群落調査（第２回調査で調査した全群落のフォロー調査）
		海域生物環境調査
	61	現存植生調査（魚釣島）
		特定植物群落調査（追加調査29ケ所、生育状況調査８ケ所）
	62	自然景観資源調査（沖縄県全域）
第４回	63	巨樹・巨木林調査（沖縄全域）
	H元	藻場・干潟調査（沖縄全域）
	2	サンゴ礁調査（沖縄島）
	3	サンゴ礁調査（八重山諸島）
		湖沼調査（南大東島：大池）
		生態系総合モニタリング調査（恩納村、名護市）
	4	サンゴ礁調査（宮古諸島及び沖縄島周辺離島）
		河川調査（西表島：仲間川・仲良川）
		植生調査（植生図修正補完調査）
		生態系総合モニタリング調査（詳細調査）
第５回	5	湿地調査（沖縄県全域）
		動植物分布調査（沖縄県全域）
	6	種の多様性調査（八重山地域）
	7	種の多様性調査（宮古地域）
	8	種の多様性調査（沖縄島北部地域）
		生態系総合モニタリング調査
		海辺調査
	9	種の多様性調査（本島中南部）：動植物の分布調査
		生態系総合モニタリング調査：経年変化状況調査
		植生調査：第４回調査の追跡調査
		特定植物群落調査：第３回調査の追跡調査
	10	種の多様性調査（伊平屋、伊是名、伊江、慶良間、久米島）
		特定植物群落調査：第３回調査の追跡調査
		河川調査：第４回調査の追跡調査
第６回	11	種の多様性調査（国頭村、沖縄島周辺諸島）
		海棲動物調査(ウミガメ生息調査)（沖縄県全域）
	12	種の多様性調査（沖縄全域）
		哺乳類分布調査(シカ、イノシシ、マングース)（沖縄県全域）
	13	種の多様性調査（沖縄全域）
		哺乳類分布調査(シカ、イノシシ、マングース)（沖縄県全域）
	14	種の多様性調査
		哺乳類分布調査(シカ、イノシシ、マングース補完調査)（沖縄県全域）
	15	種の多様性調査
		哺乳類分布調査(シカ、イノシシ、マングース補完調査)（沖縄県全域）
第７回	16	植生調査
		浅海域調査(藻場・干潟)
		種の多様性調査
		生物多様性地域調査
		モニタリングサイト1000
	17	植生調査
		生態系多様性調査（浅海域生態系調査）
		モニタリングサイト1000
	18	植生調査
		生態系多様性調査（アライグマ生息情報収集）
		モニタリングサイト1000
	19	植生調査
		浅海域生態系調査（干潟）
		モニタリングサイト1000
		生物多様性調査
	20	植生調査
		浅海域生態系調査（藻場）
		モニタリングサイト1000
		生物多様性調査
	21	植生調査

（２）沖縄県自然環境保全地域の概要

表１　沖縄県自然環境保全地域

（平成27年３月31日現在）

地域名	位置	面積（ヘクタール）			自然環境の特性	指定年月日
		特別地域	普通地域	計		
久部良岳自然環境保全地域	与那国町	13.21	117.04	130.25	ビロウ林がよく発達し、与那国島固有の群落である。また、与那国の動物の主要生息地である。	昭和55年10月６日
宇良部岳自然環境保全地域		46.98	168.27	215.25	山頂部にはウラジロガシの優占する林分があり、山頂部から南側傾斜面にかけてはイタジイ林が発達し、サンニヌ台から新川鼻にかけては、地形、地質、植生の上から極めて複雑な様相を呈している。	〃
東崎自然環境保全地域		—	43.57	43.57	隆起サンゴ礁に発達するコウライシバーソナレムグラ群集及び未風化の砂岩の平坦地によく発達するコウライシバーシマニシキソウ群集がみられる。	〃
比川地先自然環境保全地域		2.30	—	2.30	この地域は標高１ｍにあり、大潮時には一部冠水する凹凸のはげしい隆起サンゴ礁からなりたっている。常時海風をうけるミズガンピ群集は、風圧を直接うけているため、樹冠はかり込まれたような奇観を呈している。	〃
田名の久葉山自然環境保全地域	伊平屋村	13.06	16.00	29.06	北側斜面には風衝植生が発達し、南側斜面はビロウの単純林で占められ、特異の景観を呈している。	〃
後岳自然環境保全地域		—	109.91	109.91	伊平屋島の山は、タンナ山、後岳、アサ岳、腰岳、賀陽山、阿波岳と連なっており、山麓部から中腹にかけて、尾根部や稜線に沿ってリュウキュウマツが優占している。これらの山々は一体となって島を保全する上で重要な役割をはたしている。	
腰岳自然環境保全地域		6.84	56.43	63.27		
賀陽山自然環境保全地域		—	94.46	94.46		
阿波岳自然環境保全地域		—	53.16	53.16		
伊是名山自然環境保全地域	伊是名村	4.15	49.25	53.40	リュウキュウマツの純林、ウバメガシの純林が発達している。	〃
嘉津宇岳・安和岳・八重岳自然環境保全地域	名護市	68.07	88.09	156.16	イスノキの優占する天然林、ヒナカンアオイ、カツウダケカンアオイ等の固有種がみられる。	平成元年３月３日
合　　計		154.61	796.18	950.79		

表２　自然環境保全地域（国指定）

（平成27年３月31日現在）

地域名	位置	面積（ヘクタール）			自然環境の特性	指定年月日
		特別地域	普通地域	計		
崎山湾・網取湾自然環境保全地域	竹富町	1,077.1	－	1,077.1	本地域はミドリイシ類をはじめとする他種のサンゴからなるサンゴ群集が発達し、湾内の深みにはアミトリセンベイサンゴの大規模な群集が存在するなど、豊富な海中生物相を有している。	平成27年２月17日

（3）温泉利用状況

平成 27 年 3 月 31 日現在

管轄保健所名	市町村名	温泉地名	源泉総数（A＋B）	利用源泉数（A）		未利用源泉数（B）		温度別源泉数				湧出量L/分		宿泊施設数	収容定員（人）	年度延宿泊利用人員（人）	温泉利用の公衆浴場施設	国民保養温泉地年度延宿泊利用人員	主たる泉質名
				自噴	動力	自噴	動力	25℃未満	25℃以上42℃未満	42℃以上	水蒸気及びガス	自噴	動力						
北部福祉保健所	本部町	－	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－	250	1	891	79,436	1	－	ナトリウム塩化物強塩泉
中部福祉保健所	恩納村	－	1	1	－	－	－	1	－	－	－	150	－	1	1,138	274,563	1	－	含硫黄ナトリウム塩化物炭素水泉
	恩納村	－	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－	221	1	678	230,809	1	－	ナトリウム塩化物泉
	宜野湾市	－	1	1	－	－	－	－	1	－	－	420	－	－	－	－	1	－	ナトリウム塩化物泉
	北谷町	－	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－	326	－	－	－	1	－	ナトリウム炭酸水素塩泉
南部福祉保健所	那覇市	－	1	－	1	－	－	－	1	－	－	－	70	1	205	44,182	1	－	ナトリウム塩化物泉
	那覇市	－	1	1	－	－	－	－	1	－	666	597	－	2	2,101	27,604	2	－	含ヨウ素塩化物泉
	浦添市	－	1	1	－	－	－	－	－	1	－	220	－	－	－	－	1	－	ナトリウム塩化物泉
	南城市	－	1	－	1	－	－	－	－	1	293	－	195	1	226	47,078	2	－	ナトリウム塩化物泉
	豊見城市	－	1	－	1	－	－	－	－	1	740	－	510	1	200	50,000	1	－	ナトリウム塩化物強塩泉
宮古福祉保健所	宮古島市	－	1	－	1	－	－	－	－	1	－	－	199	1	13	364	2	－	ナトリウム塩化物泉
	宮古島市	－	1	－	1	－	－	－	－	1	－	－	398	－	－	－	1	－	ナトリウム塩化物泉
合 計			11	4	7	0	0	1	5	5	1,699	1,387	1,919	8	4,561	674,600	14	－	

（４）特殊鳥類等生息環境調査

年度	調査区域	調査内容
2	伊湯岳・玉辻山周辺	
3	米軍演習地域	
4	沖縄島北部地域	これまでの調査結果の解析及び保護のあり方について検討
5	沖縄島	湿地・干潟に生息、飛来する渡り鳥等の生息分布、生息密度、生息環境及び植生等の調査
6	宮古諸島	
7	八重山諸島	
8	南北大東、伊平屋久米島	
9	沖縄全域	これまでの調査結果の検討
10, 11	沖縄島北部地域	マングースの生息、捕獲方法の調査
12	沖縄島北部地域	ヤンバルクイナの生息状況調査
14	沖縄島北部地域	ホントウアカヒゲの生息実態調査
15	宮古島	外来種のクジャクの調査
16, 17	沖縄島北部地域	ヤンバルクイナの生息実態調査　ヤンバルクイナのロードキル多発地点周辺環境状況等調査
18	沖縄島北部地域	カラスの生息実態調査
19	沖縄島北部地域	ホントウアカヒゲの生息実態調査
20	宮古島	インドクジャクの分布状況調査
21	沖縄全域	侵略的外来種の侵入状況調査
22	沖縄島北部地域	与那覇岳及びその周辺における侵略的外来種の侵入状況調査
23	粟国村、渡嘉敷村、豊見城市	県指定新規鳥獣保護区候補地における鳥類の生息状況調査
24	恩納村、座間味村	沖縄県指定山田鳥獣保護区及び沖縄県指定屋嘉比島鳥獣保護区における鳥獣の生息状況調査
25	宮古島市、久米島町	沖縄県指定狩俣・島尻、仲里、具志川の各鳥獣保護区における鳥獣の生息状況調査
26	国頭村	沖縄県指定西銘岳、佐手、与那覇岳の各鳥獣保護区における鳥獣の生息状況調査

（５）国指定鳥獣保護区

（平成 27 年 3 月 31 日現在）

種別	名称	所在地	鳥獣保護区					特別保護地区					地図	備考
			面積（ヘクタール）				期間	面積（ヘクタール）				期間		
			国有地	民有地	水面	計		国有地	民有地	水面	計			
集団渡来地	屋我地	名護市 今帰仁村	70	1,026	2,128	3,224	H18.11. 1 H28.10.31			1,001	1,001	H18.11. 1 H28.10.31	①	注①
	漫湖	那覇市 豊見城市	1	115	58	174	H19.11. 1 H39.10.31			58	58	H19.11. 1 H39.10.31	②	注②
	与那覇湾	宮古島市	3	640	723	1366	H23.11. 1 H43.10.31		5	699	704	H19.11. 1 H39.10.31	③	
	小計		74	1781	2909	4764	2カ所			1,758	1,763	3カ所		
集団繁殖地	仲の神島	竹富町	18			18	H10.11.1 H30.10.31	18			18	H10.11.1 H30.10.31	④	注③
	池間	宮古島市		274	8	282	H23.11.1 H43.10.31						⑤	
	小計		18	274	8	300	2カ所	18			18	1カ所		
希少鳥獣生息地	与那国	与那国町		1033	7	1040	H22.11.1 H42.10.31		63		63	H22.11.1 H42.10.31	⑥	注④
	西表	竹富町	10,218			10,218	H13.11.1 H23.10.31	2,306			2,306	H13.11.1 H23.10.31	⑦	注⑤
	名蔵アンパル	石垣市		159	986	1,145	H15.11.1 H35.10.31		97	60	157	H15.11.1 H35.10.31	⑧	注⑥
	大東諸島	北大東村 南大東村	13	4,238		4,251	H16.11.1 H36.10.31	3	231		234	H16.11.1 H36.10.31	⑨	注⑦
	やんばる（安田）	国頭村	1,279			1,279	H21.11.1 H41.10.31	220			220	H21.11.1 H41.10.31	⑩	注⑧
	やんばる（安波）	国頭村		465		465	H21.11.1 H41.10.31						⑪	注⑧
	小計		11,510	5,895	993	18,398	6カ所	2,529	391	60	2,980	5カ所		
合計			11,602	7,950	3,910	23,462	11カ所	2,547	328	1,818	4,761	7カ所		

備考（注）①ハマシギ、シロチドリ、セイタカシギ、キアシシギ等の集団渡来地
②セイタカシギ、ハマシギ、シロチドリ、トウネン等の集団渡来地
③アジサシ類の集団繁殖地
④ヨナクニカラスバト、ヤエヤマシロガシラ等の生息地
⑤イリオモテヤマネコ、カンムリワシ等の生息地
⑥カンムリワシ、セイタカシギ、アカアシシギ等の生息地
⑦ダイトウオオコウモリ等の生息地
⑧ノグチゲラ、ヤンバルクイナ、アカヒゲ、ケナガネズミ等の生息地

（６）県指定鳥獣保護区

（平成 27 年３月 31 日）

種別	名称	所在地	鳥獣保護区					特別保護地区				
			面積（ヘクタール）				期間	面積（ヘクタール）				期間
			国有地	民有地	水面	計		国有地	民有地	水面	計	
森林鳥獣生息地	仲里	久米島町		245		245	H 7 .11.15 H27.11.14					
	大保	大宜味村		60	180	240	H16.11.1 H36.10.31					
	名護岳	名護市		371		371	H17 .11. 1 H27.10.31		207		207	H17.11.30 H27.10.31
	恩納	恩納村		517		517	H17.11.15 H27.11.14					
	山田	恩納村		186		186	H 7.11.15 H27.11.14					
	比謝川	嘉手納町		6	2	8	H18. 9.26 H38. 9.25		6	2	8	H18. 9.26 H38. 9.25
	具志川	久米島町		269	21	290	H 7.11.15 H27.11.14			9	9	H 7.11.15 H27.11.14
	小計			1,654	203	1,857	7カ所		213	11	224	3カ所
集団渡来地	伊良部	宮古島市	2	3,916	933	4,851	H26.11. 1 H46.10.31					
	粟国島	粟国村	0	764		764	H24.11.1 H44.10.31		0.4		0.4	H24.11.1 H44.10.31
	小計		2	4,680	933	5,615	2カ所		0.4		0.4	1カ所
集団繁殖地	チービシ	渡嘉敷村		62		62	H24.11.1 H44.10.31		19		19	H24.11.1 H44.10.31
	小計			62		62	2カ所		19		19	1カ所
身近な保護区	狩俣・島尻	宮古島市		125	75	200	H 7.11.15 H27.11.14					
	末吉	那覇市		18	1	19	H18. 9.26 H38. 9.25		18	1	19	H18. 9.26 H38. 9.25
	小計			143	76	219	2カ所		18	1	19	1カ所
希少鳥獣生息地	屋嘉比島	座間味村		129		129	H26.11. 1 H46.10.31		129		129	H26.11. 1 H46.10.31
	西銘岳	国頭村	30	54		84	H17.11. 1 H27.10.31	30			30	H17.11.30 H27.10.31
	佐手	国頭村	58	100		158	H17.11. 1 H27.10.31	58			58	H17.11.30 H27.10.31
	与那覇岳	国頭村		666		666	H17.11. 1 H27.10.31		23		23	H17.11.30 H27.10.31
	小計		88	949		1,037	4カ所	88	152		240	4カ所
合計			90	7,426	1,212	8,728	14カ所	88	383	12	483	7カ所

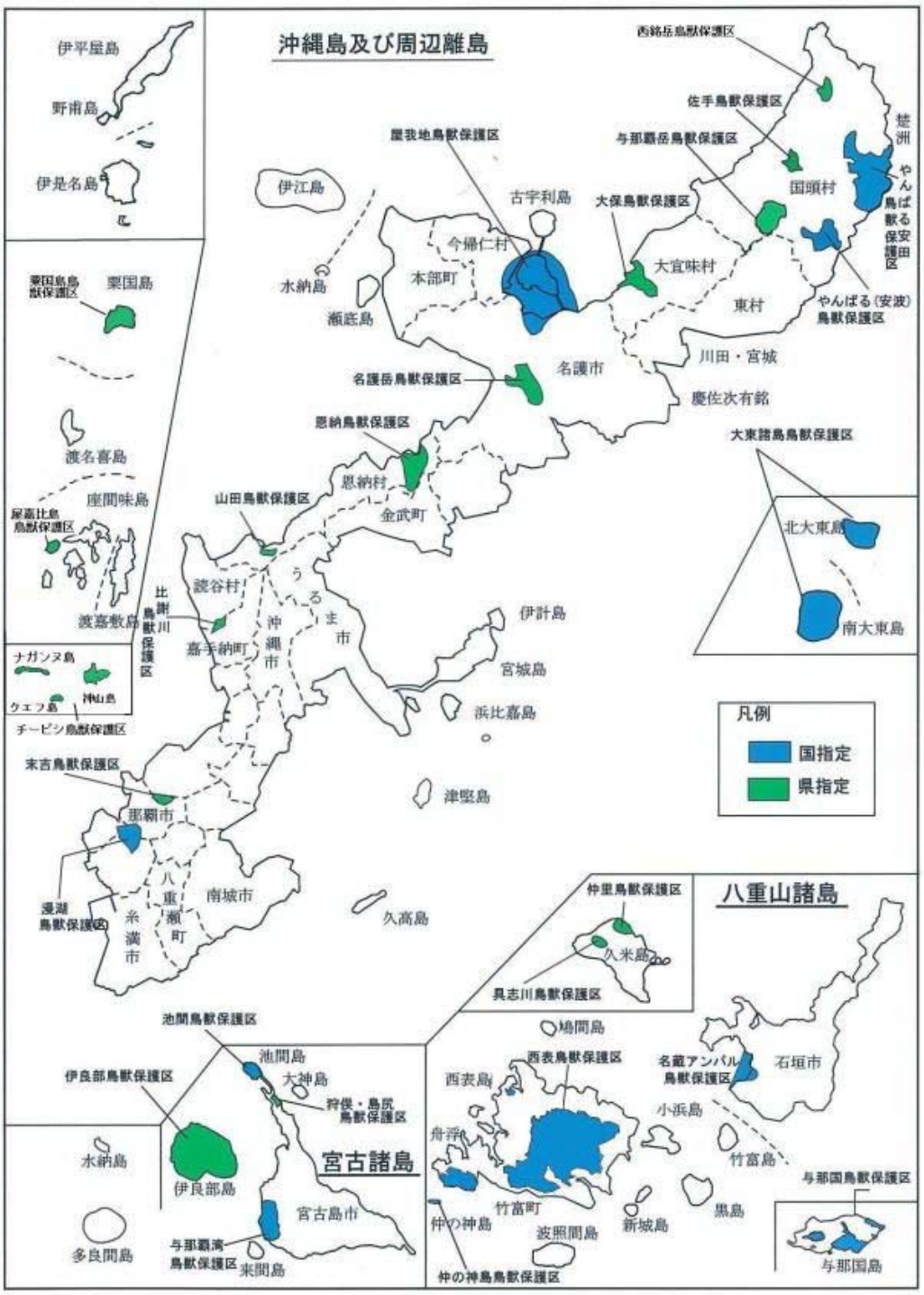
注① サシバ、マガモ、ダイセン、サシバ、カイツブリ、ヨシゴイ等の集団渡来地
リュウキュウヨシゴイ、バン、カルガモ、アマサギ等の繁殖地

注② ケラマジカの生息地

注③ ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、アカヒゲ、ケナガネズミ等の希少野生動物の生息地

（７）鳥獣保護区位置図

沖縄県内の鳥獣保護区



（８）傷病鳥獣救護事業実績

（平成 27 年３月 31 日現在）

種別 年度別	収　受　数　量	放　鳥　獣	死　亡	救　護　中
17	533	289	116	128
18	761	197	406	158
19	725	182	401	142
20	783	206	353	124
21	727	217	356	126
22	848	254	414	108
23	561	167	243	112
24	690	234	274	134
25	553	163	225	20
26	590	162	281	58

※　救護施設として、日本野鳥の会やんばる支部、沖縄県動物愛護管理センター、宮古野鳥の会、NPO 法人どうぶつたちの病院、カンムリワシリサーチが鳥獣救護を実施している。

※　平成 27 年３月現在、県内 20 名の野生動物ドクターを認定している。

（９）鳥獣保護員の配置状況

（平成 27 年３月 31 日現在）

地域別	員数（人）	期間
北　部　地　域	11	１カ年以内
中　・　南部地域	14	〃
宮　古　地　域	3	〃
八 重 山 地 域	8	〃
計	36	

（10）野生鳥獣飼養登録状況

年度別　　（平成 27 年３月 31 日現在）

種別	メジロ	ウグイス	合計
22	180	1	181
23	903	0	903
24	592	0	592
25	477	0	477
26	408	0	408

（11） 国内希少野生動植物種（89 種）

＜動物＞ （平成27年3月現在）

No	種名または亜種名	動物類	科名	主な生息地
1	◎アホウドリ	鳥類	アホウドリ科	東京都（鳥島）、尖閣列島の南島
2	チシマウガラス	〃	ウ科	北海道東部、アラスカの南部沿岸からアリューシャン列島
3	コウノトリ	〃	コウノトリ科	日本、中国、朝鮮半島、沿岸州
4	トキ	〃	トキ科	日本、中国
5	シジュウカラガン	〃	ガンカモ科	伊豆沼（宮城県）に希に飛来、アリューシャン列島で繁殖
6	オオタカ	〃	ワシタカ科	本州の山岳北部の森林で繁殖
7	イヌワシ	〃	〃	日本、朝鮮半島
8	オガサワラノスリ	〃	〃	小笠原諸島（父島、母島）
9	オジロワシ	〃	〃	北海道東部、北部、ユーラシア大陸北部
10	オオワシ	〃	〃	冬鳥として本州北部以北に渡来
11	◎カンムリワシ	〃	〃	石垣島、西表島
12	クマタカ	〃	〃	北海道から九州までの山岳
13	シマハヤブサ	〃	ハヤブサ科	硫黄列島の北硫黄島
14	ハヤブサ	〃	〃	北日本、日本海沿岸の島で繁殖
15	ライチョウ	〃	キジ科	本土中部の山岳地帯
16	タンチョウ	〃	ツル科	北海道、沿岸州
17	◎ヤンバルクイナ	〃	クイナ科	沖縄島北部（国頭村、大宜味村、東村）
18	◎アマミヤマシギ	〃	シギ科	奄美大島、徳之島、沖縄島北部、渡嘉敷島
19	カラフトアオアシシギ	〃	〃	北海道に希に渡来、シベリア、カムチャッカ地方
20	エトピリカ	〃	ウミスズメ科	北海道東部、カリフォルニア沿岸からアラスカ湾・オホーツク海
21	ウミガラス	〃	〃	北海道（天売島で繁殖、冬季は本州北部沿岸）
22	◎キンバト	〃	ハト科	石垣島、西表島、鳩間島、竹富島、小浜島、与那国島
23	アカガシラカラスバト	〃	〃	小笠原諸島、硫黄列島
24	◎ヨナクニカラスバト	〃	〃	石垣島、西表島、与那国島
25	ワシミミズク	〃	フクロウ科	北海道北部
26	シマフクロウ	〃	〃	北海道、南千島、サガレン
27	オーストンオオアカゲラ	〃	キツツキ科	奄美大島
28	ミユビゲラ	〃	〃	大雪山（北海道）
29	◎ノグチゲラ	〃	〃	沖縄島北部（国頭村、大宜味村、東村）
30	ヤイロチョウ	〃	ヤイロチョウ科	高知県、長崎県（雲仙、対馬）、宮城県、長野県
31	◎アカヒゲ	〃	ヒタキ科	鹿児島県（種子島、屋久島、奄美大島、徳之島）、沖縄諸島
32	◎ホントウアカヒゲ	〃	〃	沖縄島、慶良間諸島
33	◎ウスアカヒゲ	〃	〃	石垣島、西表島、与那国島
34	オオトラツグミ	〃	〃	奄美大島
35	オオセッカ	〃	〃	青森県、秋田県
36	ハハジマメグロ	〃	ミツスイ科	小笠原諸島（母島、向島）
37	オガサワラカワラヒワ	〃	アトリ科	小笠原諸島、硫黄列島
38	◎ダイトウオオコオモリ	ほ乳類	オオコウモリ科	北大東島、南大東島
39	オガサワラオオコウモリ	〃	〃	小笠原諸島
40	アマミノクロウサギ	〃	ウサギ科	鹿児島県、奄美大島、徳之島
41	ツシマヤマネコ	〃	ネコ科	長崎県（対馬）
42	◎イリオモテヤマネコ	〃	〃	西表島
43	◎キクザトサワヘビ	爬虫類	ヘビ科	久米島
44	アベサンショウウオ	両生類	サンショウウオ科	京都府
45	ミヤコタナゴ	魚類	コイ科	栃木県（大田原市）、千葉県
46	スイゼンゼニタナゴ	〃	〃	岡山県
47	イタセンパラ	〃	〃	大阪府（淀川）、愛知県（木曽川）
48	アユモドキ	〃	ドジュウ科	琵琶湖水系、岡山県
49	ベッコウトンボ	昆虫類	トンボ科	東海地方、近畿地方、中国地方、九州地方
50	ヤシャゲンゴロウ	〃	ゲンゴロウ科	福井県山頂部
51	◎ヤンバルテナガコガネ	〃	コガネムシ科	沖縄島北部（国頭村、大宜味村、東村）
52	ゴイシツバメシジミ	〃	シジミチョウ科	熊本県（市房山）、奈良県
53	◎イシガキニイニイ	〃	セミ科	石垣島
54～58	オガサワラハンミョウ，他4種	〃	ハンミョウ科他	小笠原諸島　オガサワラシジミ、オガサワラトンボ、アオイトトンボ、ハナダカトンボ
59	◎ヨナグニマルバネクワガタ	〃	コガネムシ科	与那国島
60	◎フチドリゲンゴロウ	〃	ゲンゴロウ科	トカラ列島以南の琉球列島に広く分布
61～62	シャープゲンゴロウモドキ、他1種	〃	〃	日本本州、マルコガタノゲンゴロウ（本州、九州）
63	ヒョウモンモドキ	〃	タテハチョウ科	中国地方の一部

＜植物＞

No	種名または亜種名	植物類	科名	主な生育地
1	アマミデンダ	植物	オシダ科	奄美大島
2	ムニンツツジ	〃	ツツジ科	小笠原諸島
3	ウラジロヒカゲツツジ	〃	〃	栃木、群馬、埼玉、東京
4	ヤドリコケモモ	〃	〃	奄美大島
5	ムニンノボタン	〃	ノボタン科	小笠原諸島
6	シモツケコウホネ	〃	スイセン科	栃木県
7	アサヒエビネ	〃	ラン科	小笠原諸島
8	ホシツルラン	〃	〃	小笠原諸島
9	チョウセンキバナアツモリソウ	〃	〃	秋田県
10	ホテイアツモリ	〃	〃	本州中部
11	レブンアツモリソウ	〃	〃	北海道（礼文島）
12	アツモリソウ	〃	〃	本州中部以北
13	◎オキナワセッコク	〃	〃	沖縄島北部
14	コゴメキノエラン	〃	〃	奄美大島
15	シマホザキラン	〃	〃	小笠原諸島
16	◎クニガミトンボソウ	〃	〃	沖縄島北部
17	タイヨウフウトウカズラ	〃	コショウ科	小笠原諸島
18	コバトベラ	〃	トベラ科	小笠原諸島
19	ハナシノブ	〃	ハナシノブ科	熊本県（阿蘇郡）、宮崎県
20	カッコソウ	〃	サクラソウ科	群馬県（桐生市）
21	キタダケソウ	〃	キンポウゲ科	山梨県（中巨摩郡）
22	ウラジロコムラサキ	〃	クマツヅラ科	熊本県（阿蘇郡）、宮崎県
23	◎ヒメタニワタリ	〃	チャセンシダ科	小笠原諸島、北大東島
24	コヘラナレン	〃	キク科	小笠原諸島
25	シマカコソウ	〃	シソ科	小笠原諸島
26	ウチダシクロキ	〃	ハイノキ科	小笠原諸島

◎は県内に生息

(12) 狩猟免状取得状況及び狩猟者登録状況（延べ）

種別 / 年度	狩猟免許取得状況(件)					狩猟者登録状況(件)				
	網	わな	第1種	第2種	計	網	わな	第1種	第2種	計
22	85	279	301	8	673	0	120	225	11	356
23	85	295	308	9	697	0	137	228	7	372
24	84	345	321	12	762	0	156	225	11	392
25	91	370	333	13	807	4	157	226	18	405
26	81	385	344	14	824	0	166	226	15	407

(13) 狩猟免状交付件数の内訳

種別 / 年度	新規(狩猟免許試験)					更新(狩猟者講習)					計
	網	わな	第1種	第2種	計	網	わな	第1種	第2種	計	
22	0	16	0	0	16	9	74	71	1	155	171
23	13	36	14	2	65	28	73	73	2	176	241
24	8	66	35	3	112	26	81	129	4	240	352
25	9	39	29	2	79	7	76	52	0	135	214
26	3	38	28	3	72	0	166	226	15	407	479

(14) 有害鳥獣捕獲実績

年度	獣類(頭)			鳥類(羽)					計
	イノシシ	その他	小計	カラス	ヒヨドリ	タイワンシロガシラ	その他	小計	
平成8年度	345	5	350	968	196	1,960	1,178	4,302	4,652
9	422	0	422	1,695	131	2,923	520	5,269	5,691
10	138	0	138	544	0	2,924	767	4,235	4,373
11	81	0	81	523	0	3,060	1,016	4,599	4,680
12	38	0	38	446	0	1,686	419	2,551	2,589
13	121	15	136	1,103	0	1,390	550	3,043	3,179
14	186	0	186	1,660	5	2,266	809	4,740	4,926
15	152	0	152	2,131	2	3,091	647	5,871	6,023
16	76	0	76	1,894	0	1,809	778	4,481	4,557
17	106	0	106	2,194	0	1,320	561	4,075	4,181
18	88	0	88	2,191	0	1,320	312	3,823	3,911
19	119	0	119	2,712	0	2,992	265	6,069	6,188
20	131	10	141	3,772	0	2,463	545	6,780	6,921
21	185	0	185	2,756	0	3,523	454	6,733	6,918
22	366	830	1,196	5,923	0	6,052	1,047	13,022	14,218
23	389	770	1,159	7,960	0	218	2,295	10,473	11,632
24	463	389	852	10,693	0	852	3,212	14,757	15,609
25	485	20	505	9,966	0	397	3,123	13,486	13,991
26	524	653	1,177	10,610	0	264	1,677	12,551	13,728

(15) オニヒトデの駆除実績

（単位:匹、千円）

年度	公園名、地区名	駆除箇所	駆除数	事業費	左の財源内訳		
					国庫支出金	県	市町村
H8	西表国立公園	石西礁湖	1,007	6,700	3,350	1,675	1,675
	沖縄海岸国定公園	恩納	81,220	3,200	1,600	800	800
		渡嘉敷	1,013	2,000	1,000	500	500
		座間味	5,397	2,500	1,250	625	625
9	西表国立公園	石西礁湖	3,249	6,700	3,350	1,675	1,675
	沖縄海岸国定公園	恩納	42,530	4,000	2,000	1,000	1,000
		渡嘉敷	895	1,660	830	415	415
		座間味	1,909	2,040	1,020	510	510
10	沖縄海岸国定公園	恩納	41,100	5,596	2,798	1,399	1,399
		渡嘉敷	1,046	2,881	1,441	720	720
		座間味	1,005	2,359	1,179	590	590
11	沖縄海岸国定公園	恩納	33,860	5,596	2,798	1,399	1,399
		渡嘉敷	938	2,881	1,441	720	720
		座間味	3,775	2,359	1,179	590	590
13	沖縄海岸国定公園	渡嘉敷	707	861	0	861	0
14	国頭	国頭村、東村	15,398	3,720	2,976	744	0
	恩納	恩納村	6,162	3,140	2,512	628	0
	読谷	読谷村	255	5,690	4,552	1,138	0
	南部	前島	7,960				
		チービシ	7,600				
	座間味	座間味島	11,126	10,360	―	―	0
		阿嘉島	10,728				
	渡嘉敷	渡嘉敷島	10,494	6,270	5,016	1,254	0
15	国頭	国頭村、東村	10,769	30,065	24,052	6,013	0
	恩納	恩納村	6,101				
	南部	前島、チービシ	8,256				
	座間味	座間味、阿嘉島	9,437				
	渡嘉敷	渡嘉敷島	4,390				
16	慶良間	座間味	5,954	29,984	23,987	5,997	0
		渡嘉敷	1,208				
	宮古	宮古群島	4,545				
	八重山	八重山群島	2,868				
17	慶良間	座間味	544	20,611	16,489	4,122	0
		渡嘉敷	5,998				
	宮古	宮古群島	7,847				
	八重山	八重山群島	1,645				
18	慶良間	渡嘉敷	283	9,343	7,474	1,869	0
	宮古	宮古群島	1,395				
	八重山	八重山群島	437				
21	恩納	恩納村	1,519	40,858	38,458	2,400	0
	宮古	宮古群島	7,985				
	八重山	八重山群島	60,509				
22	八重山	八重山群島	20,954	12,000	9,600	2,400	0
23	恩納	恩納村	4,593	64,078	32,939	30,539	600
	読谷	読谷村	300				
	宮古	宮古群島	27,607				
	八重山	八重山郡島	70,403				
24	恩納	恩納村	311	13,850	11,080	2,770	0
	宮古	宮古群島	15,353				
	八重山	八重山郡島	9,335				
25	恩納	恩納村	193	20,350	16,280	4,070	0
	慶良間	座間味	140				
	宮古	宮古群島	18,436				
	八重山	八重山郡島	2,627				
26	慶良間	座間味	104	15,999	12,799	3,200	0
		渡嘉敷	194				
	宮古	宮古群島	7,854				
	八重山	八重山郡島	364				

（16）本県の自然公園の概要

①西表石垣国立公園

西表石垣国立公園の区域は、西表島の中央部の原生林地域、石垣島の一部、西表島と石垣島の周辺離島及び周辺海域を合わせた 91,676 ヘクタール（陸域 21,958 ヘクタール、海域 69,718 ヘクタール）です。西表島山地部のイタジイ、タブ、オキナワウラジロガシ等に代表される亜熱帯照葉樹林と主要河川の塩沼地のマングローブ林は、我が国でも最も広く、しかも原始性にすぐれています。

また、我が国最大のサンゴ礁海域（石西礁湖）を擁するなど、海域景観にもすぐれた公園であり、竹富島タキドングチ・石西礁湖北礁海域公園をはじめとして 20 箇所の海域公園地区が指定されています。

②慶良間諸島国立公園

慶良間諸島国立公園は、平成 26 年3月５日（通称「サンゴの日」）に指定された、新しい自然公園です。慶良間諸島国立公園の区域は、慶良間諸島及びその周辺海域を合わせた 93,995 ヘクタール（陸域 3,520 ヘクタール、海域 90,475 ヘクタール）です。慶良間諸島は、多様なサンゴが生育する海、ザトウクジラの繁殖海域、透明度の高い慶良間ブルーの海、多島海の景観、サンゴ砂の白い砂浜、悠久の大地の歴史を刻む地形地質、多様な生きものがみられる亜熱帯生態系を有する地域であり、国立公園の新規指定としては、1987 年（昭和 62 年）の釧路湿原国立公園以来 27 年ぶりで、全国 31 番目の国立公園の誕生となりました。

③沖縄海岸国定公園

沖縄海岸国定公園は、読谷村残波岬から名護市世冨慶までの海岸沿いと、嵐山及び屋我地島を含めた羽地内海から辺戸岬までの海岸一帯、与那覇岳、名護岳を含めた区域、そして平成 18 年3月 28 日に区域拡張指定された本部町山里地区及び今帰仁村今泊地区を中心とする地域一帯を合わせた、19,352 ヘクタール（陸域 6,817 ヘクタール、海域 12,535 ヘクタール）の区域です。

沖縄特有の隆起石灰岩の海蝕崖とサンゴ礁の変化に富んだ海岸線は、常に水平線を望みながらのロードパークとも言えるものです。山岳地帯の与那覇岳一帯は、典型的な亜熱帯常緑広葉樹林を形成しており、ノグチゲラなど貴重な動物の生息地でもあります。また、本部町山里地区及び今帰仁村今泊地区を中心とする地域一帯には円錐カルストと呼ばれる特異な地形景観が広がっており、中国南部の桂林、フィリピンのボホール島、ベトナムのカオバンといった亜熱帯～熱帯地域によく発達している熱帯カルスト地形の一つとされ、円錐丘群と不規則な形をした溶食凹地群がまとまって分布する例は、我が国においてはこの地域をおいて他になく、極めて重要な地形として評価を受けております。

なお、昭和 53 年 12 月９日に区域編入された慶良間諸島及び周辺海域については、平成 26 年3月５日に新たに慶良間諸島国立公園に指定されています（国定公園からは削除）。

④沖縄戦跡国定公園

沖縄戦跡国定公園の区域は、糸満市摩文仁を中心とする糸満市、八重瀬町の一部及びこれらの地先海域を含めた 5,059 ヘクタール(陸域 3,127 ヘクタール、海域 1,932 ヘクタール)です。公園指定の趣旨は、第二次世界大戦における日米両国の激戦地として知られている本島南部の戦跡を保護することにより、戦争の悲惨さ、平和の尊さを認識し、20 万余りの戦没者の霊を慰めるとともに、延長 11 キロメートルにおよぶ雄大な海蝕崖景観の保護を目的に設けられた公園で、戦跡としての性格を有する国定公園としては我が国唯一のものです。

⑤久米島県立自然公園

久米島県立自然公園は、本県初の県立自然公園として久米島のほぼ全域とその周辺海域を含む 11,868 ヘクタール(陸域 6,125 ヘクタール、海域 5,743 ヘクタール)を区域として、昭和 58 年5月 30 日に指定されました。久米島は島の随所に優れた景勝地を擁するとともに、歴史的、文化的遺産や風土的景観にも恵まれ、島全体が自然度を高く保有し自然公園的な環境を備え持つ特徴的な島です。その自然的、社会的諸条件は多島県である本県を代表するに足る島嶼の一つであるということから県立自然公園に指定されています。

⑥伊良部県立自然公園

伊良部県立自然公園は、伊良部島と下地島のほぼ全域とその周辺海域を含む 5,739 ヘクタール(陸域 3,415 ヘクタール、海域 2,324 ヘクタール)を区域として、平成7年9月1日に指定されました。

両島は、隆起サンゴ礁の特徴的な地形である海蝕崖や岩礫で構成され、その規模は本県においても有数のものです。特に下地島には、県天然記念物に指定された「通り池」に代表されるような鍾乳洞が崩壊してできた大小の池が散在し、テリハクサトベラやアダンなどの隆起サンゴ礁植生が発達する優れた風景地となっています。また、伊良部島と下地島の間の入江は、多くの小湾からなり本県では類のない地形景観を示し、河口域以外でマングローブが生育する干潟としても特異な自然環境を形成しています。

⑦渡名喜県立自然公園

渡名喜県立自然公園は、渡名喜島のほぼ全域とその周辺海域を含む 1,602 ヘクタール（陸域 342 ヘクタール、海域 1,260 ヘクタール）を区域として、平成９年８月１日に指定されました。

渡名喜島は、古生代二畳期（約 2 億 5 千万年前）の千枚岩や石灰岩、その他の地層が分布しており、いたる所で奇岩が露出するダイナミックで独特な景観を有しています。特に島の東側の長さ 200m、高さ 80m におよぶ屏風のようにそそり立つ岩壁と高さ 179m の岩山（大岳）は、県内では類のない規模です。また、台風を避けるために道路より低く掘り下げられた屋敷や、集落から丘陵へかけてのツワブキ、カワラナデシコ、テリハノイバラ、キバナノヒメユリ等の植生など、優れた風景地となっています。琉球王朝時代の地割制度の農地が一部保存されていることも、重要な歴史的遺産となっています。

⑧多良間県立自然公園

多良間県立自然公園は、多良間島と水納島のほぼ全域とその周辺海域を含む 5,300 ヘクタール(陸域 2,153 ヘクタール、海域 3,147 ヘクタール)を平成 23 年3月 29 日に指定したものです。

陸域においては、貴重な抱護林や大木の繁る自然豊かな森と御嶽、自然井戸等が残されており、優れた自然景観と生物多様性豊かな自然環境を有しています。また、海域においては多良間島、水納島ともに多数の海洋生物が見られる健全なサンゴ礁が発達しています。

(17) 市町村別自然公園面積

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

公園名 (指定年月日)	市町村	陸域						海域			合計
		特別保護地区	第1種特別地域	第2種特別地域	第3種特別地域	普通地域	計	海域公園地区	普通地域	計	
西表石垣国立公園 (S47.5.15)	竹富町	1,786	18	9,135	0	3,994	14,933				
	石垣市	558	730	1,320	4,302	115	7,025				
	小計	2,344	748	10,455	4,302	4,109	21,958	13,743	55,975	69,718	91,676
慶良間諸島国立公園 (H26.3.5)	渡嘉敷村	77	142	131	1,389	153	1,892				
	座間味村	228	38	423	839	100	1,628				
	小計	305	180	554	2,228	253	3,520	8,290	82,185	90,475	93,995
沖縄海岸国定公園 (S47.5.15)	国頭村	328	32	856	502	459	2,177				
	大宜味村	3		216	16	125	360				
	今帰仁村	46	27	266	113	486	938				
	本部町	32	79	64	179	304	658				
	名護市			833	16	1,037	1,886	76			
	恩納村		34	359	38	287	718	50			
	読谷村			19		61	80				
	小計	409	172	2,613	864	2,759	6,817	126	12,409	12,535	19,352
沖縄戦跡国定公園 (S47.5.15)	糸満市	29	66	72	293	2,126	2,586				
	八重瀬町		18	72		451	541				
	小計	29	84	144	293	2,577	3,127	0	1,932	1,932	5,059
久米島県立自然公園 (S58.5.30)	久米島町	-	578	1,100	1,705	2,742	6,125	-	5,743	5,743	11,868
伊良部県立自然公園 (H7.9.1)	宮古島市	-	81	90	391	2,853	3,415	-	2,324	2,324	5,739
渡名喜県立自然公園 (H9.8.1)	渡名喜村	-	77	6	168	91	342	-	1,260	1,260	1,602
多良間県立自然公園 (H23.3.29)	多良間村	-	5	327	0	1,821	2,153	-	3,147	3,147	5,300
合計		3,087	1,925	15,289	9,951	17,205	47,457	22,159	164,975	187,134	234,591

(18) 自然公園施設等状況

（平成 27 年 3 月 31 日現在）

公園名	市町村名	園地名等	整備年度	サイト造園	休憩所		公衆トイレ 水洗		公衆トイレ 汲取		駐車場	歩道	車道	シャワー室		備考
				㎡	箇所	㎡	箇所	㎡	箇所	㎡	㎡	m	m	箇所	㎡	
西表石垣	竹富町															
国立公園		コンドイ園地	S51,63,H1	1,736	1	40	1	15			100			1	30	
		黒島桟橋園地	S52,H2,H21	2,030	~~1~~	~~30~~	1	18								
		~~小浜桟橋園地~~	~~S52~~	~~1,300~~	~~1~~	~~30~~			~~1~~	~~20~~						H18廃止
		浦内川自然研究路	S53									2,300				H24一部環境省へ
		大岳園地	S54,H13	890	1	20	1	20			30	1,000				
		南風見田園地	S55,H7	477	1	40										
		西表縦走線歩道	S56,61,H4,8,9		1	40			1	10						
		黒島園地	S52,60,H2,H11	830	1	20	1	13				590		1	18	
		小浜園地	S62		1	20	1	20				151				
		竹富島園地	S63,H4,6				1	42								
		小計		5,963	6	210	6	128	1	10	130	4,041	0	2	48	
	公園計			5,963	6	210	6	128	1	10	130	4,041	0	2	48	
慶良間諸島	座間味村	高月山園地	S54,H10	4,740	1	30	1	30			101	620				
国立公園		~~古座間味園地~~	~~S57~~	~~1,000~~	~~1~~	~~20~~			~~1~~	~~10~~						廃止
		チシ園地	S62,H19,H20	320	1	20	1	10	~~1~~	~~10~~						
		神の浜園地	H2,H20,H21	500	1	20			1	10		84				
		越原園地	H3	300	1	20			1	17	100	130				
		小計		5,860	4	90	2	40	2	27	201	834	0	0	0	
	渡嘉敷村	照山園地	S55,H14、H23	1,500	1	8	1	10	~~1~~	~~10~~		922				
		阿波連園地	H15・H16・H17	1,300	3	67	1	23			713	479				
		小計		2,800	4	75	2	33	0	0	713	1,401	0	0	0	
	公園計			8,660	8	165	4	73	2	27	914	2,235	0	0	0	
沖縄海岸	恩納村	真栄田岬園地	S48,61,H7		1	27	1	40						~~1~~	~~20~~	
国定公園	国頭村	辺戸岬園地	S56,H6,H18	1,360	1	30					2,188	414				
		茅打バンタ園地	S60,H12	1,000	1	20	1	36			1,500	147				
		小計		2,360	2	50	1	36	0	0	3,688	561	0	0	0	
	今帰仁村	運天森園地	S58		1	20						106				
		運天港園地	S59		1	20						312				
		小計		0	2	40	0	0	0	0	0	418	0	0	0	
	大宜味村	塩屋園地	S59		1	20						77				
	本部町	本部ふるさと歩道	H20,H21,H24									1,390				
	公園計			2,360	6	137	2	76	0	0	3,688	2,446	0	0	0	
沖縄戦跡	八重瀬町	具志頭園地	S56,63,H1,8,9,13		3	65	2	38			360	853	310			
国定公園	糸満市	喜屋武岬園地	H4		1	20	1	15			300					
		大度園地	H5,H20	915	1	30	1	16			574	141	55			
		小計		915	2	50	2	31	0	0	874	141	55	0	0	
	公園計			915	5	115	4	69	0	0	1,234	994	365	0	0	
久米島県立	久米島町	だるま山園地	S60,H1	10,617	3	95	1	23			1,360	551	1,342			
自然公園		五枝の松園地	H8,9	7,900	1	32	1	30			780	230	120			
		宇江城－仲村渠線歩道	H15	750	1	16	1	24			942	570				
		登武那覇園地	S59,H4	11,637	3	110	2	34			1,747	811	1,280	1	20	
	公園計			30,904	8	253	5	111	0	0	4,829	2,162	2,742	1	20	
伊良部県立	宮古島市	ｻﾊﾞｵｷ園地	H8,9	9,856	2	75	1	18			536		302			
自然公園		国仲休憩所	H12,H13、H21、H25		~~1~~	~~13~~						201				H25一部撤去
	公園計			9,856	2	75	1	18	0	0	536	201	302	0	0	
渡名喜県立	渡名喜村	渡名喜島園地	H12	516	1	24					254	96				
自然公園		西森園地	H17	59	1	77						516				
	公園計			575	2	101	0	0	0	0	254	612	0	0	0	
合計				59,233	37	1,056	22	475	3	37	11,585	12,691	3,409	3	68	

注：他に環境省直轄事業として整備した竹富島ビジターセンター、黒島ビジターセンター、西表野生生物保護センター、やんばる野生生物保護センター、漫湖水鳥湿地センターがある。

（19）自然公園区域における許認可などの状況

単位：件

公園名＼年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
沖縄海岸国定公園	37	37	36	28	61	53	37
沖縄戦跡国定公園	10	15	23	3	16	15	28
久米島県立自然公園	2	15	9	3	6	2	4
伊良部県立自然公園	1	1	3	4	4	2	4
渡名喜県立自然公園	0	0	0	0	0	0	0
多良間県立自然公園	－	－	－	1	0	1	0
計	50	68	71	39	87	73	73

（20）自然公園利用状況

単位：千人

公園名＼年次	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
西表石垣国立公園	1,877	1,639	1,574	1,400	1,584	1,994	2,270
西表石垣国立公園	－	－	－	－	－	－	202
沖縄海岸国定公園	7,961	7,646	7,810	7,459	7,795	8,258	8,774
沖縄戦跡国定公園	7,191	6,876	7,040	6,689	7,376	7,839	8,355
久米島県立自然公園	287	268	275	244	242	259	271
伊良部県立自然公園	104	135	86	99	95	115	118
渡名喜県立自然公園	10	10	9	9	12	12	8
多良間県立自然公園	－	－	－	9	12	12	13
計	17,430	16,574	16,794	15,909	17,116	18,489	20,011

11　共通的・基盤的施策関係

（１）環境影響評価の実施状況（その１）

（平成27年３月31日現在）

年度[1]	事　　業　　名[2]	実施主体	分 類[3]	根拠[4]	備考
昭和62	那覇新都心土地区画整理事業	地域振興整備公団	面整備	閣議	
平成２	都市計画道路1.3.1那覇空港自動車道	国	道路	閣議	
	久米島空港拡張整備事業	県	飛行場	自主	
平成３	中城湾港（新港地区）公有水面埋立（第２次）	国及び県	埋立	閣議	
平成５	南風原町津嘉山北地区土地区画整理事業	南風原町	面整備	規程	
	北大東空港施設変更事業	県	飛行場	規程	
平成６	中城湾港（新港地区）公有水面埋立（第３次）	国及び県	埋立	閣議	
	八重山リゾート開発	民間	レク施設	規程	
	糸満市南浜地先公有水面埋立事業	市土地開発公社	埋立	規程	
平成７	中城湾港（西原与那原地区）公有水面埋立事業	県	埋立	閣議	
	ムーンビーチワールド健康村開計画	民間	レク施設	規程	
	（仮称）中城ゴルフクラブ	民間	レク施設	規程	
	糸満市・豊見城村清掃施設組合ごみ焼却施設	施設組合	廃棄物処理施設	規程	
	沖縄製粉工場新設事業	民間	工場等	規程	
	浦添南第二土地区画整理事業	浦添市	面整備	規程	
	沖縄都市モノレール計画事業	県・那覇市	鉄道軌道	規程	
平成８	豊見城地先公有水面埋立事業	県土地開発公社	埋立	閣議	
平成９	（仮称）はいむるぶしゴルフ場開発計画	民間	レク施設	規程	
	（仮称）宮古島ｼｷﾞﾗﾋﾞｰﾁﾘｿﾞｰﾄ開発事業	民間	レク施設	規程	
	（仮称）宜野座カントリー開発計画	民間	レク施設	規程	
	古宇利大橋整備事業	県	その他	規程	
平成10	国道331号豊見城糸満バイパス建設事業	国	道路	閣議	
	一般国道58号名護東道路建設事業	国	道路	自主	
平成11	（仮称）ﾌﾞｾﾅｻｻﾞﾝﾋﾙﾘｿﾞｰﾄ開発計画	民間	レク施設	規程	
	新多良間空港整備事業	県	飛行場	規程	
	中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業	国及び県	埋立	法	乗移り[5]
平成12	一般国道329号沖縄バイパス建設事業	国	道路	法	方法書終了
	（仮称）琉球アネックス開発計画	民間	レク施設	規程	
	一般県道屋我地仲宗根線整備事業	県	道路	規程	
	ﾊﾟｰﾑﾋﾙｽﾞｺﾞﾙﾌﾘｿﾞｰﾄ9ﾎｰﾙ開発計画	民間	レク施設	規程	
	（仮称）サンプラザ石垣開発計画	民間	レク施設	条例	乗移り[5]
	大宜味村地先（塩屋湾外海）公有水面埋立事業	大宜味村	埋立	条例	乗移り[5]
	中部北環境施設組合ごみ処理施設建設事業	施設組合	廃棄物処理施設	条例	乗移り[5]
平成13	与那国空港拡張整備事業	県	飛行場	法	
	那覇市・南風原町ごみ処理施設整備事業	施設組合	廃棄物処理施設	条例	乗移り[5]
	儀間川総合開発事業	県	ダム	条例	
	米軍泡瀬ゴルフ場移設事業	国	ゴルフ場	条例	

平成14	ヤエネシア村開発計画	民間	レク施設	条例	
	北部訓練場ヘリコプター着陸帯移設事業(仮称)	国	ヘリ着陸帯	自主	
	ホワイトビーチ地区艦船し尿処理施設建設事業	国	し尿処理施設	条例	
	八重山リゾート開発計画	民間	ゴルフ場	条例	
	県営畑地帯総合整備事業西原地区	県	農用地改良	条例	
	ベルビーチゴルフクラブ９ホール建設工事	民間	ゴルフ場	条例	事業廃止[6]
	村道辺野喜楚洲線	県代行	道路	自主	
	伊良部大橋橋梁整備事業	県	道路	条例	
	吉の浦火力発電所[6]	民間	発電所	法	
	新石垣空港整備事業	県	空港	法	
	倉浜衛生施設組合ごみ処理施設整備事業	施設組合	廃棄物処理施設	条例	
平成15	（仮称）読谷ゴルフ倶楽部	民間	ゴルフ場	条例	
	吉の浦火力発電所[7]	民間	発電所	法	
平成16	普天間飛行場代替施設建設事業	国	飛行場	法	事業廃止[6]
平成17	沖縄科学技術大学院大学(仮称)整備事業	独立行政法人	大学の新設	自主	
	県道平和の道線(仮称)整備事業	県	道路	条例	
	産業廃棄物焼却溶融再資源化施設の整備事業	民間	廃棄物処理施設	条例	事業廃止[6]
	那覇港(浦添ふ頭地区)公有水面埋立事業	浦添市土地開発公社那覇港管理組合	埋立	条例	
平成19	主要地方道南風原知念線整備事業	県	道路	条例	
	産業廃棄物焼却溶融再資源化施設の整備事業	民間	廃棄物処理施設	条例	
	普天間飛行場代替施設建設事業	国	埋立	法	
	普天間飛行場代替施設建設事業	国	飛行場	条例	
平成20	伊平屋空港整備事業	県	飛行場	条例	評価書終了
	宮古島市ごみ処理施設整備事業	宮古島市	廃棄物処理施設	条例	
平成21	アワセゴルフ場跡地土地区画整理事業	北中城村	土地区画整理事業	条例	
平成22	那覇空港滑走路増設事業	国	飛行場埋立	法	
平成23	恩納通信所跡地リゾート計画	民間	レク施設	条例	
平成24	那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区公有水面埋立事業	浦添市土地開発公社那覇港管理組合	埋立	条例	方法書終了
平成26	（仮称）西普天間住宅土地区画整理事業	宜野湾市	土地区画整理事業	条例	配慮書終了

注1）年度は手続が開始された年度を示す。
2）網掛けされた事業は手続きが継続しているもの
3）分類　レク施設：レクリエーション施設
4）根拠　閣議：閣議決定「環境影響評価の実施について」（昭和59年８月28日～平成11年６月11日）
法　：環境影響評価法（平成11年６月12日～）
規程：沖縄県環境影響評価規程（平成５年２月１日～平成13年10月31日）
条例：沖縄県環境影響評価条例（平成13年11月１日～）
自主：環境影響評価法、沖縄県環境影響評価条例等の対象事業ではないが、事業者が自主的に環境影響評価の手続きを実施するもの
5）閣議決定に基づく手続きから法に基づく手続きへ移行した案件、又は規程に基づく手続きから条例に基づく手続きへ移行した案件
6）環境影響評価の手続の途中で、事業が行われないこととなった案件
7）平成14年度に方法書の手続きが行われたが、事業内容の変更に伴い平成15年度に方法書手続きが再度行われたため、同一案件として数えている。

（その２）－電源の立地に関する通産省通達－

実施年度	事　　業　　名	実施主体
昭和58年度	石川石炭火力発電所建設計画に伴う環境影響評価	電源開発（株）
平成２年度	具志川火力発電所建設に伴う環境影響評価	沖縄電力（株）
平成８年度	金武石炭火力発電所建設計画に伴う環境影響評価	沖縄電力（株）

（その３）-その他関係法令に基づくもの-　（平成26年度）

根拠法令等	公有水面埋立法	港 湾 法（港湾計画）	大規模小売店舗立地法[注)]
件　数	3	2	１４

注）店舗の新設及び変更の届出の際に騒音に関する予測・評価が行われる

（２）公害苦情の受付状況等

表1　被害の種類別苦情件数（平成26年度）

	健康	財産	動植物	感覚的心理的	その他	合計
件数	50	37	3	537	184	811
構成比(%)	6.2%	4.6%	0.4%	66.2%	22.7%	100.0%

表2　被害の用途地域別苦情件数（平成26年度）

	総数	都市計画法による都市計画区域									都市計画区域以外の区域
		計	住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	工業専用地域	市街化調整区域	その他	
苦情件数	811	689	503	22	56	13	8	3	62	22	122
構成比(%)	100	85.0%	62.0%	2.7%	6.9%	1.6%	1.0%	0.4%	7.6%	2.7%	15.0%

表3　公害苦情の処理状況

年度	処理件数		
	合計	新規受付件数	前年度からの繰越
H22	947	938	9
H23	1,170	1,163	7
H24	1,097	1,096	1
H25	943	940	3
H26	813	811	2

表4　機関別種類別新規受理件数（平成26年度）

市町村名＼種類		総　計	典　型　7　公　害								その他
			小　計	大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	
1	那 覇 市	129	117	9	9	0	39	0	0	60	12
2	宜野湾市	26	25	2	1	0	11	0	0	11	1
3	石 垣 市	4	4	0	0	0	1	0	0	3	0
4	浦 添 市	46	45	6	0	0	21	0	0	18	1
5	名 護 市	17	0	0	0	0	0	0	0	0	17
6	糸 満 市	16	16	4	0	0	2	0	0	10	0
7	沖 縄 市	33	25	0	1	0	9	0	0	15	8
8	豊見城市	69	69	11	9	1	10	0	0	38	0
9	うるま市	115	104	5	6	1	10	0	1	81	11
10	宮古島市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	南 城 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(11市)		455	405	37	26	2	103	0	1	236	50
12	本 部 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	金 武 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	嘉手納町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	北 谷 町	93	0	0	0	0	0	0	0	0	93
16	西 原 町	11	9	0	2	0	5	0	0	2	2
17	与那原町	111	10	2	0	0	3	0	0	5	101
18	南風原町	68	31	14	3	0	4	0	0	10	37
19	久米島町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	八重瀬町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	竹 富 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	与那国町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(11町)		283	50	16	5	0	12	0	0	17	233
23	国 頭 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	大宜味村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	東　　村	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
26	今帰仁村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	恩 納 村	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10
28	宜野座村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29	伊 江 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	読 谷 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31	北中城村	7	4	2	1	0	0	0	0	1	3
32	中 城 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	渡嘉敷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	座間味村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
35	粟 国 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
36	渡名喜村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
37	南大東村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38	北大東村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	伊平屋村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40	伊是名村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	多良間村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計(19村)		18	5	2	2	0	0	0	0	1	13
市町村合計		756	460	55	33	2	115	0	1	254	296
県の機関		55	40	5	18	0	0	0	0	17	15
合　　計		811	500	60	51	2	115	0	1	271	311

（３）沖縄県公害審査会に係属した事件一覧

受　理 年月日	事　件　名	請求の概要及び終結の内容	終結年月日 終結区分
昭和49年 ２月19日	採砂による漁業被害損害賠償請求事件（調停）	沖縄市泡瀬地先沖において砂を採取したことによって、騒音、水質汚濁等により漁獲高が減少したため損害賠償せよというもの。被申請者（土砂採取業者）が解決金（百万円）を支払うこととし調停成立。	昭和50年12月20日 調停成立
昭和61年 １月27日	冷房機及びその設置作動の禁止等請求事件（調停）	共同住宅の建物屋上に設置された冷房機からの騒音・振動被害のため冷房機の作動禁止、消音対策、または移転費用の補償を求めるというもの。冷房機の設置者は騒音防止対策を講じたが、申請人が納得せず調停不成立 。	昭和61年11月28日 調停打ち切り
平成９年 ４月８日	許田漁港における赤土等土砂流出による漁業被害賠償請求事件（調停）	ゴルフ場造成工事現場から赤土等が流出し、漁港内の養殖魚が大量にへい死したため損害賠償せよというもの。　県水産試験場の検査によると死因は白点病であり赤土との因果関係は不明とのこと。申請人が調停申請を取り下げたため事件終了。	平成10年９月14日 調停取り下げ
平成10年 ９月16日	石川市在のごみ焼却施設操業差し止め請求事件（調停）	石川市在のごみ焼却場は老朽化しており、同焼却場から排出される煤煙等に有害物質等が含まれているため、根本的な対策が講じられるまで操業を中止すべきであるというもの。当該工場の改修等を含む10項目からなる調停条項により調停成立。	平成11年８月４日 調停成立
平成15年 ３月19日	平良市産業廃棄物現状回復等事件(調停)	平良市の産業廃棄物処分場において発生した火災事故により重篤な健康被害を受けたとして、住民が県及び業者に対して本件処分場の原状回復や実体解明等を求めたもの。５回にわたって調停期日を開催したが、合意の成立する見込みがないと判断されたため、調停を打ち切った。	平成16年５月19日 調停打ち切り
平成16年 ２月３日	普天間代替施設建設差し止め等請求事件（調停）	辺野古沖への普天間飛行場代替施設建設に伴い将来公害が発生する恐れがあるとして、防衛施設庁や県を相手方に建設事業の差し止め等を求めたもの。本件申請は調停手続の対象外であり不適法な申請であるとの理由により却下となった。	平成16年３月30日 却下
平成17年 11月７日	ごみ処分場土壌汚染等被害防止等請求事件（調停）	金武町在の旧ごみ処分場の安全対策をせずに、新たに計画している一般廃棄物最終処分場建設を認められないとして、周辺住民が旧ごみ処分場埋設物の無害化措置の実施、新規最終処分場建設事業計画の見直し、協議会の設置等を求めたもの。技術対策検討委員会の設置等３項目からなる調停条項により、調停成立。	平成19年３月29日 調停成立
平成18年 12月21日	ホテル騒音等被害防止請求事件（調停）	ホテルの排気口から発生する騒音、悪臭、通行車両の騒音、プライバシーの侵害、通風障害、日照障害等の生活被害を受けているとして、隣接する住居の住民がホテルに対して対策を求めたもの。５回にわたって調停期日を開催したが、合意の成立する見込みがないと判断されたため、調停を打ち切った。	平成20年７月31日 調停打ち切り
平成21年 ２月９日	ペット火葬場悪臭・騒音等被害防止等請求事件（調停）	那覇市在のペット火葬場から発生する悪臭、騒音により被害を受けていることから、当該施設の事業活動の停止と建物の移転を求めたもの。３回にわたって調停期日を開催したが、合意の成立する見込みがないと判断されたため、調停を打ち切った。	平成21年９月15日 調停打ち切り
平成23年 １月12日	海中公園建設に伴う水中汚濁等被害防止請求事件（調停）	宮古島市での海中公園建設工事で水質汚濁が発生し、サンゴ群体の死滅等の被害を生じさせたとして、その対策措置等を求めたもの。今後の工事において水質汚濁防止を実施する等２項目からなる調停条項により、調停成立。	平成23年９月12日 調停成立
平成23年 ６月19日	食品スーパーマーケット騒音等に関する被害防止請求事件（調停）	浦添市在の食品スーパーマーケットから発生する騒音、悪臭により被害を受けているとして、隣接する住居の住民がその対策措置等を求めたもの。申請人住居に防音サッシを設置する等７項目からなる調停条項により、調停成立。	平成24年12月17日 調停成立
平成23年 ８月15日	浄化槽汚水等被害防止請求事件（調停）	那覇市内の傾斜地にある住宅地において、傾斜地上方にあるアパートの浄化槽から漏出した汚水等が、傾斜地下方に隣接する申請人宅の擁壁から流入しており、庭に汚水及び汚泥が堆積しており、その対策措置等を求めたもの。被申請人が汚水及び汚泥を撤去する等４項目からなる調停条項により、調停成立。	平成24年５月７日 調停成立

平成25年 ６月15日	自動車修理工場騒音・悪臭等に関する被害防止請求事件（調停）	沖縄市在の自動車修理工場（※都市計画上の用途制限により自動車修理工場が営業できない地域）から発生する騒音、悪臭による健康被害及び台風時に当該工場のガレージが吹き飛ばされ家屋等に損害を生じたとして、周辺住民が当該修理工場の移転、事業活動の制限及び管理体制の強化等対応を求めたもの。 被申請人工場の土地の賃貸借契約期間については、平成33年７月31日までとし、以後の更新は行わない等２項目からなる調停条項により、調停成立。	平成26年12月１日 調停成立
平成26年 ７月18日	国道改築工事（中山改良）及び道路建設中止請求事件(調停)	南城市玉城字中山地内の国道工事から発生する騒音により申請人が営む鶏舎の鶏に健康被害が生じ重度のものは死に至る等、申請人の経済活動を著しく妨害したとして、工事及び道路設置の中止を求めたもの。 調停期日を１回開催したが、合意の成立する見込みがないと判断されたため、調停を打ち切った。	平成26年10月24日 調停打ち切り

12　用語の解説

【あ】

アオコ（青粉）

富栄養化が進行した湖や池で、藍藻と呼ばれる種類の植物プランクトンが異常に繁殖し、水面に青緑色の粉を撒いたように見える現象のことです。アオコが発生すると、透明度が低下し、カビ臭を発したりするほか、有害な化学物質が作られることもあります。また、水中の溶存酸素が奪われるため、水生生物や魚類が死亡し、水産や観光上の被害をもたらすこともあります。

赤潮

プランクトンの異常増殖により海水が変色する現象のことです。有害プランクトンの発生や一時的に酸素消費量が増大することによる酸素欠乏のため、魚介類のへい死など漁業被害を伴うこともあります。発生のメカニズムは完全に究明されていませんが、水中の窒素、燐等の栄養塩類濃度、自然条件の諸要因が相互に関連して発生すると考えられています。

赤土等

沖縄県に分布するすべての土壌、これらに類する土壌母岩及びその砕屑物をいいます。主に国頭マージ、島尻マージ、ジャーガル及び沖積土壌の4種類からなり、これらが県全土に占める割合は、国頭マージ 55.1 %、島尻マージ 27.4 %、ジャーガル 8.0 %、その他 9.5 %となっています。

悪臭物質

悪臭防止法では、不快なにおいの原因となり、生活環境を損なうおそれのある物質として次の 22 物質を「特定悪臭物質」と定め、規制しています。

アンモニア ［NH_3］
　し尿のようなにおい

メチルメルカプタン ［CH_3SH］
　腐った玉ねぎのようなにおい

硫化水素 ［H_2S］
　腐った卵のようなにおい

硫化メチル［$(CH_3)_2S$］
　腐ったキャベツのようなにおい

二硫化メチル ［CH_3SSCH_3］
　腐ったキャベツのようなにおい

トリメチルアミン ［$(CH_3)_3N$］
　腐った魚のようなにおい

アセトアルデヒド ［CH_3CHO］
　刺激的な青ぐさいにおい

プロピオンアルデヒド ［CH_3CH_2CHO］
刺激的な甘酸っぱい焦げたにおい

ノルマルブチルアルデヒド ［$CH_3(CH)_2CHO$］
　刺激的な甘酸っぱい焦げたにおい

イソブチルアルデヒド ［$(CH_3)_2CHCHO$］
　刺激的な甘酸っぱい焦げたにおい

ノルマルバレルアルデヒド ［$CH_3(CH_2)_3CHO$］
　むせるような甘酸っぱい焦げたにおい

イソバレルアルデヒド ［$(CH_3)_2CHCH_2CHO$］
　むせるような甘酸っぱい焦げたにおい

イソブタノール ［$(CH_3)_2CHCH_2OH$］
　刺激的な発酵したにおい

酢酸エチル ［$CH_3CO_2C_2H_5$］
　刺激的なシンナーのようなにおい

メチルイソブチルケトン ［$CH_3COCH_2CH(CH_3)_2$］
刺激的なシンナーのようなにおい

トルエン ［$C_6H_5CH_3$］
　ガソリンのようなにおい

スチレン ［$C_6H_5CH{=}CH_2$］
　都市ガスのようなにおい

キシレン ［$C_6H_4(CH_3)_2$］
　ガソリンのようなにおい

プロピオン酸 ［CH_3CH_2COOH］
　刺激的な酸っぱいにおい

ノルマル酪酸 ［$CH_3(CH_2)_2COOH$］
　汗くさいにおい

ノルマル吉草酸 ［$CH_3(CH_2)_3COOH$］
　むれた靴下のようなにおい

イソ吉草酸 ［$(CH_3)_2CHH_2COOH$］
　むれた靴下のようなにおい

アスベスト（石綿）（Asbestos）

蛇紋岩や角せん石に含まれる極細の鉱物繊維です。熱や磨耗に強いため、フロアタイル等の建材、蒸気パイプの被覆、自動車のブレーキライニング、ビルの天井への吹き付けなどに使用されてきましたが、発がん性（肺がん）などの健康影響を有することから、その製造・使用が原則禁止されています。大気汚染防止法では、「特定粉じん」として、特定粉じんを発生する施設については規制基準が設定されています。また、吹きつけ石綿など特定建築材料が使用された建築物及び工作物の解体等に係る作業について、知事への届出や作業基準の遵守が義務づけられています。

アメニティ（amenity）

豊かな緑、さわやかな空気、静けさ、清らかな水辺、美しい町並み、歴史的な雰囲気など、身の回りのトータルな環境の快適さのこと。快適環境と訳されます。

アルキル水銀化合物（alkylmercuric compound）

有機水銀の一つで、この中に含まれているメチル、エチル水銀は人間の神経をおかします。「水俣病」の原因物質とされており、アルキル水銀による中毒症状は、知覚、聴力、言語障害、視野の狭窄、手足のまひなどの中枢神経障害を起こし死亡する場合もあります。排水基準では「検出されないこと」となっています。主な発生源は化学工場、乾電池製造業等です。

暗騒音

航空機や送風機など特定の発生源を対象とした騒音の測定を行うとき、測定地点で測定される対象とした発生源（航空機や送風機など）からの騒音以外のすべての騒音のことです。

言い換えると、対象とする発生源からの騒音がない場合の測定地点における騒音レベルです。従って、航空機騒音の場合は、航空機が飛行していないときにおける騒音レベルを示します。

【い】

硫黄酸化物（SOx）

大気汚染物質としての硫黄酸化物は、二酸化硫黄、三酸化硫黄及び三酸化硫黄が大気中の水分と結合して生じる硫酸ミストを含めたものをいいます。石油や石炭などの化石燃料を燃焼するとき、あるいは黄鉄鉱や黄銅鉱のような硫化物鉱物を培焼するときに排出され、水と反応すると強い酸性を示すため、酸性雨の原因になります。日本では、硫黄酸化物による大気汚染問題は、高煙突、重油脱硫技術、排煙脱硫技術、天然ガスなどへの燃料転換等の普及により沈静化していますが、途上国を中心に、依然、深刻な問題となっています。

二酸化硫黄の環境基準は「1時間値の 1 日平均が 0.04ppm 以下であり、かつ1時間値が 0.1ppm 以下」であることとなっています

１時間値（大気汚染）

測定している物質の1時間の平均濃度です。

１日平均値（大気汚染）

1日 24 時間の測定結果（ 24 個の1時間値）の平均値です。ただし、1時間値のうち、欠側が4時間を超える時は、1日平均値に係る集計から除外しています。

一酸化炭素（CO）

一般には、燃料等の不完全燃焼によって発生しますが、都市における最大の発生源は、自動車の排出ガスです。一酸化炭素は、血液中のヘモグロビンと結合して、酸素運搬機能を阻害します。環境基準は、「1時間値の1日平均値が 10ppm 以下であり、かつ1時間値の8時間平均値が 20ppm 以下」とされています。

一酸化窒素（NO）

→「窒素酸化物」の項を参照

移動発生源と固定発生源

大気汚染物の発生源は、固定発生源と移動発生源に分類されます。固定発生源としては工場又は事業場のボイラーや焼却炉等があり、移動発生源としては自動車、船舶及び航空機等があります。

【う】

上乗せ基準

ばい煙又は排出水の排出の規制に関して環境省令で定める全国一律の排出基準又は排水基準にかえて適用するものとして、都道府県が条例で定めたより厳しい排出基準又は排水基準を言います。

【え】

栄養塩類

植物プランクトンや海藻が増殖するために必要な物質で、けい素、りん、窒素等の塩類の総称です。

SS（Suspended Solid）

→「浮遊物質量」の項を参照

SPSS（ Content of Suspended Particles in Sea Sediment）

懸濁物質含量。底質に含まれるシルト状微粒子量のことで赤土等堆積の目安になります。

SPM（Suspended Particulate Matter）

→「浮遊粒子状物質」の項を参照

【お】

オゾン・オゾン層

オゾン(O_3)は、空気又は酸素中で放電するときに生じ、紫外線の照射、雷の放電などによって生成されます。酸化性の強い、臭気のある気体で、人体や植物に有害な光化学スモッグの原因となるオキシダントの主成分であるとされています。地表から 15 ～ 50 キロメートルの上空には、オゾンが高濃度に存在する層があり、太陽から来る有害紫外線を遮断し、地表の生物を保護する大切な役割を果たしています。

近年、極地上空のオゾン濃度が急激に減少していることが観測され、オゾン層を保護するため、特定フロン等の使用を削減する国際的な条件（ウィーン条約）が締結されています。

汚濁負荷量

河川や海域の水質を汚濁する物質の総量をいい、汚濁負荷量＝濃度×水量によって計算されます。代表的な指標として BOD 、COD があります。

汚泥

工場排水等の処理後に残るでい状のもの、及び各種製造業の製造過程において生ずる泥状のものであって、有機性及び無機性のものすべてを含むものです。

音圧レベル

人間の耳に聞こえる音の大小を物理量で表す場合、その範囲は最小可聴音から最大可聴音まで 10^{12} 倍程度の広い範囲に及び、使用するのに不便なので対数で表すようにしたのが音圧レベルです。ある音の音圧レベルは、その音圧と基準音圧（ 0dB ）との

比の常用対数の 10 倍をとり、(dB)(デシベル)で示します。

温室効果

大気による地表面の保温効果のことです。太陽から流入する日射を吸収して加熱された地表面は赤外線の熱放射をしますが、大気中には赤外線を吸収する「温室効果ガス」と言われるガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素等)があり、地表面からの熱をいったん吸収してしまいます。温室効果ガスを含む大気によって吸収された熱の一部は地表面に下向きに放射されて加熱するため、地表面はより高い温度となります。この効果を「温室効果」といいます。

温室効果は、二酸化炭素を1とすればメタンで約21 、フロンで約1万といわれ、異常気象の頻発を始め地球環境へ様々な深刻な影響をもたらすことが懸念されており、温室効果ガスの排出削減が国際的な課題となっています。

【か】

COD(化学的酸素要求量、Chemical Oxygen Demand)

COD とは、海水中における有機物による汚濁の程度を示すもので、水の中に含まれている有機物質が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量(通常 mg/l で表わす)をいい、数値が高いほど有機物の量が多く、汚れが大きいことを示しています。

環境

一般的に、大気、水、土壌等の環境の自然的構成要素やそれらにより構成される自然環境、生活環境のことを言いますが、「環境」といった用語は、そもそも包括的な概念を指すもので、その範囲がはっきりしない面もあります。「環境基本法」の対象とする「環境」の範囲についても、環境政策に関する社会的ニーズや国民的意識の変化に伴って変遷していくものと考えられております。環境基本法においては、「環境」又は「環境の保全」は特に定義されていません。

環境影響評価(環境アセスメント)

規模が大きく環境影響の程度が著しいものとなるおそれがある事業の実施に当たりあらかじめ事業者自らが、当該事業の実施が環境に及ぼす影響について調査、予測及び評価を行い、環境保全措置を検討し、この措置が講じられた場合における環境影響を総合的に評価することをいいます。

環境影響評価準備書

準備書は、事業者が、方法書に対する意見を勘案・配意して環境影響評価の項目・手法を選定し、環境影響評価を実施した後、この環境影響評価の結果について環境保全の見地からの意見を聴くための準備として作成する文書です。

環境影響評価その他の手続

環境影響評価は、「事業の実施に当たりあらかじめ、その事業の実施に係る環境への影響について、自ら適正に調査、予測及び評価を行い、環境保全措置を検討する」という事業者内部において行われる行為を指しますが、「環境影響評価その他の手続」とは、環境影響評価が適切かつ円滑に行われるための、方法書、準備書、評価書といった手続のことを言います。環境影響評価法や沖縄県環境影響評価条例においては、事業者外部の住民等(環境保全の見地から意見を有する者)の意見を聴く手続や、環境影響評価の結果を許認可等へ反映させる手続を定めておりますが、こうした手続は、「その他の手続」に該当するものです。

環境影響評価方法書

方法書は、事業者が環境影響評価を行うに当たって、環境影響評価の項目、調査・予測・評価の方法の案について、環境保全の見地からの意見を求めるために作成する文書です。

環境影響評価書

評価書は、準備書についての意見を勘案・配意して準備書について必要な修正を加え、事業者自らが実施した環境影響評価の結果を取りまとめた文書です。

環境基準

人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として濃度や大きさなどの数値で定められるものです。大気汚染、水質汚濁、地下水、土壌汚染及び騒音について環境基準が定められています。ただし、環境施策に係る行政上の目標として定められているものであり、公害発生源を直接規制するための基準(規制基準)とは異なります。

環境保全型自然体験活動

その参加者が、地域の自然環境について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該地域の自然環境の保全について配慮しつつ当該地域の自然と触れ合い、これに対する理解を深めるための活動のことです。

環境マネジメントシステム

事業者が、法令等の遵守に留まらず、環境保全のために自主的・積極的に行動を取るための仕組みです。その一つである ISO14000 シリーズは、国際統一規格としての環境マネジメント規格で、環境保全に関する方針、目標、計画等を自ら設定し、これらを実行、記録、点検して方針を見直すという一連の手続きを行い、目標達成に向けて取り組んでいくものです。環境負荷の低減に留まらず、省資源・省エネルギーを通じた経費削減、企業内部の管理体制の効率化に繋がるとも言われています。環境管理の有効な手段として多くの企業が環境マネジメントシステムを活用しています。

環境容量

一般的には環境汚染物質の収容力を指し、その環境を損なうことなく、受け入れることのできる人間の活動または汚染物質の量を表します。環境基準などを設定した上で、許容される排出総量を与えるものと、自然の浄化能力の限界量から考えるものがあります。

環境ラベル

製品やサービスの環境側面について、製品や包装ラベル、製品説明書、技術報告、広告、広報などに書かれた文言、シンボル又は図形・図表を通じて購入者に伝達するものを、幅広く指す用語です。代表例としては、文房具や印刷用紙など様々な商品に使用されているエコマーク、古紙の再生利用商品に表示されているグリーンマーク、自動車の排出ガス低減レベルを示す低排出ガス車ステッカー等が挙げられます。

エコマーク

グリーンマーク

再生紙使用マーク

低排出ガス車ステッカー

【き】

規制基準

工場又は事業所から排出される汚染物質や発生する騒音等について許容限度を定めた基準であり、この数値は、人体に影響を及ぼす限界あるいは農作物などに影響を及ぼす限界などを考慮して定められ、具体的な数値は、各規制法令に定められています。

近隣騒音

生活を通して発生する多種多様な音が騒音として問題になるケースの騒音をいいます。具体的には、商業宣伝の拡声器の音、飲食店での営業騒音、家庭でのピアノ、テレビ、エアコンの音、ペットの鳴き声、学校・幼稚園での騒ぎ声などを指します。近隣騒音の特徴は、音量は小さく限られた近隣生活者間の問題として現われること、誰しも場合によっては被害者のみならず加害者になる可能性があること、もともと主観的な要素が絡む騒音の中で、特にその要素が一層強く出ること等があげられます。

揮発性有機化合物（VOC）

大気汚染防止法では「大気中に排出され、又は飛散したときに気体である有機化合物（浮遊粒子状物質及びオキシダントの生成の原因とならない物質として政令で定めるものを除く。）」と定義されており、同法に基づく揮発性有機化合物排出施設に対して揮発性有機化合物の排出基準が定められている。

【く】

クチャ

ジャーガルの母岩。乾湿を繰り返すことにより風化が進み、細粒化して流出します。他の土壌よりも流出が顕著で、濁水となって流出する時の濃度も高くなっています。

国頭マージ

千枚岩、片岩、砂岩、珪岩、安山岩、花崗岩、結晶性石灰岩、国頭れき層など種々の母岩を持ちます。色は赤色～黄色で、一般的に強酸性を示します。粗粒質から細粒質まであり、下層土は緻密で透水性、通気性が悪くなっています。傾斜地に広く分布し、侵食を受けやすい受食性土壌です。一般的に赤土とは国頭マージのことを指します。

グリーン購入

製品やサービスを購入する際には、購入の必要性を十分に考慮し、品質や価格だけでなく環境のことを考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入することを言います。

国においては、平成 12 年5月に制定された「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律（通称グリーン購入法）」において、グリーン購入への取組が義務づけられています。

また、地方自治体においてはグリーン購入に積極的に取り組むよう努力義務が課せられたことから、本県においては平成 14 年3月に「沖縄県グリーン購入調達方針」を策定し、県の各機関におけるグリーン購入の推進に取り組んでいます。

【け】

健康項目

人の健康の保護に関する項目で有害物質を示すものであり、水質については次の 26 項目が挙げられます。

カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、 PCB 、ジクロロメタン、四塩化炭素、 1,2 －ジクロロエタン、 1,1 －ジクロロエチレン、シス－ 1,2 －ジクロロエチレン、 1,1,1 －トリクロロエタン、 1,1,2 －トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、 1,3 －ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素。

【こ】

公害防止管理者

「特定工場における公害防止組織の整備に関する法律」に定められた特定工場において、公害の防止に関する業務のうち技術的事項を管理する者をいい

ます。特定工場を設置している者は、ばい煙発生施設、汚水等排出施設、騒音発生施設、粉じん発生施設、振動発生施設及びダイオキシン類発生施設の区分ごとに、それぞれ異なる種類の公害防止管理者を選任しなければなりません。資格としては国家試験に合格するか、国の資格認定講習の課程を修了する必要があります。

なお、排出ガス量が毎時4万以上かつ排出水量が1日当たり1万以上の特定工場には公害防止主任管理者を選任するものとされています。また、資格の要件はありませんが、常時使用する従業人が 21 人以上の特定工場には公害防止総括者の選任が義務づけられています。

光化学オキシダント

大気中の窒素酸化物や炭化水素等が強い紫外線等により光化学反応を起こして二次的に生成される、オゾン、アルデヒド、 PAN 類(パーオキシアセチルナイトレイト＝ RCO_3NO_2)などの刺激性を有する物質の総称です。光化学オキシダントの発生は、気温や風速、日射量などの気象条件の影響を受け、夏期の風の弱い日差しの強い日に高濃度で発生しやすい。粘膜を刺激する性質を持ち、光化学オキシダントの高濃度汚染や視程の低下を招く粒子状物質(エアロゾル)を生成するような状態のことを「光化学スモッグ」と呼びます。

環境基準は「 1 時間値が 0.06ppm 以下」であることとなっています。

降下ばいじん

大気中に排出されたばいじんや風により地表から舞い上がった粉じんなどのうち、比較的粒径が大きく重いために大気中で浮かんでいられずに落下(降下)するもの、あるいは雨や雪などに取り込まれて降下するものをいい、その量は $t／km^2$・月で表されます。

公害防止協定

地方公共団体と企業、住民団体と企業などの間で、公害防止のために必要な措置を取り決める協定のことをいいます。地域の特殊性に応じた有効な公害規制を弾力的に実施するのに適するため、法律や条例の規制と並ぶ有力な公害防止上の手段として広く利用されています。

固定発生源

→「移動発生源」の項を参照

公共用水域

水質汚濁防止法では、「公共用水域とは河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝きょ、かんがい用水路その他公共の用に供される水路(「下水道法」第2条第3号及び第4号に規定する公共下水道及び流域下水道にあって、同条第6号に規定する終末処理場を設置しているもの(その流域下水道に接続する公共下水道を含む。)を除く。)をいう。」と定義されています。

コンポスト化

下水汚泥、ごみ、家畜ふん尿、木屑などの有機物を微生物により発酵させ堆肥化し、肥料や土壌改良材として農業用に再生利用することをいいます。

【さ】

最終処分場

一般廃棄物及び産業廃棄物を埋立処理するために必要な場所及び施設・設備の総体をいいます。産業廃棄物最終処分場には、安定型(廃プラスチック等)、管理型(汚でい等)、しゃ断型(有機物質を埋立基準以上含む廃棄物)があります。

再生紙

製紙原料に古紙を配合した紙。急増する紙ごみの減量化や森林資源の保護のため、近年、企業や官庁におけるコピー用紙や出版物への利用が増加しています。本県でもコピー用紙等への再生紙利用を図っています。

サスティナブル・ディベロップメント(Sustainable Development)

わが国では「持続可能な開発」と訳されています。1987 年4月に公表された WCED (環境と開発に関する世界委員会)の報告書「 Our Common Future 」の中心的考え方として取り上げられ、環境と開発とを相反するものとしてではなく互いに依存するものとしてとらえ、環境を保全してこそ将来にわたっての開発を実現できるとの考え方は広く世界の支持を得ています。

産業廃棄物

産業廃棄物とは、事業活動に伴って生じる廃棄物のうち、廃棄物処理法で指定された燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、鉱さい、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん等の 20 種類をいいます。産業廃棄物以外の廃棄物を一般廃棄物といい、家庭ごみやし尿も含まれます。

酸性雨

化石燃料などの燃焼により大気中に放出された硫黄酸化物や窒素酸化物などから生成した硫酸や硝酸が溶解した酸性の強い(pH5.6 以下の)雨や雪、霧(湿性沈着)のほか、地上に降下する酸性の粒子状物質やガス状の酸(乾性沈着)も含めて酸性雨と呼んでいます。

【し】

COD (化学的酸素要求量、Chemical Oxygen Demand)

→「化学的酸素要求量」の項を参照

島尻マージ

琉球石灰岩を母岩とし、黄褐色～暗褐色で一般的に弱アルカリ性を示します。細粒質の重粘土で透水性は高くなっています。平坦地に分布し、侵食性の低い耐食性土壌です。土層厚は変化に富み、浅い部分ではれき質で基岩の露出するところがあります。

シミュレーション（Simulation）

模擬実験のこと。社会現象のテスト、自然現象の観察、工業団地の計画など、実際には自由に試してみることのできないことを、実際とよく似たモデルを作り、コンピューター等を使って実験してみることです。

自動車排出ガス

自動車の運行に伴い発生するガスで、人の健康や生活環境の汚染に関わる物質として、一酸化炭素、炭化水素類、窒素酸化物及び粒子状物質などがあります。近年では、自動車排出ガスが主要な大気汚染源となっています。

ジャーガル

島尻層群の泥岩（クチャ）を母岩とし、黄緑褐色～灰色で、アルカリ性を示します。細粒質の重粘性土壌で、透水性は著しく低くなっています。緩傾斜地から平坦地に分布し、傾斜地では地滑りや崖崩を受けやすい性質があります。乾燥した表土は雨に流されやすく、高濃度の濁水の発生源となっています。

重金属

比重 4.0 以上の金属をいい、水銀、カドミウム、銅、鉛、クロム等生体に入ると微量でも有害なものが多くあります。

浄化槽（＝合併処理浄化槽）

便所と連結してし尿と生活雑排水（台所や風呂等からの排水）を併せて処理して放流するための設備・施設であって、下水道、し尿処理施設以外のものをいいます。

従来、し尿のみを処理する「単独処理浄化槽」についても浄化槽の定義に含めてましたが、浄化槽法の改正（平成 12 年6月改正[平成 13 年4月施行]）により、浄化槽の定義を変更し、「合併処理浄化槽」のみを指すものとしました。

浄化槽法改正以前に設置された「単独処理浄化槽」については、浄化槽のみなし施設・設備として従来どおり浄化槽法の適用対象としています。

【す】

水域類型

水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の保全に関する環境基準については、河川、湖沼、海域別に利水目的に応じた水域を区切って AA 、A 、B 等の類型を設けています。pH 、BOD 等の項目について、それぞれの水域類型ごとに環境基準値を定め、各公共用水域に水域類型のあてはめを行うことにより当該水域の環境基準値が具体的に示されます。

水銀（Hg）

常温で液体の唯一の金属です。湿った空気中で酸化物になりやすく、有毒で一般粉じん中 0.1mg/m^3 が限度です。神経系をおかし、手足のふるえを起こしたり言語障害、食欲不振、聴力視力の減退をもたらします。

なお、水銀化合物の種類は多く、生体に対する作用のうえからは、無機水銀と有機水銀に大別されます。無機水銀化合物には金属水銀並びに塩化第二水銀が主なものであり、その他、硫化水銀、酸化水銀、硝酸水銀、雷酸水銀等があります。有機水銀化合物の種類は非常に多く、酢酸フェニール水銀やアルキル水銀であるメチル水銀、エチル水銀、ジメチル水銀、ジエチル水銀等があり、メチル水銀が「水俣病」の原因物質であることが知られています。

水質基準

一般に水質を保全するための基準としては、公共用水域の水質が、人の健康の保護並びに生活環境保全のために維持されることが望ましい基準として定められる環境基準と、工場又は事業場などから公共用水域に排出される水の水質許容限度として定められる排水基準の二つがあります。水質基準としては、まず水域の利用目的等による環境基準が定められ、この基準を達成するためのものとして排水基準が定められています。

【せ】

生物化学的酸素要求量（BOD:Biochemical Oxygen Demand）

河川などの水の中の汚染物質（有機物）が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要とされる酸素量のことで、単位は一般的に mg/l で表します。この数値が大きくなれば、その河川などの水中には汚染物質（有機物）が多く、水質が汚濁されていることを意味します。

生活環境項目

水質汚濁物質の中で、生活環境に悪影響を及ぼすおそれがあるものとして定められた pH 、BOD 、COD 、SS 、DO 、大腸菌群数、全窒素、全りん、n-ヘキサン抽出物質及び亜鉛の項目をいいます。

生態系サービス

生物や生態系に由来した人類に利益となる機能のことです。栄養や土壌形成などの基盤サービス、食品や燃料などの供給サービス、気候や洪水制御などの調整サービス、レクレーションや知的・文化的要素の文化サービスに大別され、生物多様性に支えられた生態系が、人類に多大な利益をもたらすことを理解するために用いられています。

生物指標

化学的酸素要求量（ COD ）のような理化学的な指標に対して、どのような生物が生息しているかを調べることにより、水質の状況を知る指標のことをいいます。水のきれいさにより生息する生物が異なることから、生息している生物を調べることにより水質の状況を総合的に知ることができる特色があります。

生物多様性

生きものたちの豊かな個性とつながりを表す言葉です。地球上の生きものは 40 億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、 3,000 万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という 3 つのレベルで多様性があるとしています。

戦略的環境影響評価

（SEA : Stragetic Environment Assessment）

事業は、概念的には、政策段階、計画段階、事業段階の順に意思決定がなされます。環境影響評価法及び沖縄県環境影響評価条例における環境影響評価は、事業段階において、「事業の実施に当たりあからじめ行う」もので、「事業アセスメント」と言われています。

これに対し、戦略的環境影響評価は、政策段階、計画段階での意思決定における環境影響評価を確実なものとする体系的なプロセスのことを言い、特に計画段階で行うものを計画アセスメントと言います。その目的は、意思決定のできるだけ早い適切な段階で、経済的・社会的な配慮と同時に、環境の配慮が十分に行われ、その結果適切な対策が取られることを確実にすることです。

国や沖縄県においては、戦略的環境影響評価の制度化に向けた検討を進めておりますが、東京都や埼玉県、京都市などの先進的な制度・事例も見られます。

【そ】

総量規則

大気汚染や水質汚濁の防止を図るため、工場又は事業場が集合し、ばい煙や汚水等の発生（排出）施設ごとの排出規制では環境基準の達成が困難である場合に、地域全体の排出総量を削減するために用いられる規制手法のことをいいます。地域を指定し、総量削減計画に基づいて、個々の発生施設ごとの排出基準又は排水基準より厳しい基準が設けられます。

【た】

大腸菌群数

大腸菌群とは、乳糖を分解し酸とガスを形成する好気性又は通性嫌気性の菌の総称です。大腸菌群が水中に存在するということは、多くの場合、その水が人畜のし尿などで汚染されている可能性を示すものであることから、水質汚濁の指標とされています。

WECPNL（Weighted Equivalent Continous Perceived Noised Level）

ある場所における1日あたりの航空機騒音の大きさを表す単位で、1機ごとの騒音レベルだけでなく、飛来時間や機数をも考慮したものです。まず1日に飛来した航空機の騒音レベルをすべてパワー平均し、更に時間帯別機数について、夕方に飛来した機数を3倍、夜に飛来した機数を 10 倍（同じ大きさの騒音でも昼と夜とでは、夜の方がうるさく感じられる）にして計算します。

［計算方法］

$$\mathrm{WECPNL} = \overline{\mathrm{dB\,(A)}} + 10\,f\,N - 27$$

$\overline{\mathrm{dB\,(A)}}$ ： 1日に飛来した飛行機の騒音レベルを全てパワー平均したもの

N：飛来時間ごとに補正された機数

$N : N_2 + 3\,N_3 + 10(N_1 + N_4)$

N_1：0時～7時に飛来した機数

N_2：7時～ 19 時に飛来した機数

N_3：19 時～ 22 時に飛来した機数

N_4：22 時～ 24 時に飛来した機数

短期的評価〈大気汚染〉

1時間値、1日平均値、あるいは8時間平均値について測定結果を環境基準に比較して行う評価方法で、高濃度の出現状況の把握に利用されます。

【ち】

地球温暖化

人間活動によって二酸化炭素、メタン、フロン等の温室効果ガスが人為的に大量に排出されることで、大気中の温室効果ガス濃度が上昇して温室効果が強まり、その結果気温が上昇し、人類を含む生態系がその基盤をおいている気候が変動することをいいます。

窒素酸化物（NOx）

大気汚染物質としての窒素酸化物は、一酸化窒素や二酸化窒素が主です。工場の煙や自動車排気ガスなどの窒素酸化物の大部分は一酸化窒素ですが、これが大気環境中で紫外線などにより酸素やオゾンなどと反応し二酸化窒素に酸化します。そこで、健康影響を考慮した大気環境基準は二酸化窒素について定められていますが、排出基準は窒素酸化物として基準値が決められています。

長期的評価（大気汚染）

主として1年を単位とする平均的な評価で、汚染の実態や推移を把握するものです。なお、一般に環境基準の達成、未達成をいう場合は長期的評価を指しています。

【て】

DO（Dissolved Oxygen）

→「溶存酸素量」の項を参照

底質

生物をとりまく外囲物質（媒質）のうち固体の場合をいいます。陸上では岩石や土壌、水界では汚泥、岩石が代表的な底質であり、底質は生物の分布を左右する最も重要な環境要因の一つです。

典型７公害

環境基本法第２条第３項に定義されている、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の７種類の公害のことを指します。ただし、近年は低周波騒音、日照、通風阻害、光害などの典型７公害に含まれない公害が増加傾向にあります。

【と】

特定施設

公害規制法令で規制の対象になっている施設で、汚水を排出する施設、大気汚染物質や騒音・振動を発生する施設等をいいます。

特定フロン

1985 年３月、オゾン層の保護に関するウィーン条約が採択され、同条約に対する「モントリオール議定書」が 1987 年９月に採択され、1989 年１月に発効しました。この議定書ではフロン 11 、フロン 12 、フロン 113 、フロン 114 、フロン 115 の５種類が規制の対象となり、1998 年までに 1986 年の消費量の 50 ％に削減することが決まり、後に 1992 年 11 月の国連環境計画のコペンハーゲン会議で 1996 年に全廃することが採択されました。この５種類のフロンを特定フロンと呼んでいます。

都市・生活型公害

自動車の排出ガスによる大気汚染、自動車の騒音、生活排水等による河川の汚濁、地下水の過剰汲み上げ等による地盤沈下など都市における生活活動や産業活動が環境に過度の負荷をかけることによって発生する公害のことです。

トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン

トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンは、不燃性で水に溶け難く、エーテル、エタノール等の有機溶剤によく溶け、脱脂力が強く、金属部分の脱脂洗浄、半導体のプリント基盤及びドライクリーニングの洗浄剤などに利用されています。肝機能障害や中枢神経障害等を起こし、発がん性の疑いもあります。

公共用水域の水質汚濁に係る環境基準は、トリクロロエチレン 0.03mg/l 以下、テトラクロロエチレン 0.01mg/l 以下、1,1,1-トリクロロエタン１ mg/l 以下と定められています。

【な】

ナショナル・トラスト活動

開発等による環境破壊から貴重な自然環境や文化遺産等を保存するために、寄付を募って土地や建造物を取得する等の方法によってこれらを保存・管理・公開する市民運動。19 世紀末のイギリスで始まり、現在日本各地でも広く行われています。

鉛（Pb）

青みを帯びた、あるいは銀白色の軟らかい金属である。水や海水に耐食性があります。

人体に対する影響としては、１日 0.5mg 以上の摂取で毒性を示し、その 1000 倍の 0.5 g以上の摂取で致命的な障害を起こすといわれている。水質汚濁に係る環境基準値は 0.01mg/l 以下と定められています。

【に】

二酸化硫黄（SO_2）

→「硫黄酸化物(SOx)」の項を参照

二酸化窒素（NO_2）

→「窒素酸化物(NOx)」の項を参照

環境基準は、「１時間値の１日平均値 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下」であることとなっています。

日平均値の２％除外値（大気汚染）

１年間に得られた１日平均値を整理し、高い方から２%の範囲にある測定値（ 365 日の１日平均値があれば７日分のもの）を除外した後の最高値で、二酸化硫黄（ SO_2）、一酸化炭素（ CO ）及び浮遊粒子状物質（ SPM ）の長期的評価に用いられます。

日平均値の年間 98 ％値（大気汚染）

1 年間に得られた 1 日平均値を整理し、低い方から 98%に相当する値（ 365 日の１日平均値があれば 358 番目の１日平均値）で、二酸化窒素（ NO_2）の長期的評価に用いられます。

人間環境宣言

1972 年スウェーデンのストックホルムで開催された人間環境会議で採択された宣言で、「人間環境の保全と向上に関し、世界の人々を励まし、導くため共通の見解と原則が必要である」として人種差別排除、天然資源の適切な保護等 26 項目の原則を表明しました。

【ね】

熱帯林

概ね南北回帰線にはさまれた地域に分布する森林で、熱帯多雨林、熱帯季節林、サバナ林に大別されます。地球の肺として酸素供給、二酸化炭素の固定化等地球規模での環境保全・調整機能を有するすとともに極めて多種多様な動植物を育む生態系でもあ

ります。地球上の陸地面積の約6％にすぎませんが地球上の生物種の少なくとも半分は熱帯林に生育、生息していると言われており、未知の遺伝子資源の宝庫でもあります。

年平均値（大気汚染）

1年間に測定した1時間値の和を測定時間で除した値です。

ただし、年間の測定時間が 6,000 時間未満のものは参考にとどめています(1年間は 8,760 時間)。

【の】

ノルマルヘキサン抽出物質

ノルマンヘキサン抽出物質とは、水の中に含まれる比較的揮発しにくい炭化水素、炭化水素誘導体、グリース油状物質等を総称しています。通常「油分」といわれており、鉱油及び動物油等の油分の量をあらわす指標として使用されています。

【は】

廃棄物

廃棄物とは、その物を占有している者が自ら利用し、又は他人に有償で売却することができないため不用となった物をいい、ごみ、し尿などの固形状又は液状のものをいいます。

ばい煙

大気汚染防止法では、次の物質をいいます。

(1) 燃料等の燃料に伴い発生するいおう酸化物
(2) 燃料等の燃焼又は電気炉等の使用に伴い発生するばいじん
(3) 物の燃焼、合成、分解等の処理に伴い発生するカドミウム及びその化合物、塩素及び塩化水素、弗素、弗化水素及び弗化珪素、鉛及びその化合物、窒素酸化物

ばいじん

工場又は事業場から発生する粒子状物質のうち、燃料その他の物の燃焼等に伴い発生する物質をいいます。

バーゼル条約

UNEP が 1989 年3月に採択した「有害廃棄物の越境移動及びその規制に関するバーゼル条約」のことです。有害廃棄物の越境移動の原則禁止、自国内処分の原則、越境移動の際の事前通報義務違法な越境移動の場合に廃棄物発生国が再輸入の措置をとること、開発途上国への技術協力などのための基金の設立などを主な内容としています。

８時間平均値（大気汚染）

8時間平均値とは、1日を0時 00 分～8時 00 分、8時 00 分～ 16 時 00 分、16 時 00 分～ 24 時 00 分と8時間ごとに3つの時間帯に区分したとき、それぞれの時間帯（8時間）における1時間値の平均値であり、1日につき3個存在します。

【ひ】

pH（水素イオン濃度）

溶液の中の水素イオン（H^+）の濃度を pH という記号で表示します。pH は0から 14 で 7.0 を中性とし、酸性の場合は7より小さく、アルカリ性では7より大きい。

PCB（Polychlorinated biphenyls）

ポリ塩化ビフェニルと称される。不燃性で化学的にも安定であり、熱安定性にも優れた物質でその使用範囲は、絶縁油、潤滑油、ノーカーボン紙、インク等多数にわたっています。カネミ油事件の原因物質で、皮膚障害や肝臓障害を引き起こし、昭和 47 年以降製造は中止されています。

ppm（Parts Per Million）
ppb（Parts Per Billion）

濃度を表す単位で、ppm は 100 万分の1、ppb は 10 億分の1を示します。例えば、1 ppm は1 mg/kg 、1 mg/l 、1 cm^3/m^3 を意味します。

PPP（Polluter Pays Principle）

環境汚染防止の費用は汚染者が支払うべきであるとの考えであって、一般的には汚染者負担の原則といわれています。

BOD（生物化学的酸素要求量、Biochemical Oxygen Demand）

→「生物化学的酸素要求量」の項を参照

微小粒子状物質（PM2.5）

粒経 2.5 μm以下の大気中に浮遊する粒子状物質で、呼吸器疾患、循環器疾患及び肺がんの疾患に関して総体として人々の健康に一定の影響を与えていると言われています。ディーゼル車の排気ガスなどから発生します。

環境基準は「1年平均値が 15 μ g/m^3 以下であり、かつ、1日平均値が 35 μ g/m^3 以下であること。」となっています。

【ふ】

富栄養化

湖水や海水に流入する工場排水等により水の中の窒素、りんなど栄養塩類の濃度が高くなり、植物プランクトン等の異常増殖（アオコ等の発生）をもたらす現象をいいます。

複合汚染

2種類以上の汚染物質が共存して、人の健康や生活環境に相加的、相乗的な影響を及ぼすことをいいます。

浮遊物質量（SS：Suspended Solid（懸濁物質））

水中に浮遊している物質の量をいい、一定量の水をろ紙でこし、乾燥させてその重量を測ることとされており、数値(mg/l)が大きいほど水質汚濁の著しいことを示しています。

浮遊粉じん

大気中の粒子状物質は、「降下ばいじん」と「浮遊粉じん」に大別され、さらに「浮遊粉じん」は、環境基準の設定されている粒径 10 μ m 以下の浮遊粒子状物質とそれ以外に区別されます。

浮遊粒子状物質（SPM：Suspended Particulate Matter）

大気中に浮遊している 10 μm以下の粒子状物質で、代表的な「大気汚染物質」のひとつ。環境基準は「1時間値の1日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、1時間値が 0.20mg/m³ 以下」と定められています。発生源は、工場のばい煙、自動車排出ガスなどの人の活動に伴うもののほか、自然界由来（黄砂、火山、森林火災など）のものがあります。

粉じん

大気環境中に浮遊する微細な粒子状の物質の総称として呼ばれる場合と、大気汚染防止法が大気汚染物質の発生源を規制するために定義しているものとがあります。また、労働安全衛生法は作業環境における粉じんによる健康被害を防止する規制を行っています。大気環境中の粉じんには粒径、成分のさまざまなものがあり、降下ばいじんは 10 μ m 程度かあるいはそれ以上で比較的粒子が大きく、人の肺機能に影響すると考えられている 10 μ m 以下のものは浮遊粒子状物質と呼ばれています。

【へ】

閉鎖性水域

地形等により水の交換が少ない内湾、内海、湖沼等の水域をいいます。栄養塩類が流入すれば富栄養化が進みやすい水域です。

【ほ】

ポリ塩化ビフェニル（PCB：Polychlorinated Biphenyls）

→「PCB」の頁を参照

保全利用協定制度

沖縄県において環境保全型自然体験活動（いわゆる「エコツアー」に該当）に係る案内及び助言を業として行う物（以下「事業者」という。）が、環境保全型自然体験活動を行う場所の保全を目的として策定・締結するルールのことで、その内容が適切なものであれば、沖縄県知事がこれを適当なものとして認定することができる制度です。同制度は、沖縄振興特別措置法に盛り込まれている制度であり、地域の資源の保全と利用に責任がもてる事業者の活動を支援することで、エコツーリズムの理念に沿った自然体験活動が促進されることを目的としています。

【や行】

有機溶剤

工場の生産工程において、有機溶剤は広範囲に使用されており、例えば、塗装工程におけるトルエン、キシレン等のシンナー類、金属の脱脂工程におけるトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等の塩素系有機溶剤等があります。蒸発し、気体として排出される窒素酸化物とともに光化学スモッグの原因となり、また、それ自体有害性もあり、悪臭の原因となる物質も含まれています。

有機りん

りん有機物の化合物の総称で、毒性のものが多い。パラチオンは、その代表的なものです。水質汚濁防止法では、有機りんのうち4物質（パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン、EPN）を、人の健康に係る被害を生ずるおそれがある物質と定め、その許容限度は1 mg/l 以下と定められています。

USLE 式(Universal Soil Loss Equation)

土壌流出を予測する式としてアメリカ農務省で開発され、広く国内でも一般的に用いられています。降雨係数(R)、土壌係数(K)、地形係数(LS)、保全係数(P)及び作物係数(C)の5つの係数の積から算出され、地域におけるこれらの係数を調査して求めることにより赤土等流出量(A)を予測します。

A［t／ha／年］＝R・K・LS・P・C

溶存酸素量（DO：Dissolved Oxygen）

水中に溶けている酸素量のことをいい、溶存酸素は水の自浄作用や水中の生物にとって必要不可欠なものです。溶解量を左右するのは水温、気圧、塩分などで、汚染度の高い水中では消費される酸素の量が多いので溶存する酸素量は少なくなります。きれいな水ほど酸素は多く含まれ、水温が急激に上昇したり、藻類が著しく繁殖するときは過飽和の状態になります。

【ら行】

ラムサール条約

正式には「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1975 年に発効しました。イランのラムサールで採択されたことからこう呼ばれます。特に水鳥に注目し、その生息地として国際的に重要な湿地及びその動植物の保全を進めることと、湿地の適正な利用と進めることを目的としています。

日本は 1980 年に加入し、2012 年現在、全国で 46 カ所の湿地が登録されております。沖縄県内では、1999 年に漫湖（那覇市・豊見城市）、2005 年に慶良間諸島海域（渡嘉敷村・座間味村）と名蔵アンパル（石垣市）、2008 年に久米島の渓流・湿地（久米島

町）、2012 年に与那覇湾（宮古島市）が登録され、北海道に次ぎ全国でも登録湿地の多い県となっております。

リモートセンシング

人工衛星や航空機から地球表面を調査すること。農業、林業、土地利用、地下資源、水資源、防災、水産、環境保全など広範な分類にわたって重要な役割を果たしています。リモートセンシングの本来の意味は、直接手をふれないで、離れたところから物体を識別したり、その状態を調べたりすることです。

類型あてはめ（類型指定）

水質汚濁の生活環境項目及び騒音の環境基準については、全国一律の環境基準値が設定されておらず、国において類型別に基準値が示され、これに基づき都道府県知事が河川等の状況や、騒音に関係する地域の土地利用の状況や時間帯に応じてあてはめ、指定していくことをいいます。

【わ】

ワシントン条約（CITES：Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora）

正式には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条例」といい、1975 年に発効しました。野生動植物の国際取引を輸出国と輸入国が協力して規制することにより、絶滅のおそれのある野生動植物の保護を図ることを目的としています。日本は 1980 年に加入し、1987 年に「絶滅のおそれのある野生動植物の譲渡の規制等に関する法律」を試行しました。

13 環境についての問い合わせ先

環境についてのお問い合わせは、県の環境各課、各保健所の担当窓口又は市町村の環境担当課までお願いします。

（１）県の機関

課所名	ＴＥＬ及びＦＡＸ	内容
環境政策課	TEL：098-866-2183 FAX：098-866-2308	環境基本計画に関すること 地球温暖化対策に関すること 環境教育に関すること 環境影響評価制度（環境アセスメント）に関すること 公害紛争に関すること 石綿健康被害救済制度に関すること
環境保全課	TEL：098-866-2236 FAX：098-866-2240	大気汚染に関すること 騒音・振動・悪臭に関すること 赤土等流出防止対策に関すること 水質汚濁に関すること 土壌汚染及び地盤沈下に関すること 化学物質に関すること 放射能調査に関すること
環境整備課	TEL：098-866-2231 FAX：098-866-2235	一般廃棄物に関すること 産業廃棄物に関すること リサイクル対策に関すること ごみの散乱防止に関すること 浄化槽に関すること そ族昆虫の駆除に関すること
自然保護・緑化推進課	TEL：098-866-2243 FAX：098-866-2240	国立公園、国定公園、県立自然公園に関すること 自然環境の保全に関すること 鳥獣の保護及び狩猟に関すること 温泉に関すること 野生動植物の保護に関すること 緑化の推進に関すること
北部保健所	TEL：0980-52-2636 FAX：0980-53-2505	廃棄物処理の監視・指導に関すること 自動車リサイクル法に関すること 浄化槽に関すること そ族昆虫及び衛生害虫の駆除指導に関すること 温泉に関すること 公害の監視及び調査に関すること
中部保健所	TEL：098-938-9787 FAX：098-938-9779	
南部保健所	TEL：098-889-6799 FAX：098-888-1348	
宮古保健所	TEL：0980-72-2420 FAX：0980-72-8446	
八重山保健所	TEL：0980-82-3243 FAX：0980-83-0474	

(2)市町村環境担当部署一覧

No.	市町村名	担当課	電話
1	那覇市	環境部環境保全課	098-951-3229
2	宜野湾市	市民経済部環境対策課	098-893-4411
3	石垣市	保健福祉部生活環境課	0980-82-1285
4	浦添市	市民部環境保全課	098-876-1234
5	名護市	市民環境部環境衛生課	0980-52-1532
6	糸満市	市民部生活環境課	098-840-8124
7	沖縄市	市民部環境課	098-939-1212
8	豊見城市	市民健康部生活環境課	098-850-5520
9	うるま市	市民部環境課	098-973-5594
10	宮古島市	福祉保健部環境保全課	0980-75-5339
11	南城市	市民福祉部生活環境課	098-946-8981
12	国頭村	環境衛生課	0980-41-2101
13	大宜味村	建設環境課	0980-44-3008
14	東村	建設環境課	0980-43-2205
15	今帰仁村	住民課	0980-56-4189
16	本部町	保険予防課	0980-47-5602
17	恩納村	村民課	098-966-1205
18	宜野座村	住民生活課	098-968-8501
19	金武町	住民生活課	098-968-2460
20	伊江村	建設課	0980-49-3162
21	読谷村	生活福祉部健康環境課	098-982-9214
22	嘉手納町	産業環境課	098-956-1111
23	北谷町	住民福祉部保健衛生課	098-982-7033
24	北中城村	生活環境課	098-935-2233
25	中城村	住民生活課	098-895-2131
26	西原町	町民生活課	098-945-5018
27	与那原町	農水環境安全課	098-945-4688
28	南風原町	総務部住民環境課	098-889-1797
29	渡嘉敷村	民生課	098-987-2322
30	座間味村	総務・福祉課	098-896-4045
31	粟国村	民生課	098-988-2016
32	渡名喜村	民生課	098-989-2317
33	南大東村	福祉民生課	0980-22-2036
34	北大東村	福祉衛生課	0980-23-4055
35	伊平屋村	住民課	0980-46-2142
36	伊是名村	建設環境課	0980-45-2004
37	久米島町	環境保全課	098-985-7126
38	八重瀬町	住民環境課	098-998-8203
39	多良間村	住民福祉課	0980-79-2623
40	竹富町	自然環境課	0980-82-6191
41	与那国町	まちづくり課	0980-87-2241

皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

「環境白書【平成２６年度報告】」をお読みいただきありがとうございました。
今後の環境白書作成の参考にさせていただきたいと思いますので、お気づきの点や、ご意見、ご感想等がございましたら、郵便、FAX、e-mail 等で下記のあて先までご送付ください。

【あて先】　〒900-8570　那覇市泉崎１－２－２
沖縄県環境部環境政策課
TEL：098-866-2183　FAX：098-866-2308
e-mail：aa025003@pref.okinawa.lg.jp

『沖縄県環境白書』は、沖縄県 環境政策課のホームページでもご覧になれます。
沖縄県庁トップページ　http://www.pref.okinawa.jp/
→　組織で探す　→　環境部 環境政策課

環境白書【平成26年度報告】

平成28年２月
編集発行　沖縄県環境部環境政策課
〒900-8570　那覇市泉崎１－２－２
TEL：098-866-2183

本白書は、再生紙を使用しています。